

<情報共有・参画・協働取組実績シート>

テーマ 地域の健康づくり(健康まちづくり)

資料1-2  
H25.7.11

○:参画(PI)の取組(情報提供を含む。) ●:協働の取組

	事業全体のスケジュール(予定)			① 参画・協働の内容	② 参画の対象者 協働の相手方	③ 参画(PI)の手法 協働の形態	④ 参画による意見の反映 協働の効果	課題と改善点
	本庁の取組	区役所の取組	校区毎の取組					
構想・計画の前決定	働きざかり世代の生活習慣病改善を目的とした健康づくりのモデル事業を実施 H20、21年度 河内校区 H22、23年度 5保健福祉センター管内各1校区	(西保健福祉センター)生活習慣病改善モデル事業で実施		●(西保健福祉センター)モデル地域(河内校区、花園校区)と協力をしながら健康まちづくり事業を実施	●河内校区健康づくり・子育て支援ネット ●花園校区自治協議会健康づくり部会	●事業協力	●モデルの実効性を確認することができた。 ●活動当初は行政主体であったが、活動を重ねるうちに主体的な活動に移行した。 ●活動を検証、評価を繰り返し、事業の推進に必要な団体を加えていくなど、校区全体のまちづくりに広がった。 ●コミセンまつりや小学校のバザーなど既存の活動に健康づくりの視点を加えた無理のない活動であることが、継続的な実施につながった。 ●校区自治協議会を母体とした活動は、各団体のリーダーを通して校区住民に広く事業の浸透を図ることができるとともに、あらゆる団体の協力を得られることがわかった。このことから、本事業を校区自治協議会を母体にする方針につながった。	
事業の構想段階	職員向け事業説明会の実施 (モデル事業のノウハウを活かし、まちづくりの拠点である区役所の関係課が連携して全校区において取り組むことの確認)	区役所の推進体制の構築 ・保健子ども課健康まちづくりPJチームの設置 ・区まちづくり推進会議の設置(座長:区長、全課長及び西税務課長、農業委員会西区分室長含む) ・まちづくり推進会議の下に区健康づくり部会を設置(座長:区次長、全課及び西税務課、農業委員会西区分室) ・健康づくり部会実働チーム編成(まちづくり推進課、まちづくり交流室、保健子ども課) ・区役所全体で働きかけることから、職員対象に事業及び健康づくり学習会 ・区の概要、特徴の把握を行い、区役所の健康まちづくりの目指す姿の検討 ・健康づくりを支えるボランティア「健康さるく熊本西」及び医療機関等との連携		○西区校区自治協議会長会議(24.5.18)・西区町内自治会長会議(24.5.29)で説明 ○西区自治協議会連絡会及び西区町内自治会長研修会(共に24.8.20)で説明	○校区自治協議会会長及び町内自治会長	○事業説明・地域説明会	○健康づくりがまちづくりにつながることを理解してもらえた。 ○校区のまちづくりの核となる地域リーダー全員に区長が区をあげて取り組む方針を説明し、担当課から事業について説明したことで区全体で共有することができ、区のまちづくりへの積極性を感じてもらうことができた。 ○区全体、さらには市全体で取り組む事業であることの理解とともに、各校区で説明する機会の設定の協力につながった。	
事業の計画段階	健康まちづくり推進会議の設置 (区役所及び本庁の関係局次長・課長計28名)	・区まちづくり推進会議及び区健康づくり部会会議の実施						
		・校区等への説明用パンフレット及びパワーポイント作成 ・区データ整理	・校区データ整理 ・校区説明用資料作成					
		・地域づくりリーダー(校区自治協議会長、自治会長等への説明)への働きかけ	・地域づくりリーダーへの説明及び働きかけ	○校区自治協議会(24.6.12)、民生児童委員協議会等で説明 ・事業概要 ・校区の人口構成や高齢化率等の概況 ・特定健診の分析及びがん検診の受診率等校区健康データの提示	○校区自治協議会、民生委員等	○地域説明会 ○パブリックミーティング	○校区の大小に関わらず、均等な関わりが得られることで区役所の期待感が高まった。 ○多くの質問があり、事業の対象者に対して納得されるまで意見交換を行ったことで、協力を得られることになった。 ○自分たちだけでなく、住民みんなに知らせたい内容であるという意見が出た。 ○若い者は少ないため、年齢を限定しない取組にしようという意見がでた。 ○区役所までの距離や市役所機能の近さ、地域役員と職員との交流の頻度により、役所を身近に感じてもらえるようになった。	
			○校区自治協議会長と住民説明会に向けた協議を3回程度実施	○校区自治協議会長	○パブリックミーティング	○校区住民に知らせる機会を設定することにつながった。 ○対象年齢については、校区の実情に合わせて進める事を相互に理解した。 ○会長への住民の信頼が厚いため、会長の理解を得られたことが、取組の推進に大きな影響となった。		

○: 参画 (PI) の取組 (情報提供を含む。) ●: 協働の取組

	事業全体のスケジュール (予定)			① 参画・協働の内容	② 参画の対象者 協働の相手方	③ 参画 (PI) の手法 協働の形態	④ 参画による意見の反映 協働の効果	課題と改善点
	本庁の取組	区役所の取組	校区毎の取組					
事業の計画段階		<ul style="list-style-type: none"> <li>各校区への働きかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区住民への説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町内総会で説明 (24. 6. 24) 全世帯から参加 計43名</li> <li>・事業概要</li> <li>・校区の人口構成や高齢化率等の概況</li> <li>・特定健診の分析及びがん検診の受診率等校区健康データの提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域説明会</li> <li>○パブリックミーティング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康状態のデータ提示等で、従来、松尾3校区まとめてデータを出していたが、各々の校区データを提示してほしいという意見があり、松尾北校区のデータを提示した。それにより、校区の環境や自分たちの生活を振り返ることにつながった。</li> <li>○住民の意見や要望を取り入れて資料等を提示したことで、信頼関係が強まった。</li> <li>○校区の概要を説明する資料の一つとして人口ピラミッドをはじめ校区の現状をわかりやすく示したことは、住民が事業に関心を高めることになった。</li> <li>○総会で事業の理解が得られたことによって、健康づくりを考える組織の結成が承認された。</li> <li>○総会でも多くの質問があり、事業の趣旨を理解してもらえるまで情報交換を行った。</li> <li>○事業への理解が校区全体に浸透し、健康まちづくりの推進体制が整った。</li> <li>○働き盛り世代の人口が少ないため、校区全体で取り組むこととした。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>西区健康づくり部会の校区担当制整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり推進課やまちづくり交流室と一緒に会議等に参加</li> </ul>					
	活動方針の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康さるく熊本西との連携協力協議</li> </ul>						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>区活動方針の決定</li> <li>校区自治協議会を母体に、健康づくりを考える組織を協働で設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区の健康づくりを考える組織の構成について検討・健康部会の立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校区自治協議会役員 (4名) と協議 (24. 7. 23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校区役員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パブリックミーティング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康部会の設立を行った。</li> <li>○構成メンバーを検討するにあたり、働き盛り世代を対象とするため、小学校PTAや婦人会を参加させる意見が出た。</li> <li>○広く校区全体に知らせる方法としては、農区の活用が効果的であるという意見により農区長をメンバーに加えた。</li> <li>○人口・世帯数が少ない特性を活かして、全住民を対象に生活実態調査を実施することが提案された。</li> </ul>	
事業の実施・運用段階	健康まちづくり庁内推進会議の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校区での取り組み</li> <li>区まちづくり推進会議及び区健康づくり部会の実施</li> <li>区職員対象健康づくり学習会の実施</li> <li>健康づくりを考えるボランティア「健康さるく熊本西」との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康部会 (健康づくりを考える組織) の実施 (24. 8. 22)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校区の活動方針や計画の検討</li> <li>【検討内容】</li> <li>・生活実態調査の内容</li> <li>・減塩教育</li> <li>・今後のスケジュール</li> <li>・校区の目指す姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校区自治協議会、健康部会 (自治協議会長、自治会長、農区長、民生委員、婦人会、PTA女性部長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○検討委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○区役所から生活実態調査の案を提示したところ、住民が感じている健康課題を質問に追加してほしいという意見があがった。</li> <li>○生活習慣は子どもの頃から家庭で身につくものであり、大人だけでなく対象年齢を拡大して高校生以上に調査しようという意見が出た。</li> </ul>	
	市政経営会議での取組み状況の報告		<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校への説明 (24. 8. 31、9. 13)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業や生活実態調査実施の説明、協力依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長・教頭・養護教諭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業説明・協力依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校では、日頃から、地域の皆さんや保護者の方と運動会などの学校行事、地域活動等に共に取り組んでおられ、対話の場が多く、調査についても協力を得ることができた。</li> </ul>	
	健康まちづくり職員研修会の実施 テーマ「住民とともにすすめる健康まちづくり」		<ul style="list-style-type: none"> <li>生活実態調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○●生活実態調査票を各世帯へ配布、回収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民</li> <li>●健康部会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケート</li> <li>●事業協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●みかん農業を主産業とする校区であることから、農区の組織を活用した配付回収により、91.3% (対象195名、回収178名) の高い回収率となった。</li> <li>○生活実態調査に回答することで、住民一人ひとりが自分の生活を見直す機会となった。</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活実態調査の集計・分析</li> </ul>					
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生活実態調査の報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部会長へ結果報告</li> <li>○校区福祉まつりで生活実態調査の報告、運動について説明、健康相談 (25. 3. 10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部会長</li> <li>○地域住民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報共有・出前講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会長に生活実態調査結果を提示し、内容 (運動不足や食生活等) 興味を示された。そこで、生活実態調査の結果を住民に知らせる機会として、福祉まつりを活用することになった。</li> <li>○多くの住民が集まる既存の活動を活かしたことで、校区全体の健康づくりを考えるきっかけとなった。</li> <li>○地域のつながりが強く、多世代同居も多い地域であることから、参加者が自分たちの地域の健康状態や生活習慣について、近所の人や家族に伝える効果が得られた。</li> </ul>		

○:参画(PI)の取組(情報提供を含む。) ●:協働の取組

	事業全体のスケジュール(予定)			① 参画・協働の内容	② 参画の対象者 協働の相手方	③ 参画(PI)の手法 協働の形態	④ 参画による意見の反映 協働の効果	課題と改善点
	本庁の取組	区役所の取組	校区毎の取組					
事業の実施・運用段階	市政経営会議での取組み状況の報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>西区健康まちづくりの広報活動                             <ul style="list-style-type: none"> <li>区ホームページの掲載</li> <li>フェイスブックへの掲載</li> <li>報道等を通してのPR</li> <li>区健康まちづくりロゴマーク及びキャラクター“にしまる”を作成、地域でも使用できるよう整備</li> </ul> </li> </ul>		○ホームページやフェイスブック等で、西区健康まちづくりの活動を積極的に広報	○区民	○積極的な広報活動		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>西区健康まちづくり報告会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組み校区として報告</li> </ul>	●取組み状況の報告	●健康部会	●事業協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部会のメンバーと校区保健師と一緒に活動をまとめることで、これまでの活動の振り返り及び次年度の活動方針が共有できた。</li> <li>●校区保健師や区役所と一緒に活動することで安心感を感じ、区役所の熱意を感じてもらえた。</li> <li>●地域、行政両者の関係や、既存の活動を活かした無理のない取組みを両方で報告することで他の校区が新たに本事業に取り組むきっかけをつくった。</li> <li>●報告の評価を受けたことによって、協働を継続していく推進力になった。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本大学政策研究教育センター河村准教授との連携協力                             <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート分析の助言</li> <li>クロス集計等の助言</li> </ul> </li> </ul>						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>区健康づくり部会で進捗状況の把握及び25年度の取組みについて共有</li> </ul>						
			<ul style="list-style-type: none"> <li>校区住民への説明</li> </ul>	●町内総会で、前年度の取組報告及び今年度活動予定である集団健診の周知	○地域住民 ●健康部会	●情報共有・情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校区の健康課題に自ら気づき、対策を企画する自主的な活動につながった。</li> <li>●出張型特定健診について、部会長が区役所が作成したリーフレットを使って自らPRされた。</li> </ul>	●農繁期により会議や活動が開催できる期間が制限されるため、計画的な実行に取り組む。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>25年度の重点取組として特定健診及びがん検診の受診率の向上のため、集団健診の推進を検討</li> </ul>	(予定)9月17日出張型集団健診の実施	●実施に向けた企画・運営	●健康部会	●事業協力	●10月からみかん栽培が繁忙になるため、9月に実施したいという提案があった。	
			(予定)簡易食事調査	●個人の食生活についての調査	●健康部会	●事業協力	●昨年度の生活実態調査結果から、味付けが濃いという課題がわかったため、食事についても少し深く調査したいという提案があった。	

## <協働の関係シート>

協働の取組内容

健康まちづくりの取り組み

### 1 協働の取組の目標

「健康づくりを考える組織」が校区の特性に応じた健康づくりを推進し、全ての住民が参加する活動になる

### 2 取組の役割分担

市民		行政	
相手方名	松尾北校区 自治協議会健康部会	課名	保健子ども課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民への情報提供の場の設定</li> <li>・健康部会の設置</li> <li>・健康部会の企画・運営・招集</li> <li>・校区内の各種団体との連絡調整</li> <li>・生活実態調査内容の検討・配付・回収</li> <li>・調査内容報告の場の設定</li> <li>・特定健診受診向上への啓発</li> <li>・集団特定健診実施に向けた校区内の調整</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所の推進体制構築</li> <li>・健康まちづくり事業の説明</li> <li>・校区の概況や健康データ等の提供</li> <li>・健康部会の設置に向けた支援</li> <li>・健康づくり部会等の会議・活動への協力</li> <li>・生活実態調査準備・検討</li> <li>・生活実態調査の集計・分析・報告</li> <li>・健康相談の実施</li> <li>・集団特定健診実施の関係団体等との調整</li> <li>・庁内及び区役所他課との連携</li> <li>・チラシ等の作成</li> </ul>	

### 3 信頼関係の構築

○信頼関係構築のために努力したこと。  
 区をあげての重要な取り組みとして区民に理解していただくために、職員全体で取り組む体制として、区長を中心に全課長による「まちづくり推進会議」、その下部に区次長を座長として全課代表による「健康づくり部会」で推進している。また、実働チームとして地域の窓口となっている「まちづくり推進課」及び対象校区を所管する「まちづくり交流室」とともに地域に働きかけた。

○その効果  
 職員が健康まちづくり事業を通して、区役所全体で区のまちづくりを推進していかなければならないという共通認識をもった。また、区役所全体で取り組むことによって地域には本気度が伝わりとともに、区役所の存在を身近に感じていただくことができた。

---

# 校区単位の健康まちづくり

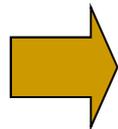
平成25年7月11日  
熊本市健康づくり推進課

---

# 生活習慣病改善モデル事業 (H20~23年度)

## 健康課題

- ・健診受診率の低迷
- ・若い世代からの生活習慣病の増加
- ・学童の肥満傾向 等



H20~21年度

## 生活習慣病改善モデル事業

河内校区において、校区住民との協働で、若い世代の生活習慣病予防を目的とした健康づくり事業に取り組んだ。



H22~23年度

河内校区で実施したモデル事業を、5校区(城東、月出、花園、川口、高平台)に拡大して実施。

## 活動の過程

健診結果やアンケート等から見た健康課題を住民と共有し、どのような姿・暮らし(目標)をめざしていきたいかや、その目標に向けた活動計画を住民と話し合い、個人だけでなく地域ぐるみの健康づくりの取り組みを展開した。

### 川口校区実行委員会の様子(23.1月)



#### <川口校区のめざす姿>

豊かな自然と心の通い合うまちの中で、  
子どもの成長や家族の幸せを願い、  
仕事や趣味を大事に笑顔の絶えない  
健康な暮らしをしたい。

## 川口小親子料理教室(23.7月)



うま?

トマト蒸しパン

ミルクもち

おにぎり

ごまクッキー

地域の農産物を使って、親子で料理教室

## 川口元気フェスタ(23.12.7)



川口小 学校保健委員会での健康ブースの体験  
(保護者も参加!)

子どもの身長・体重・体脂肪測定  
大人は体組成測定

# モデル事業の成果

- 健康への関心の高まり
- 活動を通しての人と人のつながり
- 住民と行政、関係機関の協働
- 健康づくりを考える組織の設立、既存組織の活性化
- 健康に関するボランティア活動の活性化



## 校区単位の健康まちづくり

H24年度～ 全校区展開へ

- 区役所 = まちづくりの拠点
- 健康づくりをテーマとしたまちづくり
- 小学校区ごとに住民協働による取り組み

全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる。

# 校区単位の健康まちづくり (H24年度～)

## ○H24年度の取り組み (健康づくり推進課)

4月 区役所及び本庁の関係課職員への事業説明会  
23年度までのモデル事業の説明と市長講話

5月 健康まちづくり推進会議の設置 (区役所及び本庁の関係局次長・課長 28名)  
情報の共有、推進上の課題の検討

熊本市健康まちづくり活動方針案の作成 (健康づくり推進課及び各区)

8月 経営戦略会議 (市長、副市長、関係局長、区長)  
「熊本市校区単位の健康まちづくり活動方針」の決定

---

**9月 市政経営会議**（市長、副市長、全局長、区長）  
区の取組み状況の報告

**11月 職員研修会**（区役所、本庁関係課職員）  
テーマ「住民とともにすすめる健康まちづくり」

**3月 市政経営会議**  
区の取組み状況の報告

※ 熊本市第6次総合計画のまちづくりの重点的取り組みへ

---

### 西区の目指す姿

金峰望む華のあるまち西区

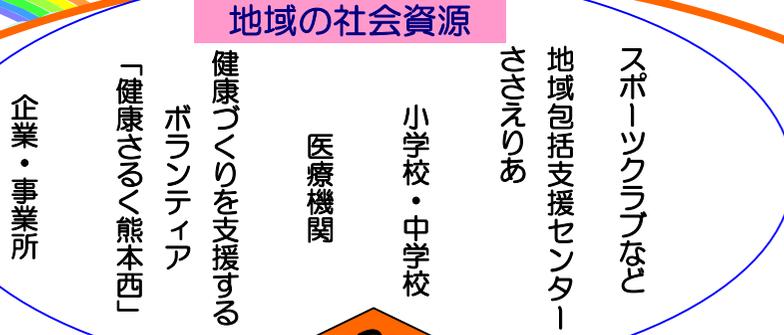
### 西区健康まちづくりの目指す姿

西区の自然の恵みや伝統文化を活かし、区民協働により笑顔あふれる健康なまちをつくる

### 西区のテーマ

若い頃からの生活習慣病予防

## 西区健康まちづくりの取組



健康まちづくりの“**主役は住民**”だよ。



西区健康まちづくりキャラクター“**にしまる**”だよ。  
**24日**はにしまるの日。

西区健康まちづくりキャラクター にしまる

### 西区役所

保健子ども課、まちづくり推進課、まちづくり交流室はじめ区役所全体で取り組んでいます！



0800-779911

## 校区ごとに“健康づくりを考える組織”を設置して推進します！

人口規模や構成、産業、生活環境、文化、伝統など、校区の状況は実に様々です。その地域の特性や健康課題などの実情に合わせた住民の健康づくりを考え、全ての住民が参加する活動を推進していきます。

様々な課題を解決したり、住民同士の親睦や助け合いを通じた活動をしている『校区自治協議会』を母体にし、校区のまちづくりの一つとして活動しています。

若い頃から生活習慣病を予防することは、高齢者の安心や家族ぐるみの健康づくりにつながるため、健康チェックやアンケートをしながら身体の状態や暮らしぶりの特徴や課題を見つけ、住民の協働と参画で健康づくりを進めていきます。



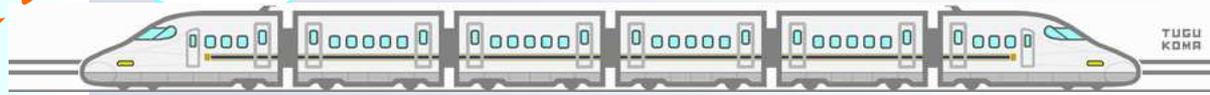
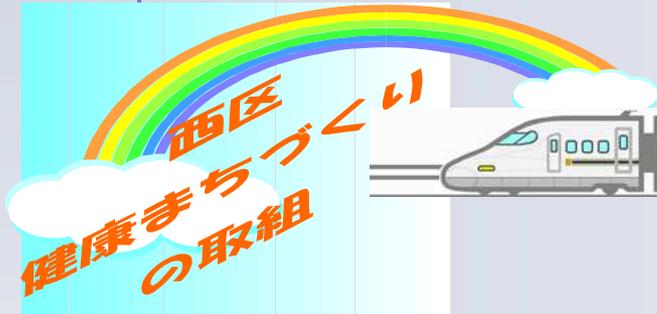
区民の皆様との協働・参画で西区の魅力にさらに磨きをかけます。



H25. 7. 11  
西区健康づくり部会  
事務局 西区役所保健子ども課  
熊本市西区小島2丁目7-1



# 西区健康まちづくり ～市民協働・参画の視点から～



第7回自治推進委員会

平成25年7月11日(木)

熊本市議会 議運・理事会室



西区健康づくり部会  
事務局 保健子ども課  
松尾北校区担当  
主任保健師 東野 広枝



# 西区健康まちづくり の目指すものは何？テーマは？

## 西区の目指す姿

金峰望む  
華のあるまち  
西区

～西区まちづくりビジョン～

## 西区健康まちづくりの目指す姿

西区の自然の恵みや  
伝統文化を活かし、  
区民協働により  
笑顔あふれる健康なまちをつくる

～西区健康まちづくり方針～

## テーマ

生活習慣病予防を中心とした健康づくり

## 対象者

30歳代・40歳代の働き盛り世代を中心に、  
地域全体へ働きかける

対象  
テーマと

背景

- ・ 生活習慣病で亡くなる方が約6割
- ・ 本市の生活習慣病は、30歳代から発症するのが特徴
- ・ **CKD**(慢性腎臓病)が推計約**7.5万人**(成人の**8人**に1人)
- ・ 市民の**3人に1人**はがんで死亡(約**1800人**/年間)



# 西区健康まちづくりの 推進体制は？

## 校区の推進体制

人口規模や構成、産業、生活環境、文化、伝統など、校区の状況は実に様々。地域の特性や健康課題などの実情に合わせた住民の健康づくりを考え、全ての住民が参加する活動を推進するために組織をつくります。

平成25年7月11日現在  
西区16校区中、10校区で設置

健康づくりを  
考える組織



母体：校区自治協議会

校区自治協議会を母体にする理由

校区住民に広く知らせ、住民の声を最も反映できる仕組みであり、住民主役の活動にできる。

広く住民に浸透し、皆が参加する活動にする

継続した地域のまちづくり活動にする

校区住民にいきわたる広報活動をする

既存の活動に健康づくりエッセンスを入れる

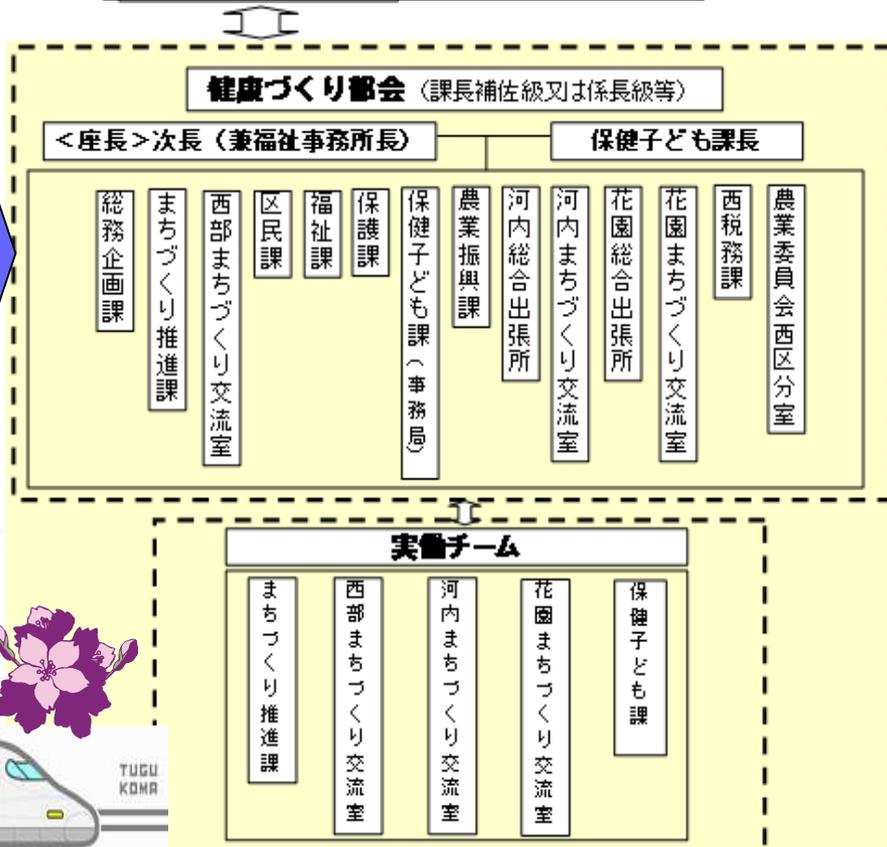


協働  
参画

医療機関や  
健康さるく熊本西など  
社会資源との協働

## 西区役所の推進体制

西区まちづくり推進会議(座長：区長)



TUGU KOMA



# 健康まちづくりの進め方は？

## 協働や参画で使っている手法は？

健康づくりを考  
える組織“で話し  
合いを重ねて進め  
ていきます

### 校区の健康課題ってなんだろう？



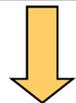
校区の健診状況や健康データを見てみましょう！

### 生活実態や生活習慣はどんな感じ？



住民の意見や現状を聴くために、アンケートや住民へのインタビューなどを行い、どんな課題があるか把握します。

### 校区で目指したい暮らしを決めましょう！



地域住民がずっと健康で暮らしていくためには、どんな目標を掲げ、どんな姿を目指していくか話し合います。

### 地域で何ができるか考えてみましょう！



健康データや住民の声などに基づき、地域でどんなことができるか話し合いながら考えていきます。

### 健康づくり活動をやってみましょう！



年間計画を立て、具体的な活動に取り組みましょう！  
既存の活動に健康の視点を入れましょう！  
できるか話し合いながら考えていきます。

### 活動の評価をしましょう！

## 協働・参画の手法

- 地域説明会
- 出前講座
- パブリックミーティング
- 住民アンケート
- パネル展示
- ニュースレター、パンフレット
- ホームページ・フェイスブック掲載
- フォーカスグループインタビュー
- ワークショップ
- オープンハウス
- Wify (What is important for you?)
- デルファイ法

P 計画 (Plan)  
D 実行 (Do)  
C 評価 (Check)  
A 改善 (Action)

継続的改善

PDCA

Plan  
計画

Do  
実行

Check  
実行

Act  
改善

# 松尾北校区の取組紹介

面積 2.34km<sup>2</sup>  
 人口 229人  
 世帯 75世帯  
 ※ 平成24年4月推計



河内・芳野地区

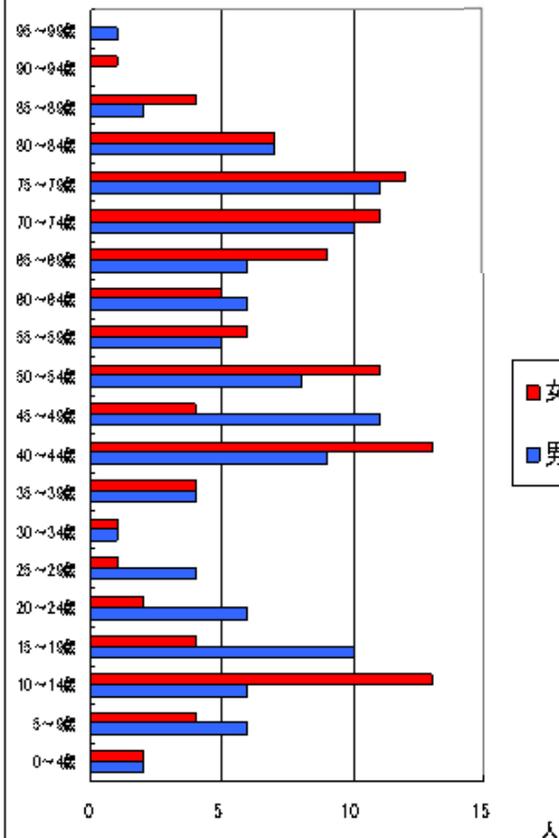
上熊本駅周辺地区

西部地区

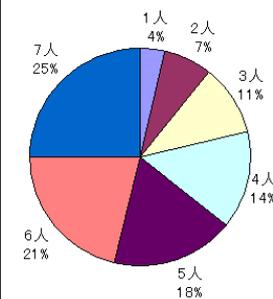
熊本駅周辺地区

三和地区

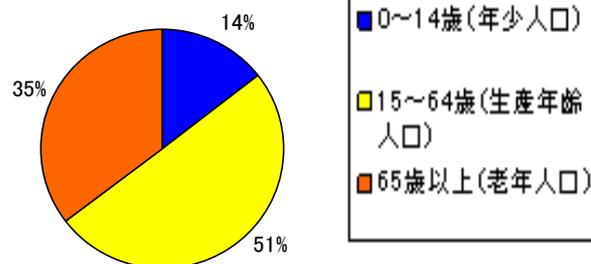
人口分布(5歳刻み) 松尾北H24.4現在



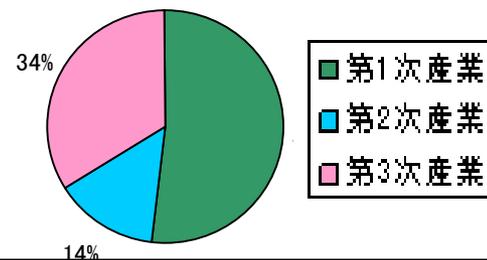
松尾北世帯人員別割合(H24年4月1日)



人口構成比(松尾北)



産業別就業人口割合(松尾北)





# まずは地域づくりリーダーに 理解してもらうために・・・

## ○ 西区地域リーダー会議等での説明(開催の都度実施)

- ・ 校区自治協議会長研修会
- ・ 自治会長研修会 等
- ※ 区長・次長・保健子ども課長等出席

## ○ 松尾北校区リーダーへの説明

- ・ 校区自治協議会、民生児童委員協議会等で説明
  - \* 事業概要
  - \* 校区の人口構成や高齢化率等の概況
  - \* 特定健診及びがん検診の受診率等健康データの提示
- ・ 校区自治協議会長と住民説明会に向けた協議を頻回に実施
  - ※ 校区保健師・保健子ども課長等

## 【市民意見の反映・得られた効果等】

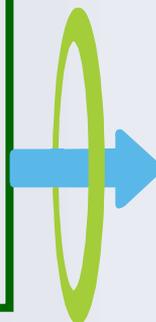
- ・ 区役所までの距離や市役所機能の近さ、地域役員と職員との交流の頻度  
⇒ 区役所が身近に 
- ・ 校区の規模に関わらず、行政からの均等な関わり ⇒ 区役所への期待感
- ・ 会議での密な意見交換 ⇒ 協力体制
- ・ これまで松尾3校区をまとめて松尾校区としてデータ提示 ⇒ 松尾北校区単独のデータ提示への要望
- ・ 会長との度重なる協議 ⇒ 校区住民に知らせる機会を設定



# 校区住民の皆様と 活動を進めるために・・・

## ○ 町内総会 (H24.6.24)での説明

- ・ 全世帯から1人ずつ出席される会議で説明(43名)
- \* 事業概要
- \* 校区の人口構成や高齢化率等の概況
- \* 特定健診及びがん検診の受診率等健康データの提示
- ※ 次長、健康づくり部会で出席



## 【市民意見の反映・得られた効果等】

- ・ 健康状態のデータ提示等⇒校区の環境や自分たちの生活の振り返り  
⇒生活実態調査(アンケート)の提案
- ・ 総会での事業の理解⇒健康づくりを考える組織結成の承認
- ・ 校区全体で納得いくまで事業の理解  
⇒健康まちづくりの推進体制整備
- ・ 人口ピラミッドなど、校区の現状をわかりやすく提示⇒住民の関心の高まり
- ・ 住民の意見や要望を取り入れ、松尾北校区単独の資料提示⇒区役所との信頼関係の強化



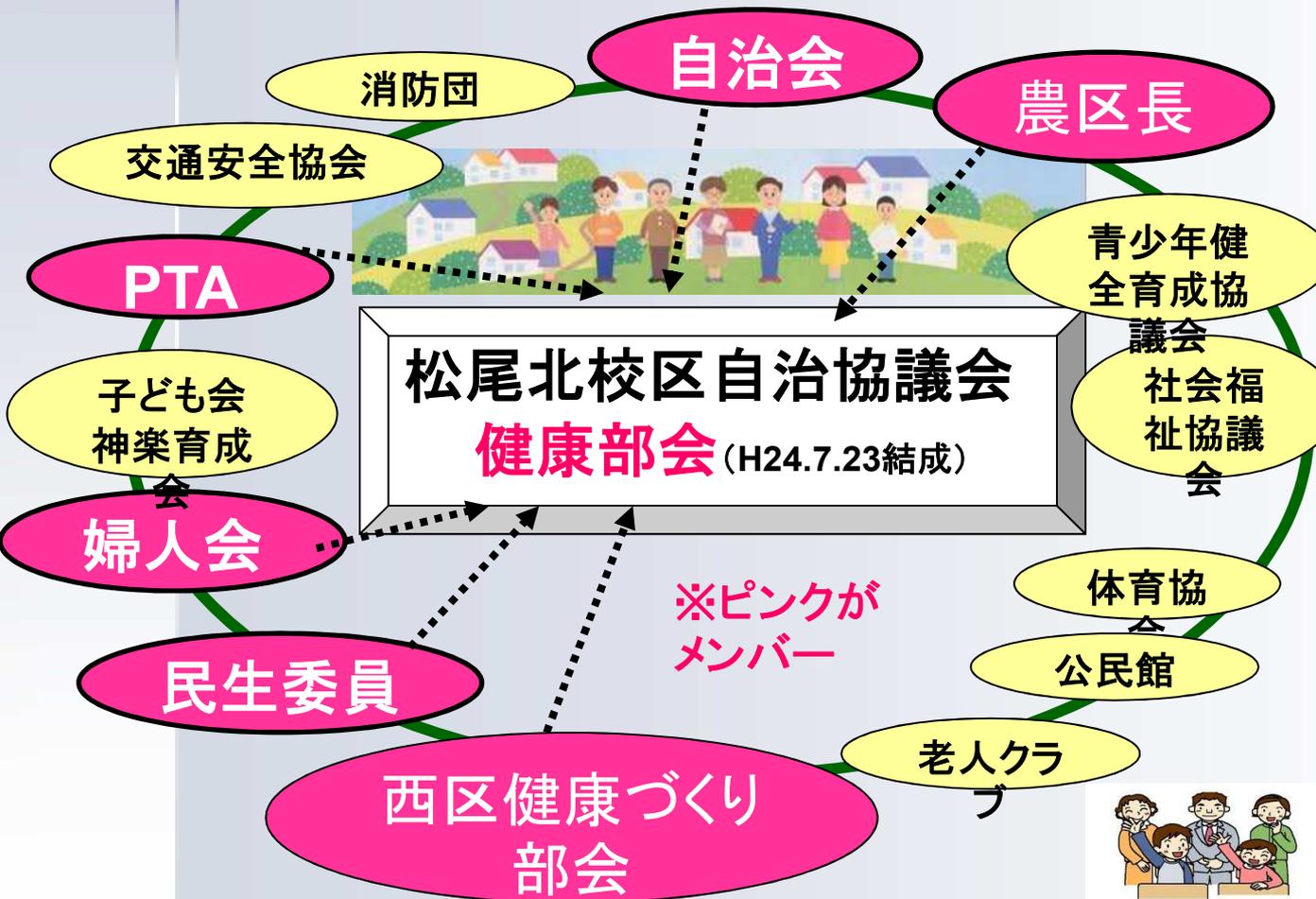
場所 松尾北地域コミュニティセンター



町内総会の様子



# 健康まちづくりを推進する体制 ～健康づくりを考える組織の結成～



【市民意見の反映・得られた効果等】

○ 町内総会等で事業への理解⇒地域住民が健康部会に適切なメンバーを選任

○ 校区全住民への周知・広報の手法⇒松尾北校区の特徴を活かした農区の活用

○ 働き盛り世代を巻き込む工夫⇒PTAや婦人会を選定

○ 町内総会意見の反映⇒生活実態調査実施の決定



西区健康まもづくりキャラクター にしまる

# 住民の暮らしぶりを 知るための生活実態調査を実施



## 生活実態調査(手法:アンケート)

**目的** どんな暮らしをしているか  
どのような生活習慣か

**対象者** 15歳以上(高校生以上)195名

**回答数** 178名

**回収率** 91.3%(校区の特徴)

**実施時期** 平成24年9月初旬

**配付・回収方法** 農区組織の活用

ミカン栽培を主産業とする松尾北校区の特性を活かした広報を行うことによって、90%を超える高い回収率となった。

**住民への結果報告⇒福祉まつりの活用**

秋から冬にかけては、ミカン栽培が繁忙期となることから、作業が落ち着いた3月に毎年”福祉まつり”が開催。住民が多く集まるこの既存の活動を活用して結果を報告。

## 【市民意見の反映・得られた効果等】

○ 区役所が作成したアンケート案を提示⇒部会のメンバーが感じている健康課題の追加

⇒生活習慣は子どもの頃から家庭で身につくため、大人だけでなく対象年齢を高校生以上にしようという意見



○ アンケートへの回答⇒住民一人ひとりが自分の生活を振り返る機会

○ 住民自らの健康課題への気づき⇒具体的な活動への取組

○ 住民への報告⇒地域のつながりが強く、多世代同居も多いことから、参加者が近所の人や家族に伝える効果



# 西区健康まちづくり報告会 (H25.2. 24開催) での報告を通して

## ○ 報告書の作成

それまでの活動を振り返り、健康部会メンバーと校区保健師と一緒に資料の作成

## ○ 代表者(副会長)の発表内容

- ・ 区役所の説明を聞いて、校区で取り組むまでの経過と思い
- ・ 健康づくりを考える組織の構成メンバーの工夫
- ・ 生活実態調査の実施について
- ・ 取り組んでよかったことや苦労したこと

## ○ ファシリテーター(熊本大学政策創造研究教育センター河村洋子准教授)からの助言

## 【市民意見の反映・得られた効果等】

○ 部会メンバーと校区保健師と一緒に活動のまとめ⇒活動の振り返りや今後に向けた方針の共有



副会長の  
発表の様子

○ ファシリテーターからの評価⇒活動を進めていく自信

## “ファシリテーターからの評価内容”

- ・ 校区の特徴を活かした活動
- ・ アンケート(生活実態調査回収率の高さ)
- ・ アンケートを実施に伴う校区の健康課題の明確化、住民での共有や生活の振り返り

○ 校区保健師や区役所が一緒になった取り組み⇒安心感や区役所の熱意の実感



西区健康まもづくりキャラクター にしまる

# 住民の暮らしぶりや意見を 反映した活動に向けて



## ○ 特定健診や生活実態調査結果 等を踏まえて気づいたこと

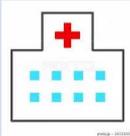
⇒ 健康課題が見えてきた

- ・ 運動不足
- ・ 味付けが濃い
- ・ タバコを吸っている人が多い
- ・ 健診を受診していない人がいる



## ○ 松尾北校区の生活環境を振り返って気づいたこと

⇒ 松尾北校区にないもの・不足するもの

- ・ 医療機関がない 
- ・ 薬局もない 
- ・ 自家用車に頼っている 
- ・ 青壮年期の人口が少ないので  
今後が心配 

## 【市民意見の反映・得られた効果等】

○ 社会資源が少ない環境 ⇒ いつまでも健康であり続けなければならないことの再確認 ⇒ 目指す姿を設定

**決定！松尾北校区の目指す姿**

**互いの健康を思いやり**

**心も体も元気に**

**みんな仲良く暮らせるまち**



○ 校区の健康課題の気付き  
⇒ 出張型特定健診や食事実態調査などの自主的企画

○ 校区住民への周知広報 ⇒ 区役所が作成したリーフレットを使った出張型特定健診のPRを部会長が実施

地域と行政、お互いの得意分野を活かし、できることできないことを補い合いながら、同じ目標に向かって進めています。何度も何度も話し合いを重ね、情報をしっかり共有していく作業はとても時間やエネルギーが必要ですが、信頼関係を築き、活動を推進するためにはとても重要で、地域の皆さんとつながっていくことは楽しみでもあり、色々な活動に波及し、とても助かっています。

区民の皆様にとって、区役所がさらに身近な存在となるように進めてまいります！

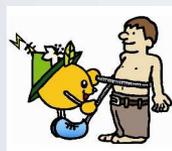
**にしまる**は、西区健康づくり活動のPRに活躍しています！

西区健康まちづくりキャラクター  
“にしまる”です！よろしく  
お願いします♪

2月24日に生まれた“にしまる”  
にちなんで毎月24日は“にしまる”の日です。



西区健康まちづくりキャラクター にしまる



【頭の帽子】  
金峰山、てっぺんの健康アンテナからは、西区のNをデザインした健康情報を発信  
【花】  
梅や桜、みかんや梨など折々の季節に咲く花で華のあるまち  
【顔】  
果樹や農作物などで笑顔と元気  
【足】  
有明海の海苔ひび

ご清聴ありがとうございました。



# 松尾北校区 健康まちづくりの進め方

～松尾北校区健康部会(平成25年7月6日)～

平成25年7月11日

第7回自治推進委員会 資料

西区役所 保健子ども課

目指す姿

互いの健康を思いやり、心も体も元気に  
みんな仲良く暮らせるまち

## 目標

- 1 特定健診を受けよう  
(目標受診率60%)
- 2 食事に関心をもとう
- 3 生活習慣病予防、介護予防

【課題】

特定健診を受けず、健康状態がわからない

食事に問題がありそう。  
(濃い味、油物、)

農作業で疲れて、運動をして

ストレス発散にタバコ・アルコールを利用している人

伝統文化である神楽の継承にみんな



生活実態調査(H24.9)および部会員の意見から  
松尾北地域コミュニティセンター

平成25年度計画

	特定健診	食事	運動
個人でできること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診を受ける</li> <li>・健診の結果がわかる</li> <li>・健診後、生活を見直す</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事調査に答える</li> <li>・自分の食生活を振り返る</li> <li>・学習する(栄養教育)</li> <li>・食生活を改善する</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日+10分歩く</li> <li>・農作業をする</li> <li>・ミニバレー(グループで週1~2回)をする</li> </ul> 
松尾北校区みんなのできること	<p>松尾北校区健康部会を、住民にPRする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張型特定健診の企画</li> <li>・健診を受けるよう声かけ</li> <li>・健診申し込みをとる (国保、社保家族、後期高齢者)</li> <li>・健診の結果を考える 健康づくりの方法を検討</li> </ul> 		
区役所ができること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張型特定健診(25.9.17コミセンにて)実施の調整</li> <li>・健診時、健康相談・栄養相談</li> <li>・健診後のアドバイス(個別指導、学習会等)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事調査準備</li> <li>・食事調査分析・報告</li> <li>・学習会の実施</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供(運動について)</li> </ul> 

# 熊本市健康まちづくり活動方針

平成24年9月

熊 本 市

## <目 次>

第 1	はじめに	1
第 2	活動方針が指すもの	2
1	基本的な考え方	2
2	目標	2
	○成果指標	2
3	期間	3
4	推進体制及び進行管理	3
第 3	各区の活動方針	4
I	中央区	
1	区の概要	4
	(1) 地理的特徴	4
	(2) 基礎データ	4
	(3) 産業の状況	5
	(4) 地域活動団体の状況	5
	(5) 区の特徴	5
2	区の活動方針	6
	(1) 区の目標	6
	(2) 成果指標	6
	(3) 取り組み方針・スケジュール	6
	(4) 推進体制	6
II	東区	
1	区の概要	11
	(1) 地理的特徴	11
	(2) 基礎データ	12
	(3) 産業の状況	13
	(4) 地域活動団体の状況	14
	(5) 区の特徴	15
2	区の活動方針	18
	(1) 区の目標	18
	(2) 成果指標	18
	(3) 取り組み方針・スケジュール	19
	(4) 推進体制	20

Ⅲ 西区	
1 区の概要	2 4
(1) 地理的特徴	2 4
(2) 基礎データ	2 5
(3) 産業の状況	2 5
(4) 地域活動団体の状況	2 6
(5) 区の特徴	2 6
2 区の活動方針	2 7
(1) 区の目標	2 7
(2) 成果指標	2 7
(3) 取り組み方針・スケジュール	2 8
(4) 推進体制	2 8
Ⅳ 南区	
1 区の概要	3 2
(1) 地理的特徴	3 2
(2) 基礎データ	3 2
(3) 産業の状況	3 3
(4) 地域活動団体の状況	3 3
(5) 区の特徴	3 4
2 区の活動方針	3 5
(1) 区の目標	3 5
(2) 成果指標	3 5
(3) 取り組み方針・スケジュール	3 5
(4) 推進体制	3 6
Ⅴ 北区	
1 区の概要	4 1
(1) 地理的特徴	4 1
(2) 基礎データ	4 1
(3) 産業の状況	4 2
(4) 地域活動団体の状況	4 2
(5) 区の特徴	4 3
2 区の活動方針	4 4
(1) 区の目標	4 4
(2) 成果指標	4 4
(3) 取り組み方針・スケジュール	4 4
(4) 推進体制	4 4

## 第1 はじめに

- ・本市では、熊本市第6次総合計画において「生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健・福祉の充実」を掲げ、「健康くまもと21基本計画」に基づき、健康づくり活動の支援、健康に関する情報提供、健康教育、更には相談事業や各種健康診査のほか、乳幼児期から高齢期までの健康を保持増進するために、各世代に応じた健康的な生活習慣の実践を支援しています。
- ・このような中、若い世代からの生活習慣病対策に重点を置いた取り組みとして、市民との協働により、平成20年度から生活習慣病改善モデル事業を実施してきました。
- ・その結果、住民意識が高まり、地域の中に健康づくり組織ができたほか、減塩食の勉強会など健康の視点が盛り込まれた地域の催しが開催されるなど、校区全体での健康づくり活動につながっています。
- ・「健康づくり」は、一般的には、個人の意識に拠るところが大きいものと考えられています。しかしながら、個人の健康づくりを実践、継続していくためには、人と人とのつながりを強め、お互いに支えあい、地域の健康課題を考える場などの環境整備も必要であり、これには地域活動の拡がりや、各種団体の活性化につながる「まちづくりの要素」が多く含まれています。
- ・そこで、市民一人ひとりの心身の健康は、地域の活力の源との考えから、市民との協働による健康づくりをテーマとしたまちづくり（以下「健康まちづくり」）に全市、全庁的に取り組むこととし、まちづくりの拠点である区役所を中心に、小学校区ごとに、地域の個性や特性等を活かし、地域イベント等に健康の視点を取り入れるなど、誰もが楽しみながら、積極的に参加できる取り組みを市民と協働で企画するなど、地域のコミュニティづくりと一体となった事業の展開を行います。
- ・今回の「熊本市健康まちづくり活動方針」（以下「活動方針」）は、小学校区単位での健康まちづくりを推進していくうえで必要な各区の特性や、地域活動団体の状況等を明らかにするとともに、これらを踏まえた区の目標や成果指標、区の推進体制などの基本的な事項をまとめたものです。
- ・各区においては、この「活動方針」に基づき校区自治協議会等の各種団体等を通じ、地域の健康課題等を住民と共有し、改善に必要な計画づくりや活動等を協働し、校区単位の健康まちづくりを進めてまいります。

## 第2 活動方針が目指すもの

### 1 基本的な考え方

#### (1) 区ごとの推進

政令指定都市ビジョンに掲げる「日本一暮らしやすい政令市くまもと」の実現を目指し、誰もが住み慣れた地域で、健康で暮らし続けることのできるまちづくりに、地域の特色にあった手法で取り組むこととし、そのための活動方針（以下「活動方針」）を区ごとに定めるとともに、区役所内の関係課が協力して取り組む体制を整備します。

#### (2) 小学校単位での活動展開

これまでのモデル事業をベースとしながら、農水産業が盛んな地域や子育て世代が多い地域など、その校区の個性や特性を住民と共有しながら、住民と協働による健康まちづくりの取り組みを展開します。

#### (3) マネジメントサイクル（PDCA）の考えに基づく進行管理

各区及び各校区において、「地域の実態分析」→「活動の計画」→「実施」→「評価」の過程を住民と協働で進め、その過程の繰り返しによる自律的な活動の仕組みを確立します。

#### (4) 全庁的推進

各区における取り組みを全市的、全庁的に推進するために、区役所、本庁関係課による組織を設置するとともに、市政経営会議において進行管理を行います。

## 2 目標

全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる。

### ○ 成果指標

① 健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合

57.8%（H23） ⇒ 65%（H30）

② 自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合

67.6%（H23） ⇒ 75%（H30）

※両指標は6次総合計画の成果指標に準拠することとします。

### 3 期間

この取り組みは、第6次・総合計画との整合性を図る観点から、平成24年度から平成30年度までの7年間とします。

ただし、区の取り組み状況等に応じて、必要な見直しを適宜行います。

### 4 推進体制及び進行管理

#### (1) 区プロジェクトチームの設置

住民と協働し、健康まちづくりのための取り組み等を展開するために、区役所関係課により構成するチームを設置します。

#### (2) 健康まちづくり推進会議の設置及び市政経営会議への報告

区役所、本庁関係課等による推進会議を設置し、課題整理や情報の共有化等を図ります。

また、健康まちづくりの取り組み状況は、全ての局及び区役所の事務事業に影響があることから、市政経営会議へ報告し、情報を共有するとともに、全庁的な進行管理を行います。

## 第3 各区の活動方針

### I 中央区

#### 1 区の概要

##### (1) 地理的特徴



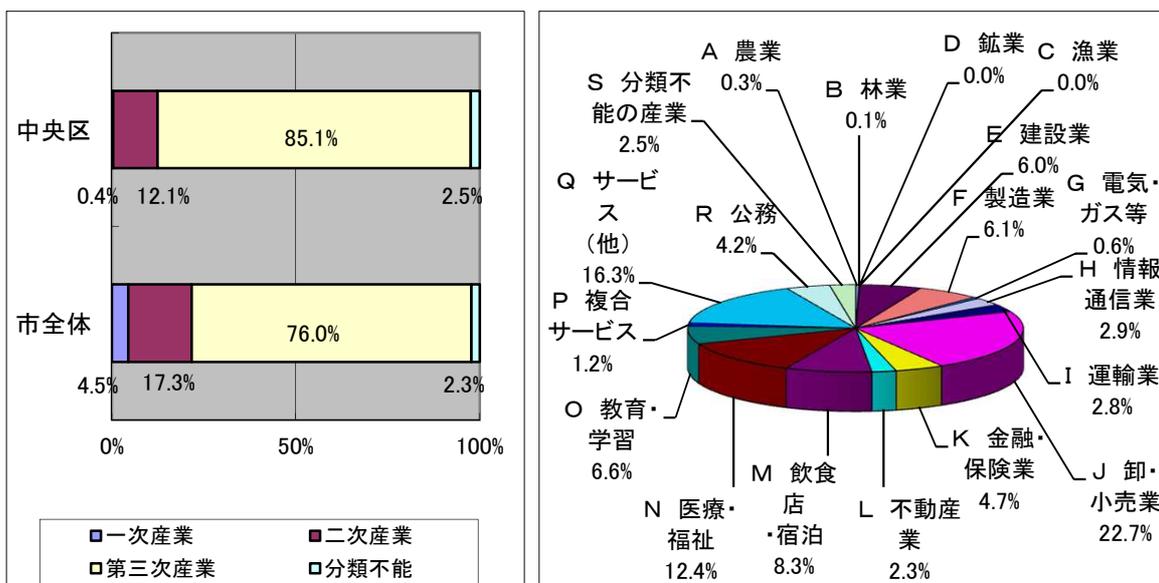
- ・ 区の西部に熊本城があり、中央を坪井川が北から南西に、白川が北東から南西にそれぞれ流れている。熊本城周辺はかつてその2本の川を堀とみたてた城下町であった。
- ・ 現在も上通・下通を中心とした繁華街やオフィス街が熊本市の中心的役割を担っており、そこには熊本市役所（中央区役所を併設）や、路線バス・都市間バスが多数発着する熊本交通センターもある。
- ・ 区の東部には熊本県庁や水前寺成趣園、上江津湖が、区の北東部には立田

##### (2) 基礎データ

		中央区*		熊本市	
面積		24.95	km <sup>2</sup>	389.54	km <sup>2</sup>
世帯数 (H24.4.1)		86,481	世帯	316,797	世帯
人口 (H24.4.1)		171,517	人	724,558	人
年齢3区分	0～14歳 (年少人口) (構成比)	22,217	人 (13.0%)	105,955	人 (14.6%)
	15～64歳 (生産年齢人口) (構成比)	112,607	人 (65.7%)	463,158	人 (63.9%)
	65歳以上 (老年人口) (構成比)	36,693	人 (21.4%)	155,445	人 (21.5%)
校区数		19	校区	92	校区
出生数 (H21年)		1,603	人	6,851	人
出生率 (人口千対)		9.3		10.1	

\* 別紙1 (中央区) 参照

(3) 産業の状況 (平成17年国勢調査より)



(4) 地域活動団体の状況

団体名	団体数	状況等
校区自治協議会	18	
自治会	242	うち休止 1
まちづくり委員会	10	
校区社会福祉協議会	19	
民生委員児童委員協議会	18	五福と慶徳は合同
体育協会	17	
P T A	30	小学校19 中学校11
子育てサークル	23	
高齢者サロン	31	
医療機関	252	病院38 (うち公的病院 2) 診療所214

(5) 区の特徴

- ・熊本城を中心にした市中心地域の人口密度が最も高く、都市集積が進んでいるエリアで、区の中には上通、下通のアーケード街を核とする県内一の中心商店街が広がる一方、周辺地域には旧城下町としての佇まいの街並みも残っており、新旧の調和が保たれている。また、行政機関や企業の本店も多く、交通網の拠点として交通センターからは放射線状にバス網が張り巡らされている。
- ・人口は5つの区で2番目に多い。年齢構成は、年少人口の割合は市平均より低い、生産年齢人口の割合は高い。高齢化率は市平均とほぼ同じである。他の区に比較すると1世帯当たりの世帯人口が少なく、また単身世帯が多い。さらに高齢者の単身世帯は、中央区が全体の約3割を占めている。
- ・産業の特徴としては、第1次産業（農林漁鉱業）が0.4%、第2次産業（建設、製造業等）が12.1%で少なく、第3次産業（卸・小売業、サービス業等）が85.1%と多くを占めている。熊本市の商店街のうち約7割が中央区に集中している。
- ・医療機関が多く、恵まれた医療環境にある。また大学や高校等教育機関も多いエリアである。

## 2 区の活動方針

### (1) 区の目標

- 1) 子育て支援や高齢者の見守りなどの既存のネットワークを活用し、健康課題を共有しながら課題解決に取り組んでいくことをめざします。
- 2) 学校行事やPTA活動など学校保健分野に積極的に働きかけることにより、若い世代の健康課題を共有し、課題解決に取り組んでいくことをめざします。
- 3) 商店街など働く場を通して、住民・事業者・行政との市民協働の健康まちづくりの取り組みをすすめていきます。

### (2) 成果指標

- 1) 各校区のネットワークの分析を実施。各種団体や人のつながりや広がり数を増やしていく。(別紙2)
- 2) 各年代層における健康の指標として
  - ①乳幼児期：子育て力（早寝・早起き・朝ごはん・外遊び・テレビの視聴・むし歯予防）が向上する。 \*23年度1歳半健診結果データを基準とする
  - ②学童期：肥満度20%以上の児童の割合が減少する。
  - ③成人期：特定健診の受診率の向上及び健診データ（血圧、血糖HbA1c、高脂血症LDL）の改善 \*23年度特定健診結果データを基準とする
  - ④高齢期：70歳以上で継続して15分間歩ける人の割合が増加する。
  - ⑤全年代：主観的健康感が向上する。

### (3) 取り組み方針・スケジュール

- ・平成24年度においては、中央区管内の全19校区において、健康課題の共有をはかり、校区ごとの活動目標の決定に向けて、地域でのきめ細かな取り組みを進める。
- ・その後、25年度以降、目標の達成に向けた具体的な活動に取り組み、さらに、その評価を行い、PDCAのサイクルで継続していく。
- ・前年度まで取り組んだ、城東校区の例を参考としつつ、比較的若い世代に働きかけるため、学校保健委員会やPTA、子育てサークル等を中心としながら、校区の特性に応じて、民協や社協、校区自治協議会、さらには、8020推進員や食生活改善推進員等の幅広い団体、組織にアプローチしていく。
- ・今年度スケジュールは別紙3のとおり



### (4) 推進体制

別紙4のとおり

## ○基礎データ

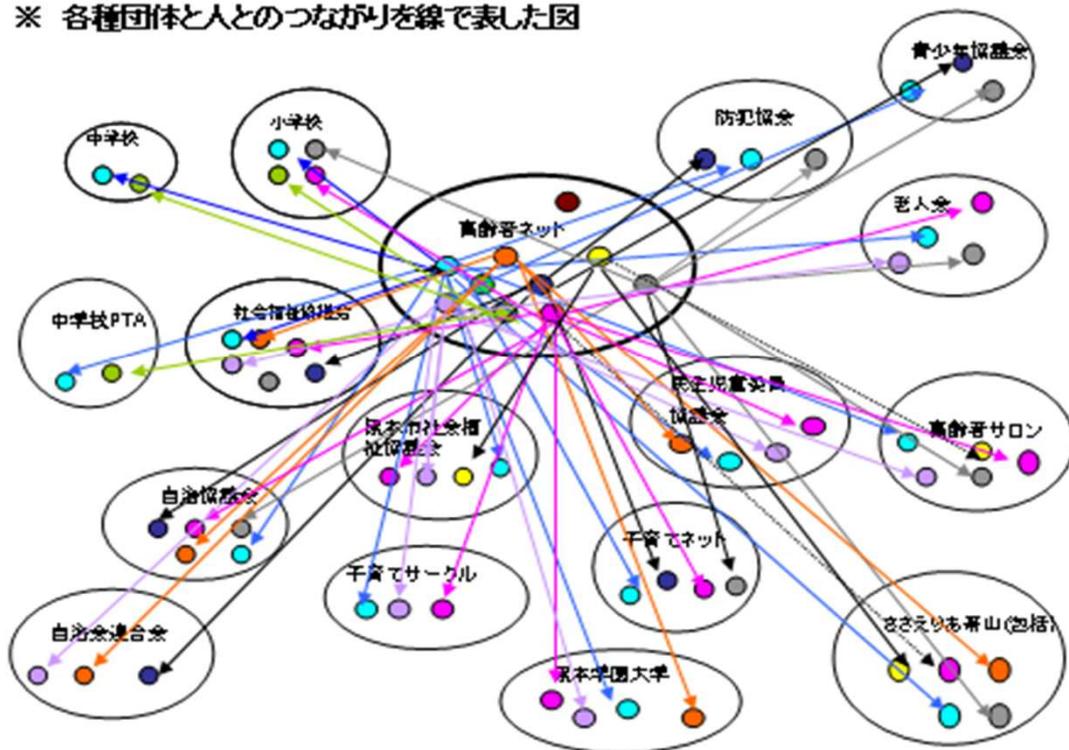
まちづくり交流室管轄		中央まちづくり交流室				五福まちづくり交流室						大江まちづくり交流室									
項目	単位	黒髪	城東	碩台	壺川	春竹	本荘	向山	五福	慶徳	一新	白川	託麻原	帯山西	帯山	砂取	出水	出水南	白山	大江	
面積	km <sup>2</sup>	4.00	0.96	0.63	1.14	1.78	0.53	1.42	0.32	0.44	1.58	1.05	1.76	0.86	1.59	2.09	0.68	1.96	1.14	1.04	
人口(H24.4)	人	12,352	2,604	6,254	7,674	14,386	3,229	10,659	3,504	3,292	9,706	7,123	16,150	8,772	14,628	9,820	8,772	12,492	11,224	8,876	
世帯数(H24.4)	世帯	6,807	1,551	3,566	3,875	7,361	2,137	5,195	1,823	2,065	4,993	3,760	8,246	3,850	6,593	4,762	4,572	5,240	5,326	4,759	
年少人口(H24.4)	人	1,264	229	654	940	1,768	256	1,570	470	319	1,280	982	2,043	1,401	2,112	1,326	1,124	1,805	1,575	1,099	
年少割合(0~14歳)	%	10.2%	8.8%	10.5%	12.2%	12.3%	7.9%	14.7%	13.4%	9.7%	13.2%	13.8%	12.7%	16.0%	14.4%	13.5%	12.8%	14.4%	14.0%	12.4%	
母子保健	出生数(H21)	人	94	20	43	72	170	31	138	32	88	59	126	79	157	78	95	107	123	61	
	出生率(人口千対)		7.4	7.4	6.9	9.3	11.8	9.4	13.0	9.7	9.5	9.2	8.3	7.7	9.3	10.7	8.1	11	8.5	10.9	7.0
	低体重児数(H21)	人	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	低体重児出生割合	%	11.7%	5.0%	9.3%	13.9%	14.7%	12.9%	5.8%	6.3%	13.3%	13.6%	8.5%	14.3%	10.1%	6.4%	11.5%	8.4%	9.3%	9.8%	18.0%
死亡数(H21)	人	137	38	52	74	124	37	60	42	21	85	43	131	67	111	99	71	84	67	69	
介護予防	65歳以上人口	人	3,109	746	1,566	1,925	3,023	719	2,020	726	551	2,035	1,341	3,214	1,588	3,147	2,273	1,880	2,855	2,156	1,819
	(うち75歳以上)	人	1,780	449	910	1,111	1,553	383	1,009	367	277	1,087	751	1,793	880	1,811	1,286	1,052	1,544	1,144	973
	高齢化率	%	25.2%	28.6%	25.0%	25.1%	21.0%	22.3%	18.3%	20.7%	16.7%	21.0%	18.8%	19.9%	18.1%	21.5%	23.1%	21.4%	22.9%	19.2%	20.5%
	介護認定数(65歳以上・H24.3)	人	750	139	312	405	608	170	440	155	108	424	305	663	342	603	570	421	544	409	374
	%	24.1%	18.6%	19.9%	21.0%	20.1%	23.6%	21.8%	21.3%	19.6%	20.8%	22.7%	20.6%	21.5%	19.2%	25.1%	22.4%	19.1%	19.0%	20.6%	
特定健診状況	対象者数(H23年度)	人	2,219	673	1,326	1,480	2,717	613	1,778	737	556	1,841	1,103	2,628	1,361	2,327	1,549	1,488	2,304	1,873	1,476
	受診者数(H23年度)	人	502	152	241	334	508	84	411	170	107	410	186	696	339	513	435	336	646	396	309
	受診率(H23年度)	%	22.6%	22.6%	18.2%	22.6%	18.7%	13.7%	23.1%	23.1%	19.2%	22.3%	16.9%	26.5%	24.9%	22.0%	28.1%	22.6%	28.0%	21.1%	20.9%

- ①面積 …… 平成21年度全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院)に基づき市統計課で算出
- ②人口・世帯数 …… 人口統計表(熊本市統計課) 平成24年4月1日
- ③出生数・出生率 …… 熊本市の保健福祉平成23年度版
- ④低体重児数・低体重 …… 熊本市の保健福祉平成23年度版
- ⑤死亡数 …… 熊本市の保健福祉平成23年度版
- ⑥65歳以上人口 …… 人口統計表(熊本市統計課) 平成24年4月1日
- ⑦介護認定数 …… 熊本市の介護認定人数集計表 平成24年3月(居住地による認定)
- ⑧特定健診 …… 熊本市国民健康保険課 平成23年度 特定健診校区别受診状況

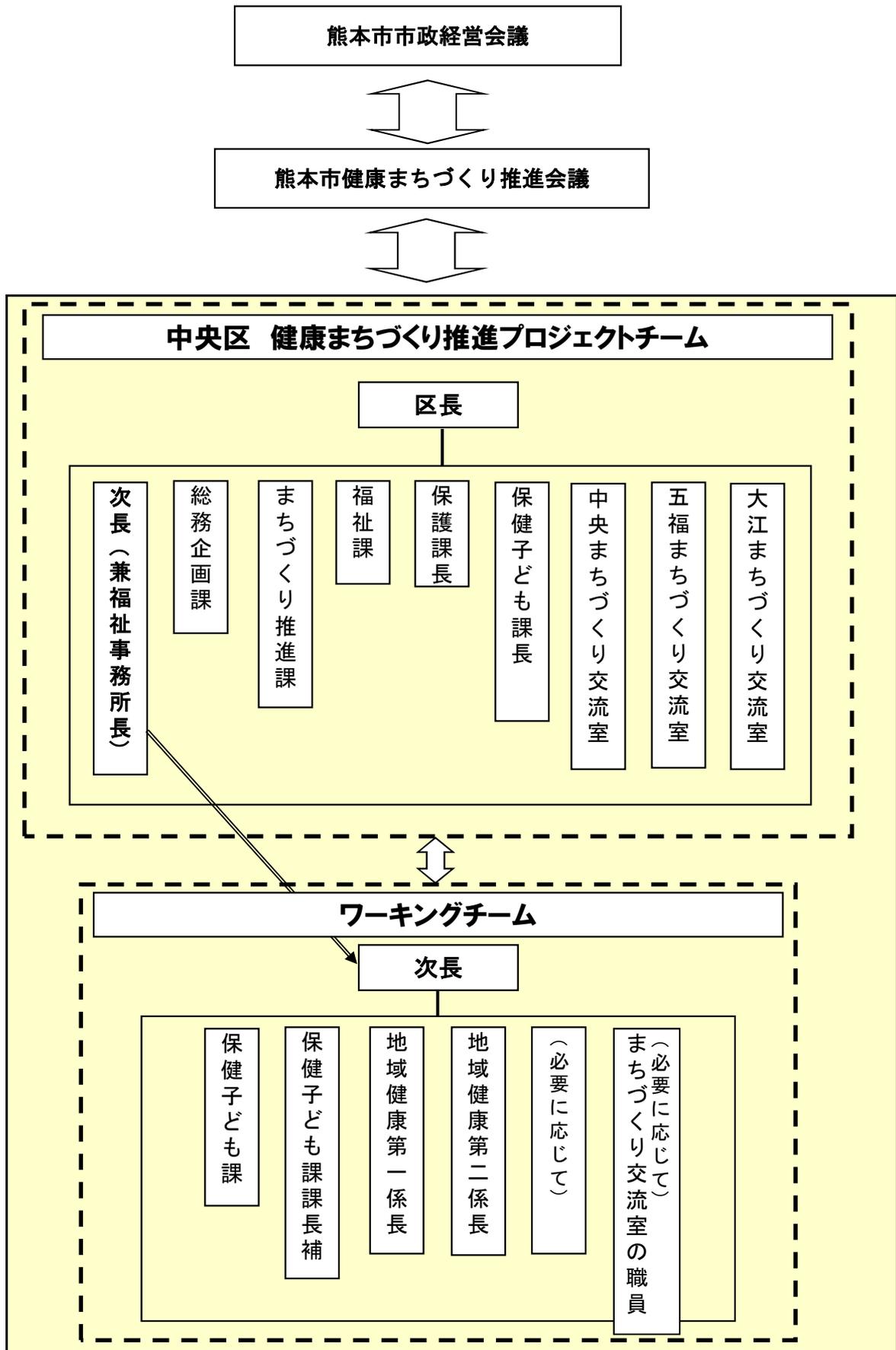
## ネットワーク分析の事例

	社協・ 民協 会長	自治協 議会 連合会 会長	老人会 会長	中学校 PTA会 長	小学校 子ども 部会	包括 ささえ りあ	熊本市 社協	大学	病院	合計	校区 保健師
自治協議会	1		1				1			3	1
自治会連合会						1	1			2	
民生児協議会						1	1			2	1
社会福祉協議会		1	1			1	1			4	1
防犯協会	1	1	1							3	
青少年協議会	1	1	1							3	
高齢者サロン	1					1				2	1
老人会	1					1				2	1
小学校	1		1	1						3	1
中学校	1			1						2	
中学校PTA	1									1	
小学校子ども部会	1									1	
子育てネット	1	1	1			1				4	1
子育てサークル	1					1				2	1
包括ささえりあ	1		1					1		3	1
熊本市社協	1					1		1		3	1
大学	1					1	1			3	1
病院										0	
合計	14	4	7	2	0	9	5	2		43	11

※ 各種団体と人とのつながりを線で表した図







## Ⅱ 東区

### 1 区の概要

#### (1) 地理的特徴

- ・東区は、熊本市の東部に位置し、北は白川を境に北区と、東は菊陽町および益城町と、南は主に加勢川を境として南区および嘉島町と、西は主に中央区と接している。
- ・地形的にはほとんどが広々とした台地である。託麻三山にはまとまった樹林が残り、周囲の広々とした農地とあいまって良好な自然景観を形成している。また、江津湖は豊富な湧水に恵まれた本市を代表する水辺環境となっている。
- ・区域内には九州自動車道が通り、国道57号線（通称東バイパス）や県道36号線（通称第二空港線）、県道103号線（通称国体道路）等の主要幹線が走っている。
- ・また、陸上自衛隊西部方面総監部（健軍駐屯地）等の公的機関やゆめタウンサンピアン等の商業施設、医療機関、学校、福祉施設等も多い。

#### ●管轄校区（18校区）

画図 泉ヶ丘 若葉  
秋津 健軍 健軍東  
東町 桜木 桜木東  
尾ノ上 山ノ内 月出  
西原 長嶺 託麻東  
託麻原 帯山西 帯山 山ノ内  
出水 砂取 尾ノ上 東町  
南 健軍 健軍東 桜木東  
桜木  
泉ヶ丘 若葉 秋津  
画図



(2) 基礎データ

		東区*		熊本市	
面積		50.32	km <sup>2</sup>	389.54	km <sup>2</sup>
世帯数 (H24.4.1)		80,389	世帯	316,797	世帯
人口 (H24.4.1)		188,634	人	724,558	人
年齢 3 区分	0~14歳 (年少人口) ( 構成比 )	29,930	人 (15.9 %)	105,955	人 (14.6 %)
	15~64歳 (生産年齢人口) ( 構成比 )	124,261	人 (65.9 %)	463,158	人 (63.9 %)
	65歳以上 (老年人口) ( 構成比 )	34,443	人 (18.3 %)	155,445	人 (21.5 %)
校区数		18	校区	92	校区
出生数 (H21年)		2,085	人	6,851	人
出生率 (人口千対)		11.1		10.1	

\*別紙1 (東区) 参照

### (3) 産業の状況

- ・全市の中でも住宅地の多い区であるため商業は中央区に次いで盛んであり、商店数と商業販売額はともに全市の20%程度を占めている。
- ・一方、農地についても全市農家人口の割合は約9%が存在している。15歳以上産業別就業者数の割合は、御・小売業21.1%、サービス業は15.7%を占める。
- ・また、医療・福祉が12.1%、教育・学習が5.4%と占め、建設業9.8%、製造業8.6%、運輸業4.1%と工業物流も占める。

#### 1) 農業

- ・東区域内には、営農活動に主体的に取り組む組織も育成されており、秋津、画図、供合地区などの水田地帯では、米、麦、大豆が大規模に生産されている他、トマト、スイカ、ピーマン等の野菜や、バラ、カーネーション、トルコキキョウ等の花べん栽培も行われている。
- ・小山戸島地区は、県内有数の畜産の産地であり、酪農をはじめ、肉用牛、養豚、馬等、様々な経営が行われている。

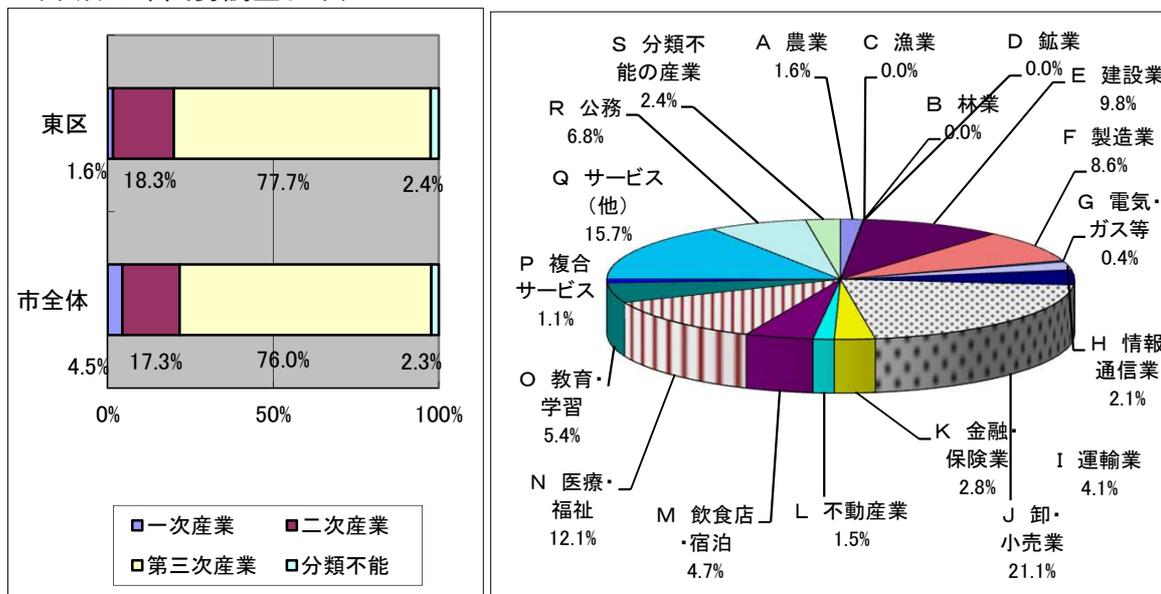
#### 2) 工業

- ・協同組合方式の中小工業団地が4カ所あり、熊本IC周辺や県道熊本空港線沿線に比較的規模の大きい事業所が点在している。
- ・また、主要地方道熊本空港線沿いに熊本トラックターミナルが立地、本市の物流拠点として機能している。

#### 3) 商業

- ・健軍地区に古くからの商店街が、アーケード街を中心に形成されている。長嶺地区の市営長嶺団地付近に商店等が集積しており、国道57号沿線に、ロードサイド型の商業施設が多数立地している。

(平成17年国勢調査より)



(4) 地域活動団体の状況

団体名	団体数	状況等
校区自治協議会	18	町内自治会やまちづくり委員会をはじめとした校区の各種団体で構成され、団体間の連絡調整を図っている。校区全体の地域課題への対応や、コミュニティづくりを各団体が協力して推進し、校区の地域力の向上を図っている。全18校区に設置。
自治会	138	町内の住民により自発的に組織され、町内のふれあいや融和を図りながら、住民が相互に協力して住みよい地域社会づくりを目指して活動を行っている。
まちづくり委員会	12	校区内を対象として歴史や文化、環境など特定のテーマを決めて、広く校区の既存の地域団体、ボランティアグループ、趣味の会などをはじめ、個人単位でも自由に参加し、メンバーのふれあいを大切にしながら、自由な発想と機動力を生かして具体的なまちづくり活動を行っている。
校区社会福祉協議会	18	託麻・長嶺社会福祉協議会（一日会）は、22年度から東保健福祉センターと協働で健康づくりサポーター養成講座に取り組んでいる。また高齢者いきいきサロンの活動支援にほとんどの校区が取り組んでいる。
民生委員児童委員協議会	16	児童虐待予防のため、こんにちは赤ちゃん事業の委託をほとんどの校区が受け、乳幼児の見守りや相談を行っている。又高齢者の見守りや高齢者サロンの活動支援等地域福祉の推進活動に取り組んでいる。
P T A	28	P T Aの役員で、子育てネットワーク等健康づくり活動のメンバーを兼ねる人もおり、地域の活動をP T Aへ広げるきっかけとなっている。又、P T Aから子ども会への広がりにも繋がっている。（小学校18、中学校10）
女性の会・地域婦人会	7	地域社会に密着し社会教育充実の為に、命を大切にする心を基盤として地域づくりに励み、健康問題等に取り組んでいる。又、各種団体と連動し行事に取り組んでおり、校区によっては、食生活改善推進員を兼ねる会員もおり、地域の健康づくり活動に協力している。
体育協会	18	小学校の体育館等を利用してスポーツ活動をおこなっている。
老人クラブ	18	高齢者の交流を図っており、校区や町内の行事への協力もおこなっている。
子育てネットワーク	18	校区社会福祉協議会、民生児童委員協議会、保育園、幼稚園、小中学校等の地域の関係者によるネットワークを構成し、子育てサークルの企画・運営や子育て情報発信等の子育て支援活動を行っている。
総合型地域スポーツクラブ	5	各地域で、健康、交流、青少年健全育成等を目的として組織され、スポーツ活動が行われている。活動地域は、11校区の桜木、桜木東、長嶺、託麻南、尾ノ上、若葉、健軍東、東町、月出、西原、託麻西にある。

## (5) 区の特徴

(24年4月1日現在)

- ・東区は、熊本市の東部に位置し、五つの区の中ではもっとも人口が多い。
- ・区域内には国道57号線（通称東バイパス）や県道36号線（通称第二空港線）、県道103号線（通称国体道路）等の主要幹線が走り、商業施設や医療機関、学校や福祉施設等も多く、都会の姿を見せる一方で、北には託麻三山、南には江津湖の自然が広がり、都市の利便性と自然とが調和した住環境に優れた地域と言える。

### 1) 人口・世帯の状況

- ・人口の推移をみると、平成7年～12年の5年間で約6,800人増加したが、平成12～17年の5年間では2,000人程度の増加にとどまっている。
- ・世帯数は10年間で約8,600世帯増加し、世帯当たり人員はやや減少傾向にある。
- ・年齢構成別では、平成7年～17年の10年間で年少人口（15歳未満）の割合が約4%減少し、その分老年人口（65歳以上）の割合がほぼ同程度の割合で増加しているが、年少人口が老年人口を上回っているなど他の区に比べて老年人口の割合が低いという特徴があり、老年人口割合（高齢化率）は市平均21.5%に対し18.3%、年少人口割合は市平均14.6%に対し15.9%となっている。
- ・しかしながら、東区内でも、託麻南、健軍東、月出校区など新興住宅地や転勤族の多い地域の高齢化率は12～13%であるのに対し、古くから宅地化が進んだ若葉校区や泉ヶ丘校区などは26～27%と高齢化率が高くなっている。

### 2) 地域活動

- ・同じ東区にあっても、古くからの住宅街や新興住宅地、農家が多い地域や転勤族の多い地域など様々であり、またそれが混在している地域も多い。
- ・こうした中であって、町内自治会加入率は78%で本市全体の81%を下回っているものの、各地域では伝統や文化などその地域が持つ特性を活かした様々なまちづくりに取り組まれている。
- ・また、全校区で子育てネットワークが活動しているほか、自主的に健康講座を開催したり健康サポーター養成するなど、健康をキーワードとした取り組みも行われている。

### 3) 自然・観光・レクリエーション等

区の北部には、託麻三山とそれに隣接して熊本県民総合運動公園があり、南部には、1日40万トンもの湧水量を誇り、貴重な植物、魚が生息する江津湖や120種1,000頭の動物と5万点の植物を有する動植物園等があり、市民の憩いの場となっている。

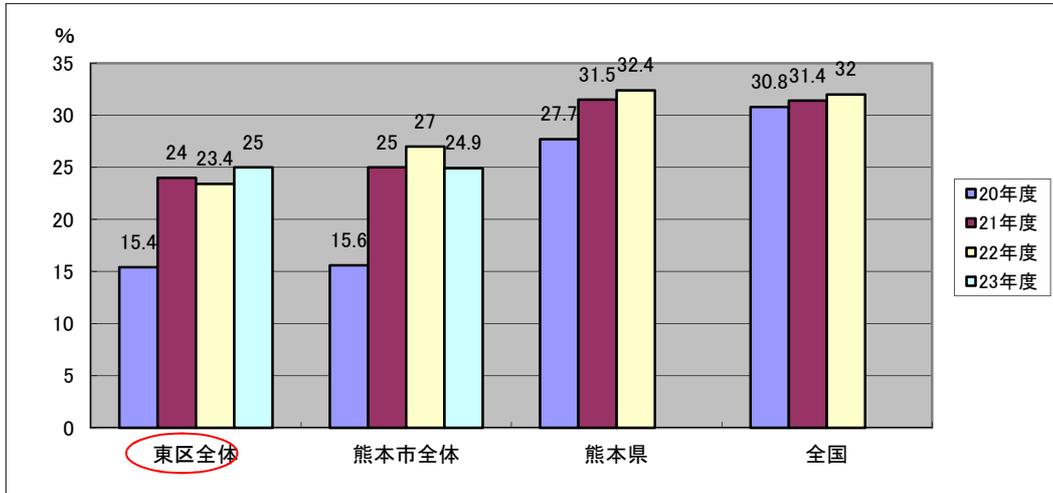
### 4) 文教施設等

熊本県立大学、東海大学・熊本キャンパスの大学が2校、熊本総合医療リハビリテーション学院、西日本リハビリテーション学院等の専修学校が5校、県立熊本聾学校、県立盲学校の特別支援学校が2校ある。又、健軍文化ホールもあり、文教地域でもある。

5) 保健統計からみた特徴

① 特定健診受診率（国民健康保険加入者）

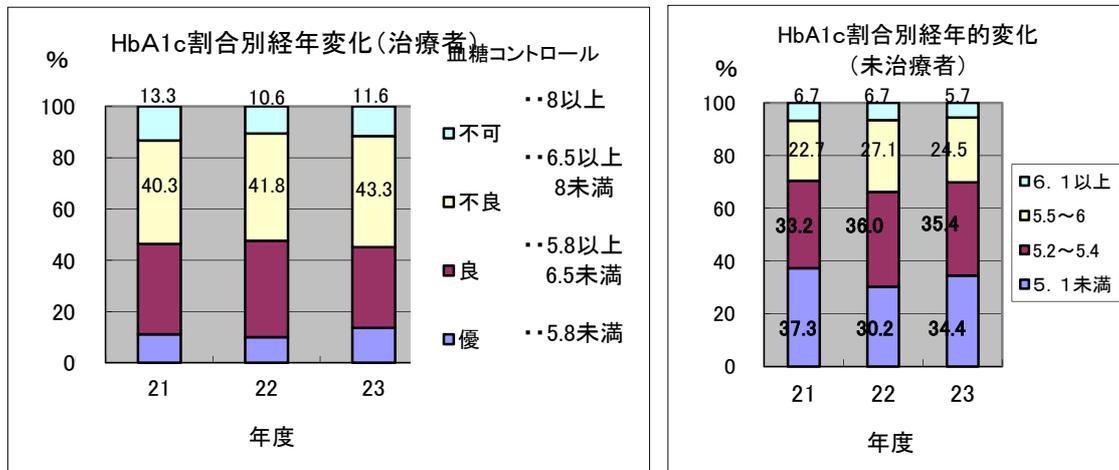
23年度の特定健診受診率は、25.0%で熊本市全体24.9%とほぼ同じであるが、全国の32%、熊本県の32.4%に比べ低くなっており、我が国の23年度目標である56.1%からは大きく下回っている。



② 特定健診データ分析結果（東区の国民健康保険加入者）

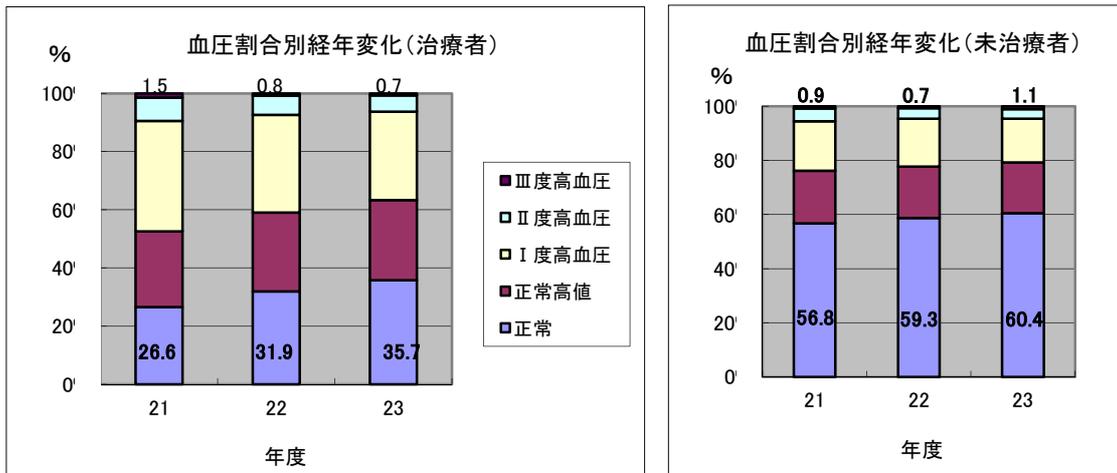
未治療者のHbA1cの正常値の割合はここ数年約3割と低位で推移しており、治療中であっても、血糖や高血圧のコントロール不良者も多く、市全体と同様の状況である。

1) 血糖値（HbA1c）割合の経年変化



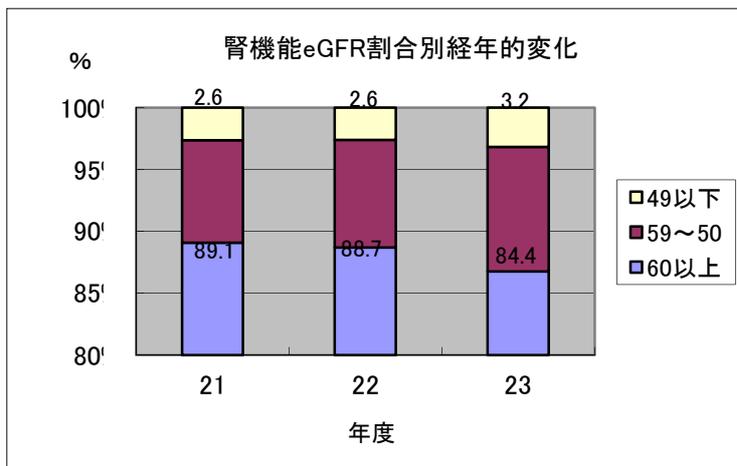
治療者における血糖コントロール不可と不良の割合は、50%を超える。  
未治療者において、血糖値が正常値5.1以下の割合は、21年度から約3割と低位で推移している。

## 2) 高血圧の経年変化



治療者においてI度高血圧以上の割合は約4割を占め、全市とほぼ同じ割合である。  
未治療者において、I度高血圧以上の割合は、約2割を占める。

## 3) 腎機能(eGFR)の経年変化



腎機能(eGFR)が60未満の慢性腎臓病の割合は、本市全体と同じく約15%と高く、改善傾向はみられない。

※参考・熊本市の生活習慣病1件あたり医療費における政令市順位

- ・22年度の腎不全・糖尿病・高血圧性疾患の1件あたり医療費は政令市で1位
- ・23年度は腎不全は4位、高血圧は2位となったが、糖尿病は1位で医療費は高い位置にある。

## 2 区の活動方針

### (1) 区の目標

予防可能な生活習慣病で倒れることのないよう、住民が自らの健康を自分で管理する力をつけ、生涯を通して健康で生きがいのある生活がおくれるようにする。

### (2) 成果指標

#### 市の成果指標

- ① 健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合  
57.8% (H23) ⇒ 65% (H30)
- ② 自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合

#### 25年度から28年度の成果指標 (28年度目標)

- 1 健診受診率の向上  
⇒ (東区の受診率50%)
- 2 特定健診データの改善 (データ経年変化より) 発症の抑制、重症化の改善維持  
⇒ (健康学習参加者のデータ維持改善率80%)



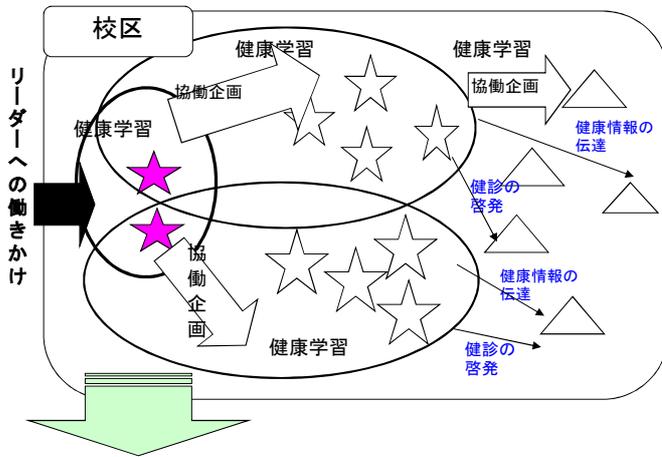
#### 24年度から28年度活動評価指針 (28年度目標)

- 1 健康学習の開催回数と参加人数、地域組織数が増える。  
⇒ (健康学習100回2500人/年)
- 2 健康学習参加者の昨年に比べた特定健診受診率が向上する  
⇒ (健康学習参加者の受診率80%)
- 3 健康学習参加者 (地域組織員) が健康情報伝達と特定健診の啓発について考え行動する  
⇒ (健康学習参加者による啓発80%)
- 4 健康学習参加者が、CKDの意味、人工透析となる原因の病気、自分の腎臓のろ過機能と血糖値の状態、一日取る砂糖、塩分、食物繊維、食事の改善点がわかる。  
⇒ (健康学習参加者の理解度80%)
- 5 健康学習参加者が、運動を継続する。  
⇒ (健康学習参加者の継続50%)
- 6 健康学習をとおして、生活習慣病予防の取り組みに協力する、関係機関、店、企業等が増える  
⇒ (校区で協力する組織、関係機関の数5ヶ所以上)

### (3) 取り組み方針・スケジュール

#### I 24年度(初年度)・・・核となるリーダーとその組織へ健康学習の企画と実施(種まき期) (60回1500人)

★・・・核となるリーダー      ☆・・・リーダーの属する組織員      △・・・組織員の町内、隣保

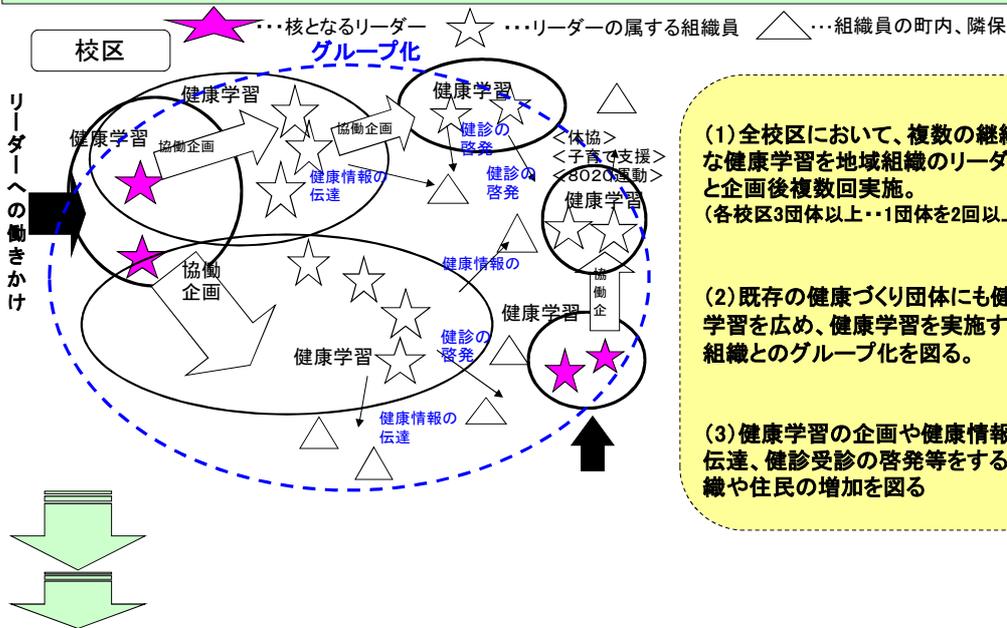


(1) 全校区で、核となる地域組織のリーダーと健康課題を共有し、健康学習を企画し実施する。  
(各校区1団体以上・・・1団体を2回以上)

(2) 健康学習において、住民が健康情報の伝達と健診受診の啓発方法等について考え、地域でできること

(別紙2参照)

#### II 25～26年度(拡充期)・・・健康学習をする組織、既存の健康づくり団体のグループ化 (100回2500人)

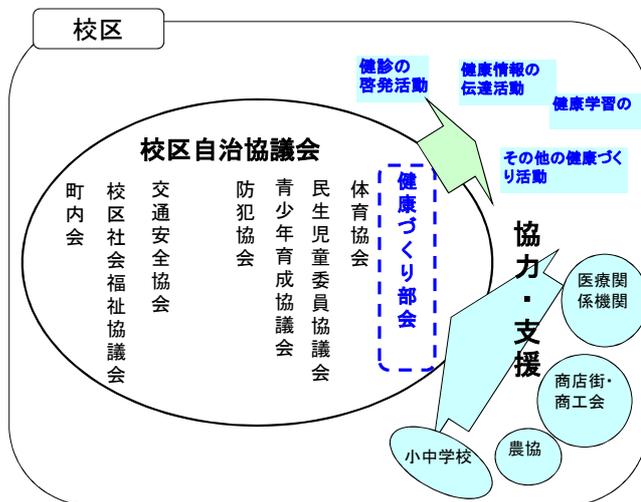


(1) 全校区において、複数の継続的な健康学習を地域組織のリーダーと企画後複数回実施。  
(各校区3団体以上・・・1団体を2回以上)

(2) 既存の健康づくり団体にも健康学習を広め、健康学習を実施する組織とのグループ化を図る。

(3) 健康学習の企画や健康情報の伝達、健診受診の啓発等をする組織や住民の増加を図る

#### III 27年～28年度(充実期)・・・健康づくり部会等、校区の組織として自主的に活動



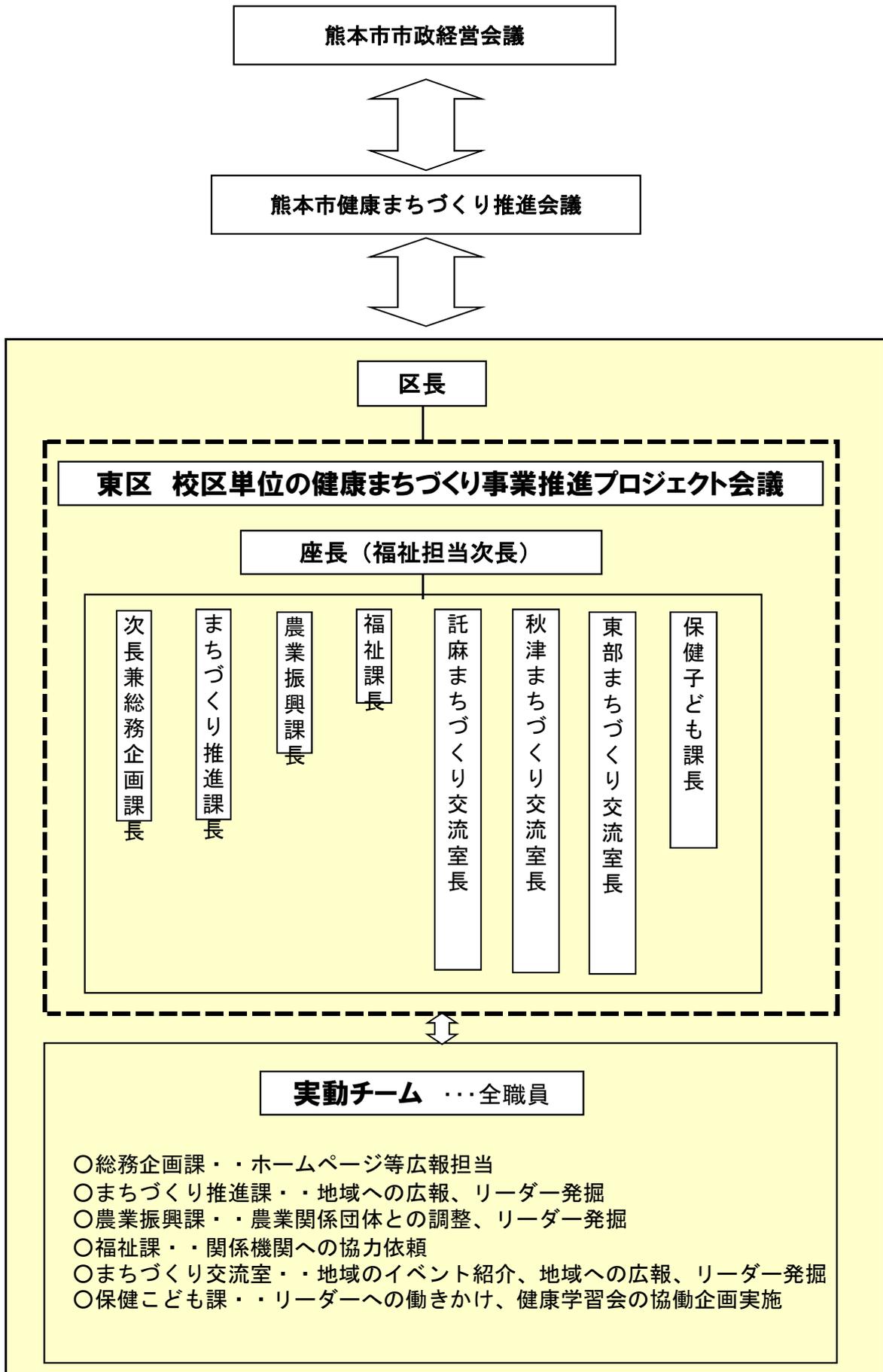
(1) 全18校区の自治協議会等の地域組織の中に「健康づくり部会(仮称)」を設置し、校区の健康まちづくり組織として定着し自主的に活動

(活動内容)  
・継続的な健康学習の企画・運営  
・特定健診の受診と啓発活動  
・健康情報の伝達等  
・その他必要な健康づくり活動

(2) 組織活動を協力支援する関係機関等が増える

・商店街・商工会  
・医療関係機関  
・農協・企業

(4) 推進体制



## ※東区役所職員に対する取り組み

東区の職員一人ひとりが健康への取り組みを体験することで、身近な住民に健康づくりの必要性を伝える事業推進者となるために、下記のような取り組みを継続して行う。

### ○ランチョンセミナー

- ・ 昼休みに健康弁当を食べながら保健師による健康に関する講話
- ・ 塩分、糖分、食物繊維を調整した健康弁当を作成
- ・ 栄養士による健康弁当の説明

### ○スリムアップセミナー

- ・ 終業後、熊大の都竹茂樹教授による講話と実技指導  
「1日5分、誰でも引き締まるエクササイズ」

### ○職員対象の健康学習会

- ・ 職場健診後、個人の健診データに基づく「健康学習会」の実施

## ○基礎データ

校区名		尾ノ上	画図	健軍	健軍東	山ノ内	東町	託麻東	託麻西	託麻南	桜木	桜木東	秋津	若葉	泉ヶ丘	月出	長嶺	託麻北	西原	
面積	km <sup>2</sup>	1.58	5.66	2.01	0.48	1.38	1.65	11.09	3.35	2.01	0.84	1.15	4.19	1.08	1.54	0.84	2.81	6.51	2.15	
世帯数（H24.4.1）	世帯	5,706	5,405	5,649	2,023	3,973	3,617	5,135	6,674	5,461	3,179	2,460	5,411	2,442	3,193	4,777	5,046	3,413	6,825	
人口（H24.4.1）	人	12,656	13,185	12,413	5,017	9,364	8,195	12,915	15,602	14,155	7,592	6,449	13,182	5,305	6,801	10,409	12,445	8,480	14,469	
年齢区分	0～14歳（年少人口）	人	1,881	2,257	1,796	950	1,470	1,379	2,127	2,485	2,644	1,231	1,179	1,920	703	871	1,555	2,182	1,202	2,098
	（構成比）	（%）	14.9	17.1	14.5	18.9	15.7	16.8	16.5	15.9	18.7	16.2	18.3	14.6	13.3	12.8	14.9	17.5	14.2	14.5
	15～64歳（生産年齢人口）	人	8,291	8,118	8,238	3,456	6,254	5,401	8,487	10,383	9,587	4,969	4,166	8,588	3,182	4,084	7,407	8,415	5,767	9,546
	（構成比）	（%）	65.5	61.6	66.4	68.9	66.8	65.9	65.7	66.5	67.7	65.5	64.6	65.1	60.0	60.0	71.2	67.6	68.0	66.0
	65歳以上（老年人口）	人	2,484	2,810	2,379	611	1,640	1,415	2,301	2,752	1,924	1,392	1,104	2,674	1,420	1,846	1,447	1,848	1,571	2,825
（構成比）	（%）	19.6	21.3	19.2	12.2	17.5	17.3	17.8	17.6	13.6	18.3	17.1	20.3	26.8	27.1	13.9	14.8	18.5	19.5	
校区数	校区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
出生数（H21年）	人	135	140	139	36	109	88	174	201	206	74	80	116	42	60	148	95	91	151	
出生率（人口千対）		10.7	10.6	11.2	7.2	11.6	10.7	13.5	12.9	14.6	9.7	12.4	8.8	7.9	8.8	14.2	7.6	10.7	10.4	

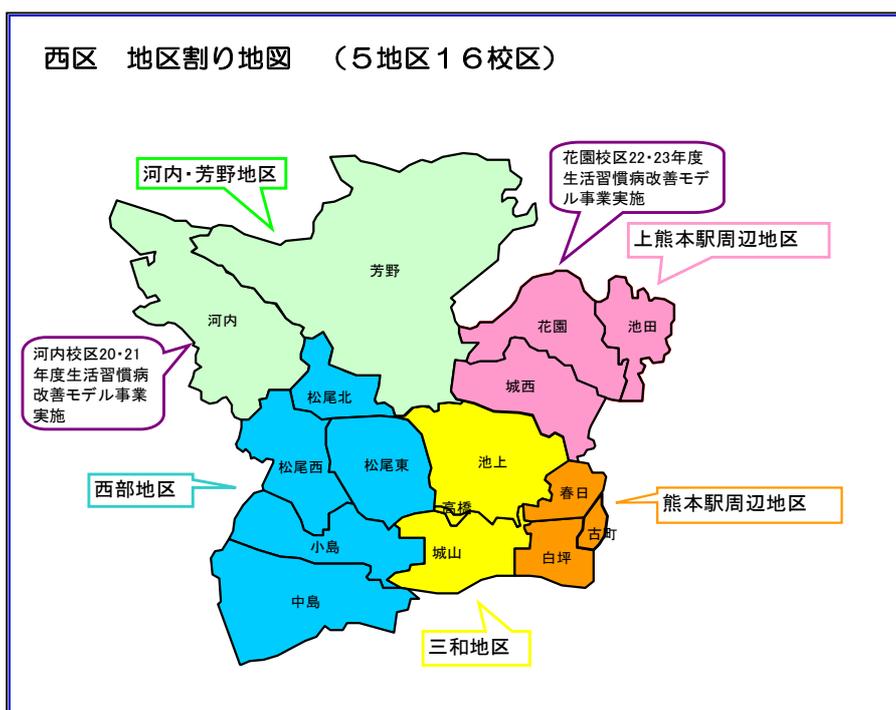
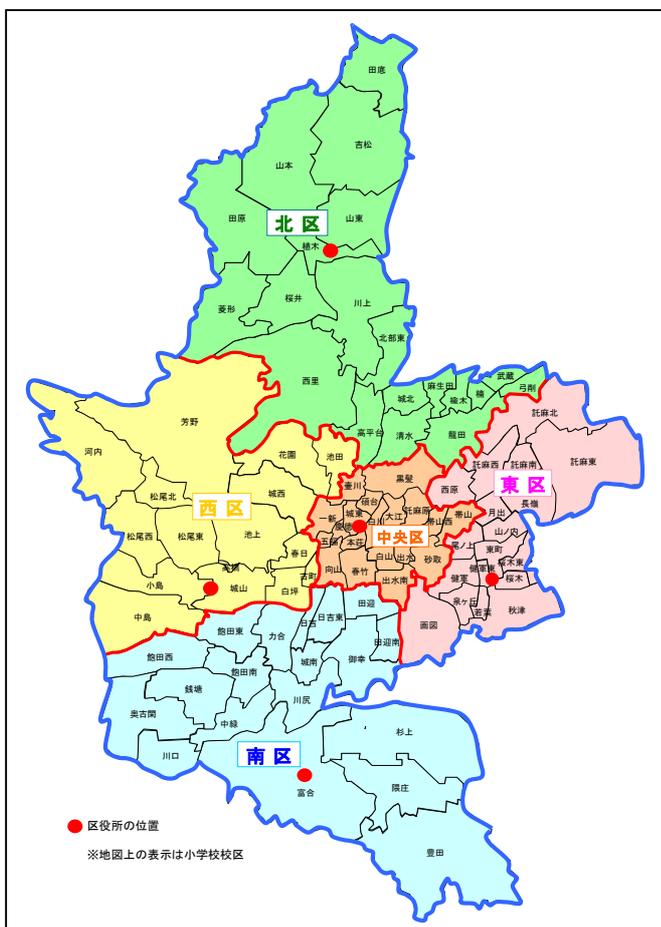


### Ⅲ 西区

#### 1 区の概要

##### (1) 地理的特徴

- ・西区は、熊本市を象徴する金峰山周辺の果樹栽培が盛んな山間部、その裾野には稲作や野菜栽培の盛んな田園地帯が中央に広がり、西側は豊かな漁場である有明海に面しています。
- ・東には熊本市の玄関口である熊本駅を擁する中心市街地エリアをもつ、新しい顔と豊かな自然が融合した地域です。

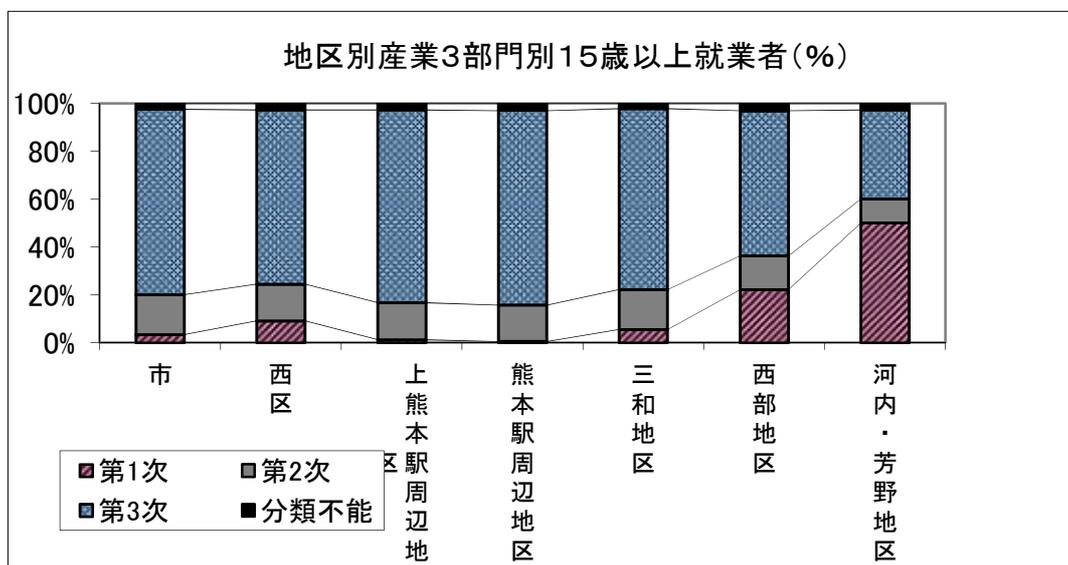
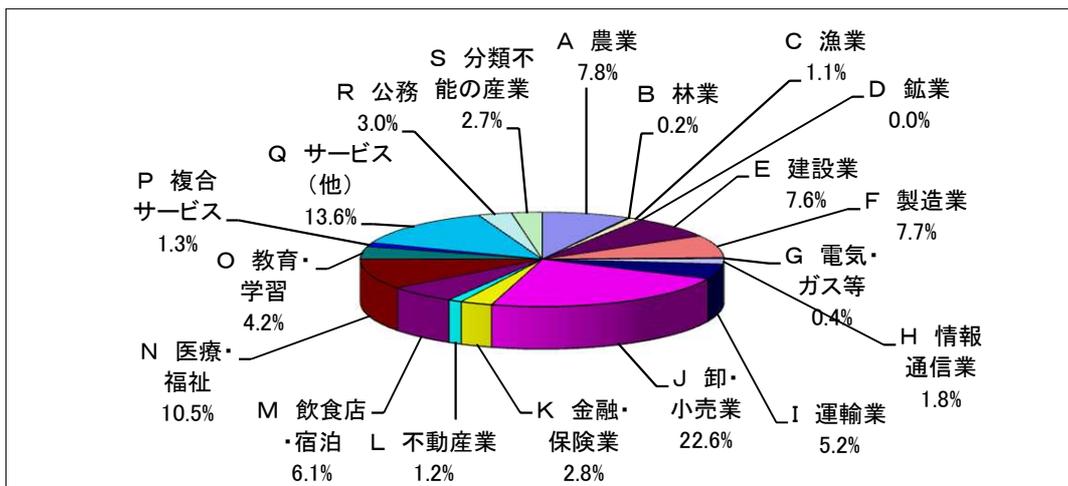


(2) 基礎データ

		西区*		熊本市	
面積		89.06	km <sup>2</sup>	389.54	km <sup>2</sup>
世帯数 (H24.4.1)		40,783	世帯	316,797	世帯
人口 (H24.4.1)		93,080	人	724,558	人
年齢3区分	0~14歳 (年少人口) (構成比)	12,300	人 (13.2%)	105,955	人 (14.6%)
	15~64歳 (生産年齢人口) (構成比)	56,737	人 (61.0%)	463,158	人 (63.9%)
	65歳以上 (老年人口) (構成比)	24,043	人 (25.8%)	155,445	人 (21.5%)
校区数		16	校区	92	校区
出生数 (H21年)		800	人	6,851	人
出生率 (人口千対)		8.4	人	10.1	人

\*別紙1 (西区) 参照

(3) 産業の状況 (平成17年国勢調査より)



#### (4) 地域活動団体の状況

団体名	団体数	状況等
○校区自治協議会	16	
自治会連合会	16	
まちづくり委員会	9	
社会福祉協議会	16	
民生委員児童委員協議会	9	○小島・中島・松尾 ○河内・芳野 ○三和地区〈城山・池の上・高橋〉
公民館（公設）	3	
保育園（公私立）	24	
幼稚園（公私立）	8	
小学校	16	
中学校	8	
小学校PTA	16	
中学校PTA	8	
体育協会	16	
地域包括支援センター	5	
医療機関等	78	病院7、診療所67、歯科診療所37

#### (5) 区の特徴

- ・西区は金峰山や白川、有明海など豊かな自然に恵まれた地域であり、田園地帯と市街化が混在した地域である。
- ・数多くの名所・旧跡があり、地域の歴史や伝統文化が大切に継承されている。
- ・田園地帯では稲作の他、玉ねぎ、キャベツ、トマトなどの野菜の栽培、丘陵地帯でのみかん、梨などの果樹の栽培、有明海でのノリの養殖等漁業も盛んである。
- ・東には本市の陸の玄関となる熊本駅が、西には海の玄関となる熊本港があり、人の重要な交流拠点となっている。
- ・年少人口割合が市の平均14.6%に比べ、西区管内は13.2%と低く、高齢化率は、熊本市の21.5%に比べ管内は25.8%と高い。
- ・介護認定率は市の平均20.2%に比べ、19.1%と低いことから元気高齢者が多いことが窺える。
- ・特定健診の受診率は、平成23年度において、市の平均24.9%に比べ、西区は24.1%と低く、5区の中では中央区に次いで低い受診率となっている。

##### 【健康面の特徴】

- ・血圧検査の結果については、正常者数の割合が5区の中で南区に次いで低い。
- ・血糖値検査の結果については、正常者数の割合が5区の中で最下位であった。
- ・腎機能検査（eGFR）については、正常者数の割合は5区の中で最もよかった。
- ・特定健診の問診項目から、男性の生活習慣として西区の傾向は、「毎日酒を飲む人」が5区の中で最も多い。

## 2 区の活動方針

### (1) 区の目標

#### 【目標】

- ・西区の高齢者の健康を支えている要素としては、豊かな自然や地域のつながりの強さ、文化・歴史の継承をはじめとする活発な地域活動の存在が考えられる。
- ・このような恵まれた環境でいつまでも元気に暮らし続けることを目指して、西区の健康まちづくりの目標を「西区の自然の恵みや伝統文化を活かし、区民協働により笑顔あふれる健康なまちをつくる」こととする。

#### 【手段】

- ・健康まちづくり事業が、校区全体の活動として、若い世代からの生活習慣病予防を広く浸透させ、自主的に継続されていくよう、校区の推進体制を整える。
- ・そのために、①これまで保健師等が地域保健活動のなかで培ってきたノウハウを活かし、PDCAサイクルを基本とする過程を住民と協働で進めていくことで、健康づくりに対する意識向上を図る。②全校区に、健康まちづくり事業を推進する組織が立ち上がるよう働きかける。

### (2) 成果指標

#### 1) 健康まちづくり事業に取り組めた校区数

H24	6校区/16校区
H25	9校区/16校区
H27	16校区/16校区

#### 2) 校区自治協議会を母体とした健康づくりを考える組織ができた校区数

H24	6校区/16校区
H25	9校区/16校区
H27	16校区/16校区

#### 3) 健康まちづくり事業や校区保健師活動の認知度（PTA等で実施する生活実態調査、イベントなどを活用したPI等で把握）

取り組み校区3年目認知度⇒50%

#### 4) 個人の健康行動（国保加入者の特定健診の受診率又はリピーター率で把握）の向上

受診率	H24	26%	H30	50%
リピーター率	H23	61.2%	H30	70%

#### 5) 地域組織の健康意識（事業導入後、校区で企画・運営していく活動等の実施、その中で地域の自然や校区の伝統文化を活かした健康づくり活動を組み立てる）の醸成

H24	6校区/16校区
H25	9校区/16校区
H27	16校区/16校区

#### 6) 特定健診から把握した校区ごとの検査項目データ（校区活動方針シートに記載）

### (3) 取り組み方針・スケジュール

- ・全校区に働きかけるために、区役所の組織を活かし、区的全課で構成する健康づくり部会で取り組むこととした。
- ・特に、実働については、地域と協働で活動を進めているまちづくり推進課及び対象校区を所管するまちづくり交流室とともに地域に働きかけていくこととしている。
- ・まずは、6月から8月にかけて校区自治協議会等に事業及び校区の健康課題の説明を実施し、各校区の特性を活かした健康づくり事業に取り組む機運を醸成していく。この中で、重点的に取り組む校区を設定していく。
- ・特に、特定健診受診率については、重点校区において、集団検診化、J A やかかりつけ医との連携等について取り組むことで向上をはかる。
- ・区全体での取り組みとすることから、区役所職員へも、事業の理解と職員自らが健康意識を醸成できるよう、健康意識調査及び結果報告、健康講話などを実施している。
- ・引き続き学習会や事業報告会等を通じ、日頃の業務及び暮らしに活用できることを体験できる取り組みを行う。

スケジュールの詳細は別紙2のとおり。

### (4) 推進体制

- ・西区では、区長が座長となり、全課（かい）及び関係課の所属長をメンバーとする「まちづくり推進会議」が設置され、その下部組織として区次長（福祉事務所長）を座長とする「健康づくり部会」を設置。
- ・業務の進捗に応じて部会を開催し、情報共有及び意見交換を行い、連携しながら進めている。
- ・また、保健子ども課の校区保健師をはじめ、まちづくり推進課職員、対象校区を所管するまちづくり交流室職員等を構成メンバーとする校区担当制で実働チームをつくり、必要に応じて座長はじめ部会のメンバーも参加しながら校区自治協議会をはじめとする地域住民と協働で推進していく。

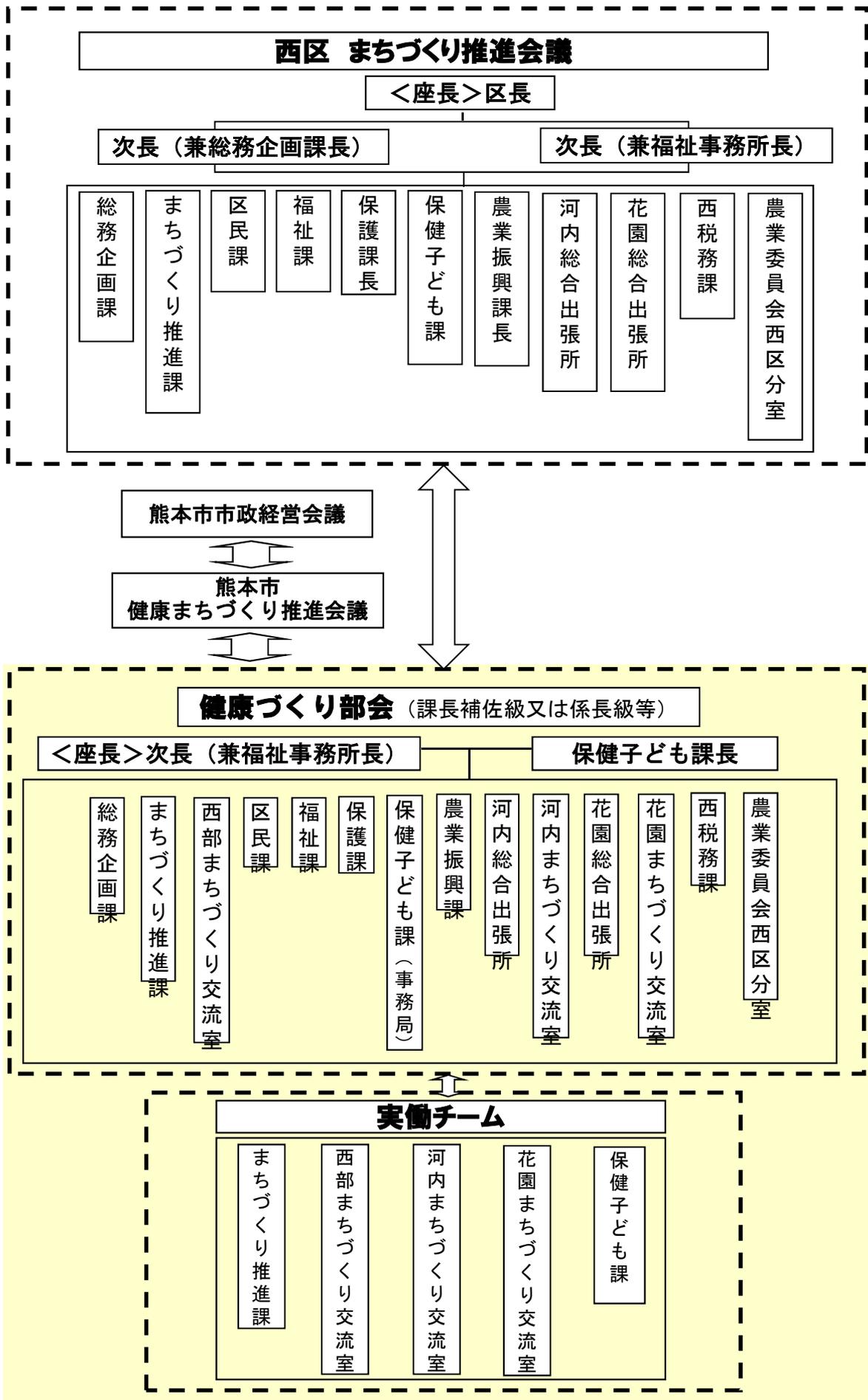
別紙3参照

## ○基礎データ

校区名		池田	花園	城西	古町	春日	白坪	池上	高橋	城山	中島	小島	松尾東	松尾西	松尾北	芳野	河内	
面積	km <sup>2</sup>	2.88	5.41	4.94	0.54	1.70	2.25	6.84	0.14	4.31	9.24	4.97	4.90	4.48	2.34	23.23	10.89	
世帯数 (H24.4.1)	世帯	6128	5178	5924	1660	2896	5533	2711	201	4086	1436	1332	943	466	75	778	1436	
人口 (H24.4.1)	人	13,089	11,045	12,907	3,184	5,879	11,761	6,699	440	10,618	3,916	3,343	2,318	1,127	229	2,075	4,450	
年齢区分	0~14歳 (年少人口)	人	1,818	1,220	1,711	355	719	1,615	1,005	55	1,935	490	386	245	103	33	181	429
	(構成比)	(%)	13.9%	11.0%	13.3%	11.1%	12.2%	13.7%	15.0%	12.5%	18.2%	12.5%	11.5%	10.6%	9.1%	14.4%	8.7%	9.6%
	15~64歳 (生産年齢人口)	人	8,392	6,695	7,855	1,910	3,566	7,363	4,065	233	6,507	2,311	2,041	1,418	630	115	1,147	2,489
	(構成比)	(%)	64.1%	60.6%	60.9%	60.0%	60.7%	62.6%	60.7%	53.0%	61.3%	59.0%	61.1%	61.2%	55.9%	50.2%	55.3%	55.9%
	65歳以上 (老年人口)	人	2,879	3,130	3,341	919	1,594	2,783	1,629	152	2,176	1,115	916	655	394	81	747	1,532
(構成比)	(%)	22.0%	28.3%	25.9%	28.9%	27.1%	23.7%	24.3%	34.5%	20.5%	28.5%	27.4%	28.3%	35.0%	35.4%	36.0%	34.4%	
校区数	校区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
出生数 (H21年)	人	99	83	105	27	41	152	51	5	132	30	21	17	9	0	5	23	
出生率 (人口千対)		7.6	7.3	8.0	8.5	7.2	12.6	7.6	11.2	12.6	7.5	6.1	7.1	7.5	—	2.3	5.0	



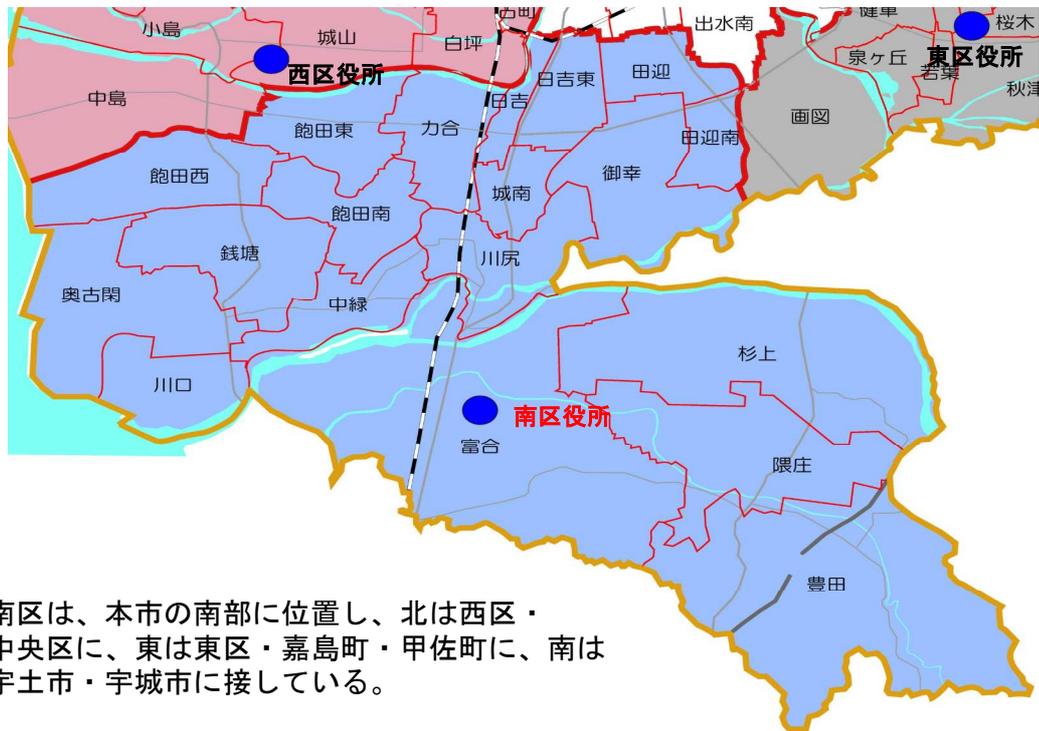
推進体制



## IV 南区

### 1 区の概要

#### (1) 地理的特徴



- ・南区は、本市の南部に位置し、北は西区・中央区に、東は東区・嘉島町・甲佐町に、南は宇土市・宇城市に接している。
- ・区内の大部分は水田からなる農業の盛んな地域で、白川、加勢川、緑川が区内を東西に貫流し、加えて天明新川や浜戸川など多くの中小河川が

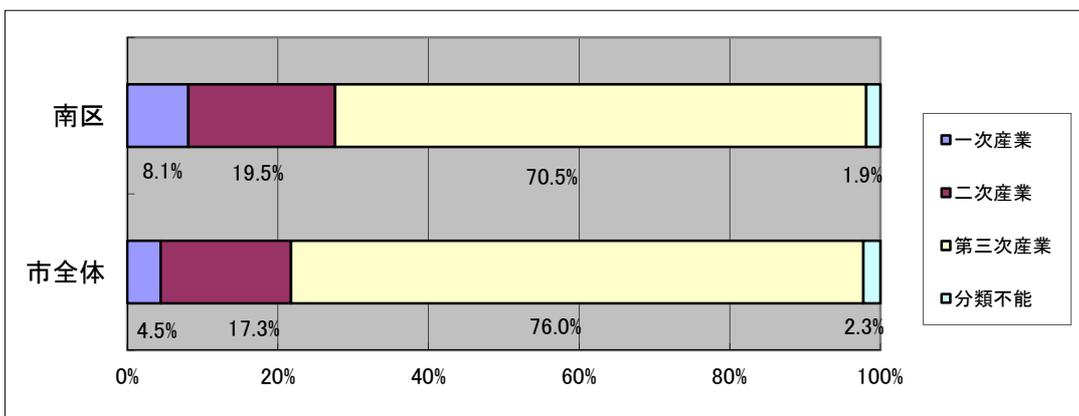
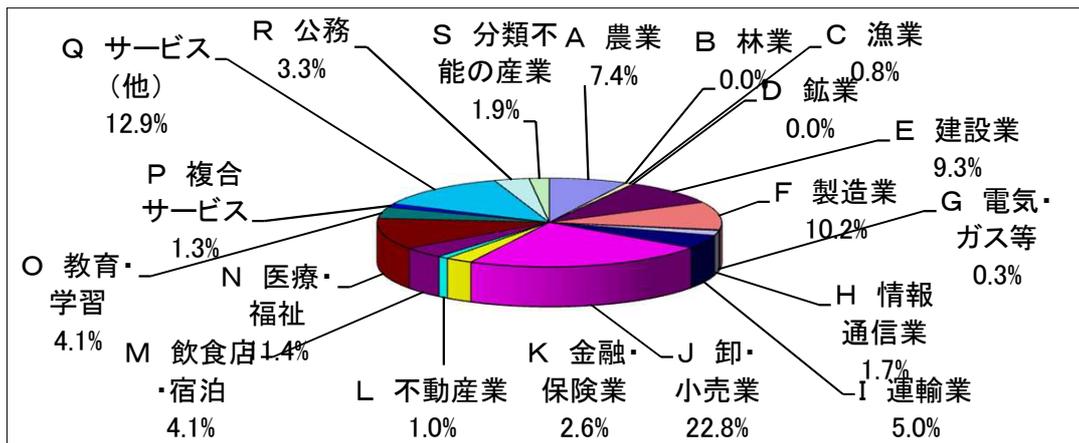
#### (2) 基礎データ

		南区		熊本市	
面積		109.86	km <sup>2</sup>	389.54	km <sup>2</sup>
世帯数 (H24.4.1)		48,302	世帯	316,797	世帯
人口 (H24.4.1)		124,245	人	724,558	人
年齢区分	0~14歳 (年少人口) (構成比)	19,517	人 15.7 %	105,955	人 (14.6 %)
	15~64歳 (生産年齢人口) (構成比)	78,046	人 62.8 %	463,158	人 (63.9 %)
	65歳以上 (老年人口) (構成比)	26,682	人 21.5 %	155,445	人 (21.5 %)
校区数		19	校区	92	校区
出生数 (H21年)		1280	人	6,851	人
出生率 (人口千対)		11.0		10.1	

\*別紙1 (南区) 参照

### (3) 産業の状況

(平成17年国勢調査より)



### (4) 地域活動団体の状況

団体名	団体数	状況等
校区自治協議会	19	19全校区で結成
自治会	161	富合22区、城南41区は嘱託員制度
まちづくり委員会	12	飽田南、天明4校区、幸田3校区、川尻、日吉、日吉東、力合の12校区
社会福祉協議会	19	19全校区で結成
民生委員児童委員協議会	10	19全校区で10協議会結成
こども会	10	飽田南、奥古閑、川口、銭塘、城南幸田3校区全、隈庄、豊田の10校区
P T A	27	小学校19、中学校8
女性の会	9	奥古閑、川尻、力合、御幸、田迎、杉上、城南3校区全の9校区
体育協会	19	19全校区で結成
総合型地域スポーツクラブ	6	日吉・日吉東、御幸、城南、川尻、飽田3校区、天明4校区の6地域
地区住民会議 (健康くまもと21推進員会議)	1	南区各校区代表者等で構成

## (5) 区の特徴

- ・南区は、加勢川、緑川など一級河川が東西を貫流し、雁回公園や塚原古墳公園などの拠点的な公園緑地を有する、自然豊かな地域であり、区域の半分以上を占める農地では、きゅうり、メロン、トマトやナス、花卉などの栽培が盛んに行われており、全市に占める農家人口の割合及び経営面積の割合はともに4割を占めている。  
加えて、アサリやハマグリ、海苔などの漁業資源にも恵まれている。
- ・一方で、半導体生産のルネサスセミコンダクタ九州工場や城南工業団地、県内の流通の拠点である流通業務団地、JR九州の熊本総合車両所などがあり、熊本市の製造業、運輸業の中核を支える地域でもあり、出荷額は全市の3割、商業販売額は全市の2割程度の水準となっている。
- ・また、熊本総合車両所の開設にあわせて新設されたJR富合駅の他、力合校区の島町・上ノ郷地区においてはJR新駅の設置、九州縦貫自動車道においては、城南スマートチェンジの設置について、各々の関係機関と協議が行われているところであり、本市における南の玄関口として、発展することが期待される。

### 【南区の多様な地域特性】

- ・南区は、幸田地区、南部地区に加え、平成3年に合併の飽田地区及び天明地区（旧飽田町・旧天明町）、平成20年に合併の富合地区（旧富合町）、平成22年に合併の城南地区（旧城南町）の6ブロック（24年度現19校区）で構成され、中央区に近い都市化が進んだ北地域とともに、豊かな自然環境に恵まれた南西部地域が共存し、多様な歴史遺産や各種の伝統文化が存在する。

### 【南区の人口動態等】

- ・年少人口は市平均14.6%に対し、南区は15.7%で、高齢化率は市平均21.2%に対し、南区は21.5%であり、年少人口が増えつつある地域である。
- ・介護認定率は、市平均20.7%に対し、南区は19.5%と低く元気高齢者が多いことが伺える。

※H24.1月人口動態より

### 【南区の健康状況】

- ・特定健診受診率は、市平均24.9%に対し、南区は26.5%と高く5区の中では最も高い受診率となっているが国の目標の65%には至っていない。（※）
- ・血圧検査の結果は、正常者数の割合が南区が49.6%と5区の中で最も低い。（※）
- ・血糖値検査の結果については、正常者数の割合が33.9%と5区の中で最も高い。（※）
- ・腎機能検査（eGFR値）については、50以上60未満の人（要注意レベル）の割合が12.3%と5区の中でやや高い。（※）
- ・体格指数（BMI）が、正常の人の割合が、市全体76.7%に対し南区は75.2%である。（※）
- ・体格指数（BMI）の肥満の人が、男性は市平均30.6%に対し南区は32.3%である。  
特に40代男性は38.7%と高い。女性は市19.1%に対し、南区は20.9%である。（※※）

※ H23年度特定健診結果より

※※ H22年度特定健診結果より

## 2 区の活動方針

### (1) 区の目標

自然豊かな南区で、住民が、世代を超えて共に手を取り合い、健康で安心して楽しく暮らせるまちをつくる

### (2) 成果指標

- 1) 地域の中に住民が主体的に健康づくりを考え活動を行う部門ができる  
H25 10/19校区 → H30: 19/19校区
- 2) 健やかにいきいきと暮らしていると感じる区民の割合が増える  
H23 南区56.0% (全市57.8%) → H25 60% → H30 65%
- 3) 自ら健康づくりに取り組んでいる区民の割合が増える  
H23 南区67.4% (全市67.6%) → H25 70% → H30 75%

※2)、3)のH25、H30の目標値は全市の指数

### <個別指標>

- 1) 南区の特定健診の受診率を上げる (H23年度26.5%)
- 2) 特定健診受診者の要精密検査と要医療者の医療機関未受診者 (H23年度47人) をゼロに近づける
- 3) HbA1c(血糖値指数)の5.2以上の人の割合 (H23年度66.1%) を減らす
- 4) がん検診の受診率 (H23年度 肺がん検診19.2% 胃がん検診8.2% 大腸がん13.6% 乳がん検診21.6% 子宮がん検診26.5%) を上げる
- 5) 肥満の人 (BMIの値が25以上の人) の割合 (H23年度24.8%) を減らす (学童期～成人)
- 6) 学童期の虫歯保有率 (25.3%) を下げる

### (3) 取り組み方針・スケジュール

- 1) 6月から7月上旬にかけ、下記(4)の2)「南区健康まちづくり事業推進プロジェクトチーム」を開催し、交流室単位6班毎に関係職員間の事前の保健及び地域情報等を共有化
- 2) 併せて、職員ワークショップを通じ、上記(1)及び(2)を抽出・選定 (南区まちづくり本部へ推進プロジェクトの取り組み状況を適宜報告・情報共有)
- 3) 7月より6班毎に各校区への働きかけ、説明を開始 (地域リーダー・関係者への事前説明・理解の基に、各自治協議会等の地域住民会議に出席し、各校区の特性に応じた具体的な取り組み手法等を、住民と検討・協議、事業展開へ)

※取り組み方針、成果指標は別紙2、スケジュールは別紙3も参照のこと

#### (4) 推進体制

1) 「南区まちづくり推進本部」

今後の多様なまちづくりの課題を検討・協議していく、区長を本部長に区役所各所属長（4 総合出張所、1 出張所含む）で構成

（本事業における、区役所各課による協力・連携・支援組織として位置づけ）

2) 「南区健康まちづくり事業推進プロジェクトチーム」

本事業の個別推進へ上記1の部会として、南福祉事務所長

をプロジェクト長に、保健子ども課、まちづくり推進課、区内の6まちづくり交流室の関係職員で構成

（本事業における、実働部会として位置づけ）

※ 上記、推進本部と推進プロジェクトは、適宜情報を共有し、地域の状況に応じ、連携して地域の健康づくり活動の課題等に対応

3) 「6ブロック毎の推進班体制」

上記2の健康プロジェクトを区内6まちづくり交流室単位（富合1校区、幸田3校区、南部5校区、飽田3校区、天明4校区、城南3校区）の6班を編成し、各々の校区へ展開

※別紙4参照

## ○基礎データ (全校区分)

校区名	単位	日吉	日吉東	力合	城南	川尻	田迎	田迎南	御幸	飽田東	飽田西	飽田南	銭塘	川口	中緑	奥古閑	富含	杉上	隈庄	豊田	
面積	km <sup>2</sup>	1.28	2.41	3.22	1.72	4.34	2.07	1.68	5.40	3.70	4.89	3.46	4.86	3.57	3.42	7.53	19.59	36.88			
世帯数 (H24.4.1)	世帯	3,456	2,721	5,573	2,730	3,656	5,009	2,697	4,231	2,681	903	769	845	846	393	1,171	3,098	2,165	2,769	2,589	
人口 (H24.4.1)	人	7,740	6,566	14,350	6,294	8,758	12,885	7,129	10,558	7,103	2,587	2,079	2,354	2,209	1,064	3,475	8,609	5,971	7,587	6,927	
年齢区分	0~14歳 (年少人口)	人	1,076	1,258	2,621	1,047	1,232	2,639	1,291	1,575	1,169	310	270	296	253	90	379	1,183	832	1,213	783
	(構成比)	(%)	13.9	19.2	18.3	16.6	14.1	20.5	18.1	14.9	16.5	12.0	13.0	12.6	11.5	8.5	10.9	13.7	13.9	16.0	11.3
	15~64歳 (生産年齢人口)	人	4,970	4,474	9,024	3,976	5,416	8,606	4,697	6,613	4,505	1,516	1,247	1,406	1,222	625	1,977	5,034	3,568	4,787	4,383
	(構成比)	(%)	64.2	68.1	62.9	63.2	61.8	66.8	65.9	62.6	63.4	58.6	60.0	59.7	55.3	58.7	56.9	58.5	59.8	63.1	63.3
年齢区分	65歳以上 (老年人口)	人	1,694	834	2,705	1,271	2,110	1,640	1,141	2,370	1,429	761	562	652	734	349	1,119	2,392	1,571	1,587	1,761
	(構成比)	(%)	21.9	12.7	18.9	20.2	24.1	12.7	16.0	22.4	20.1	29.4	27.0	27.7	33.2	32.8	32.2	27.8	26.3	20.9	25.4
校区数	校区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
出生数 (H21年)	人	65	89	162	75	78	243	65	108	63	17	13	15	15	3	27	65	177			
出生率 (人口千対)		0.8	1.4	1.1	1.2	0.9	1.9	0.9	1.0	0.9	0.7	0.6	0.6	0.7	0.3	0.8	0.8	0.8			

## 南区の健康まちづくり活動方針

### 6月19日のPJ会議でのキーワード

### 6月1日のPJ会議でのキーワード

- ・運動を定期的にする
- ・食事、栄養のバランスに気をつける
- ・健診を毎年受ける
- ・健康に暮らすための知識がある
- ・健康づくりを支援する環境がある(組織化、推進体制整備)
- ・健康づくりを支援する関係機関のつながりがある
- ・できれば禁煙、マナーある喫煙
- ・ストレスと上手に付き合える
- ・地域で孤立しない
- ・健康な歯を守る
- ・生きがいがある
- ・規則正しい生活を送る
- ・子どもが明るく元気に育つ環境
- ・適正な飲酒

- ・個人でできること、地域でできることを組み合わせて考えることが必要
- ・自分の身体を知ることがまず必要、そのためには受診率アップが必要
- ・自治協も活動を模索中であるため、自治協に投げかけて相談していくと協力して活動できるのではないか
- ・住みやすい、住んでよかったと思えるようなまちにしたい
- ・まずは、自治協に話を持っていく方がスムーズ
- ・健康に暮らすための知識を持つことが必要
- ・南区ならではのものを活用する(新幹線、雁回館の桜)
- ・長生き＝健康ではない。介護保険の状況を見ることは大事である
- ・住民が集まらないと健康づくりができない
- ・自然と共存する地域であってほしい
- ・地産地消であってほしい
- ・年をとっても出かける場所がある
- ・生活習慣にポイントを絞って目標を考えてはどうか?
- ・働きかけるためには、健康データを見せることが大事である
- ・自治協の定例会の活用が必要である
- ・生きがいを持つことが大事で、それを支援していく活動であってほしい
- ・健診の受診率を上げることが必要
- ・介護予防も大事である
- ・子どもへのアプローチで親世代への働きかけができる
- ・安心して暮らせる南区
- ・地域で団結している

南区の特定健診結果等

7月4日のPJ会議で検討

### 南区の健康まちづくり目標

自然豊かな南区で、住民が、世代を超えて共に手を取り合い、健康で安心して楽しく暮らせるまちをつくる

### 評価指標

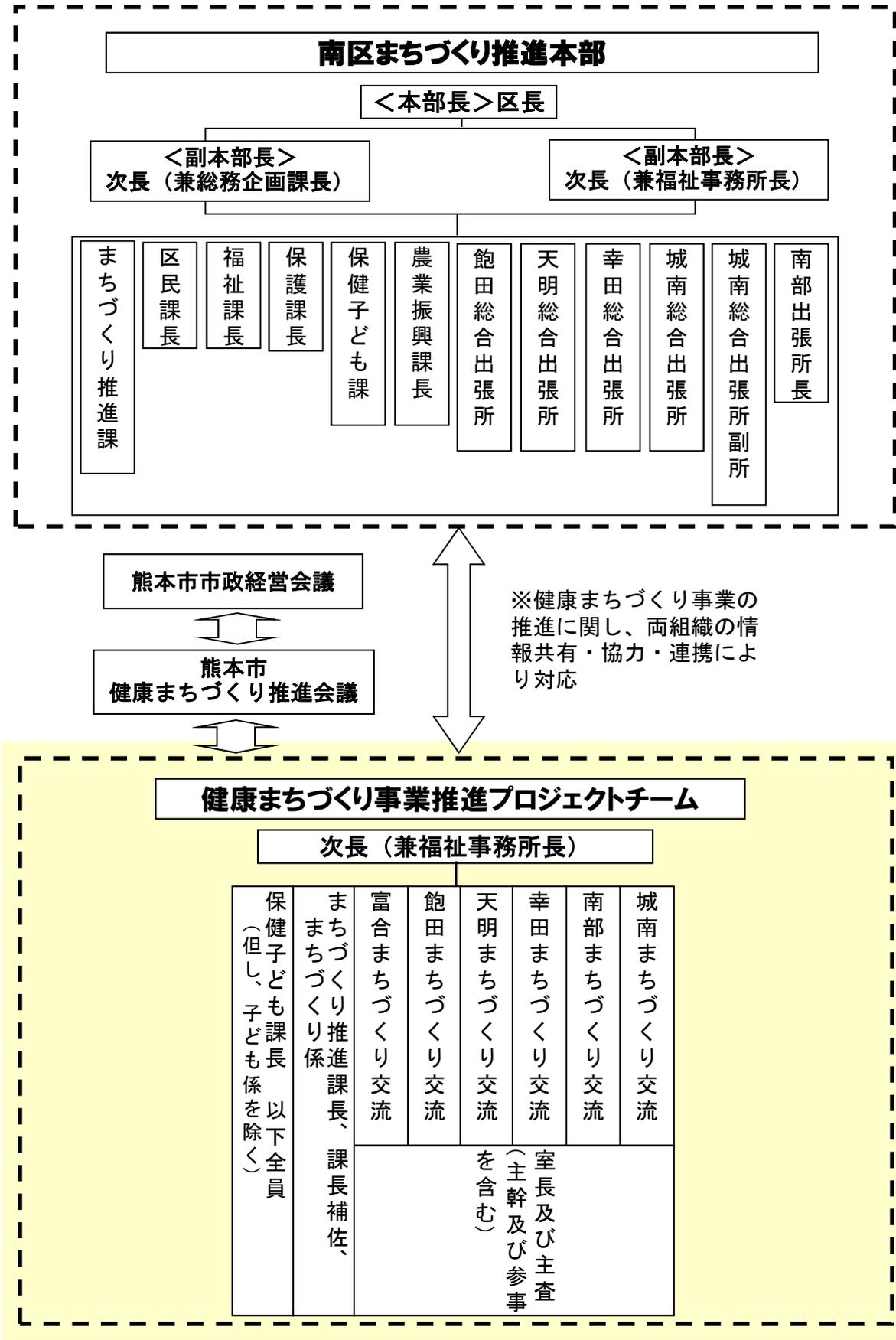
- 1 地域の中に住民が主体的に健康づくりを考え活動を行う部門ができる(H25年10/19校区 H30年19/19校区)
- 2 健やかにいきいきと暮らしていると感じる区民の割合が増える(H23年56.0% H25年60% H30年65%)
- 3 自ら健康づくりに取り組んでいる区民の割合が増える(H23年67.4% H25年70% H30年75%)

### 個別指標

- ア) 南区の特定健診の受診率を上げる(H23年度26.5%)
- イ) 特定健診受診者の要精密検査と要医療者の医療機関未受診者(H22年度47人)をゼロに近づける
- ウ) HbA1cの5.2以上の人割合(H23年度66.1%)を減らす
- エ) がん検診の受診率を上げる(H22年度 肺がん検診19.2% 胃がん検診8.2% 大腸がん検診13.6% 乳がん検診21.6% 子宮がん検診26.5%)
- オ) 肥満の人(BMIの値が25以上の人)の割合(H23年度24.8%)を減らす(学童期～成人)



推進体制



## V 北区

### 1 区の概要

#### (1) 地理的特徴



- ・北区は、熊本市の北部に位置する5区の中で最も面積が広い縦長の地域です。
- ・山鹿市、菊池市、合志市、玉東町、菊陽町と隣接し、坪井川・井芹川の上流域にあたるほか、東区との境界は白川となっている。
- ・区の南部、中央区との区界付近には立田山がある（標高152m、山頂および北側・西側が北区内）。国道3号が縦貫し、国道208号との合流点がある。
- ・熊本都市圏の環状道路機能を果たす熊本北バイパス（熊本北バイパス）は、熊本市東部の熊本東バイパスから分岐し、北西へ伸び現在国道387号までを接続している。それより先は暫定2車線で工事をしている。
- ・北西から東へ九州自動車道が通り、植木インターチェンジ（国道3号と接続）合志市・菊陽町・北区・菊陽町を經由して再度北区に入ったところに武蔵ヶ丘高速バス停が設置されている。
- ・西側にJR鹿児島本線、南東部に熊本電鉄菊池線が通り、八景水谷駅・亀井駅がある。

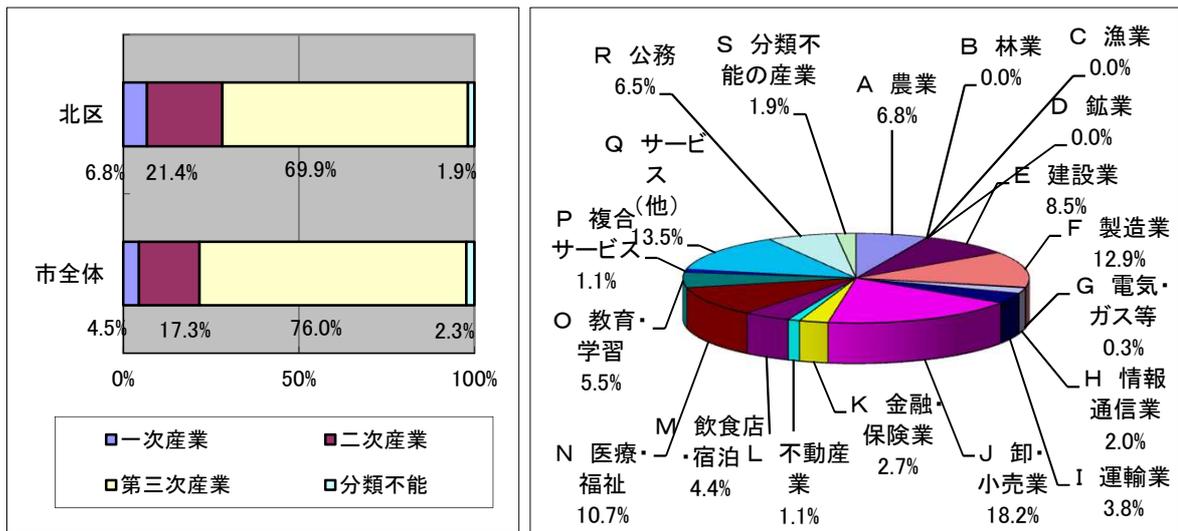
#### (2) 基礎データ

		北区		熊本市	
面積		115.65	km <sup>2</sup>	389.54	km <sup>2</sup>
世帯数（H24.4.1）		60,576	世帯	316,797	世帯
人口（H24.4.1）		147,019	人	724,558	人
年齢3区分	0～14歳（年少人口） （構成比）	21,883 (14.9%)	人 %	105,955 (14.6%)	人 %
	15～64歳（生産年齢人口） （構成比）	91,799 (62.4%)	人 %	463,158 (63.9%)	人 %
	65歳以上（老年人口） （構成比）	33,337 (22.7%)	人 %	155,445 (21.5%)	人 %
校区数		20	校区	92	校区
出生数（H21年）		1,533	人	6,851	人
出生率（人口千対）		10.5		10.1	

\* 別紙1（北区）参照

(3) 産業の状況

(平成17年国勢調査より)



(4) 地域活動団体の状況

団体名	団体数	状況等
・ 校区自治協議会	21	植木地区の自治協議会 9 か所は、平成23年度に設置。菱形校区内の大和地区にも設置。
自治会	228	菱形校区内に大和地区の自治会組織がある。
社会福祉協議会	17	植木地区では、平成24年度になり、5 か所誕生。H24年 7月現在 植木、山本、桜井、大和、田底
民生委員児童委員協議会	13	楠・楡木校区と武蔵・弓削校区は、各 2 校区での民児協。
・ P T A	30	小学校20、中学校10
・ 食生活改善推進員	1	校区単位で活動。植木地区は 8 校区で活用。
・ 8020推進協議会	1	保健こども課事業への協力。劇団での普及活動。
・ 介護予防サポーター	1	北区内で協力して活動。
・ いきいき未来のつどい	1	地域、包括、社協等24団体との協働ネットワーク会 昭和59年～北保健福祉センター管内地域成人保健研修会
・ 高平台校区健康づくり推進協議会	1	平成9年度～ 5 年間のモデル事業の後、活動継続。
・ 高平台校区における受診について考える会	1	平成23年度～ 代表：高平台校区健康づくり推進協議会 事務局：NPO法人健康と幸せの会 行政メンバー：国保年金課、北区保健子ども課

#### (5) 区の特徴

- ・北区の人口構成比では、年齢3区分はほとんど熊本市と同じような割合である。
- ・高齢化率は22.7%で熊本市全体よりやや高く、30%を超えるのは、田底校区と山本校区、吉松校区である。
- ・出生率は10.5で熊本市全体よりやや高く、13.0を超えるのは、川上校区、弓削校区、北部東校区である。
- ・産業別就労者割合について、北区は、熊本市と同じような割合で、卸・小売業が最も多く、次にサービス業、製造業、医療・福祉の順となっている。ほとんどの校区が先の3産業が多い割合であるが、城北校区は公務が、西里校区と植木地区は農業が最も多くなっている。
- ・北区にはすでに「いきいき未来のつどい」や「高平台校区健康づくり推進協議会」等の健康づくりに関する推進団体が存在している。

## 2 区の活動方針

### (1) 区の目標

区民一人ひとりが、望ましい生活習慣を身につけ、住み慣れた地域の中で健康にいきいきと暮らしていけるように、区民協働で地域の健康まちづくりを推進する。

(短期取り組み目標)

- ・各校区のキーマンとなるリーダーや組織を決定する。
- ・北区管内の全小学校へアプローチ
- ・関心の高い小学校の校医へアプローチ

### (2) 成果指標

健診の受診率の数値

- ・特定健診の校区受診率の向上（国保） H30：H23年度の各校区受診率5%向上

第6次総合計画住民アンケート

- ・健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合  
H23 北区57.1%（全市57.8%） → H30 65%
- ・自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合  
H23 北区66.3%（全市67.6%） → H30 75%

### (3) 取り組み方針・スケジュール

#### ○取り組みの3方針

- 1 既存の成人保健業務の見直し
- 2 小学校を介した若年世代へのアプローチ
- 3 社会資源の地域貢献をコーディネート

#### ○スケジュール

H24～H25

- ・各校区のキーマンとなるリーダーや組織を決定する。
- ・北区管内の全小学校へアプローチ
- ・関心の高い小学校の校医へアプローチ

H25～H27

- ・各地域組織等での健康づくりに関する取り組みを実施

H27

- ・中間評価

H28～

- ・中間評価に基づく取り組みの見直し及び修正

\*別紙2、別紙3参照

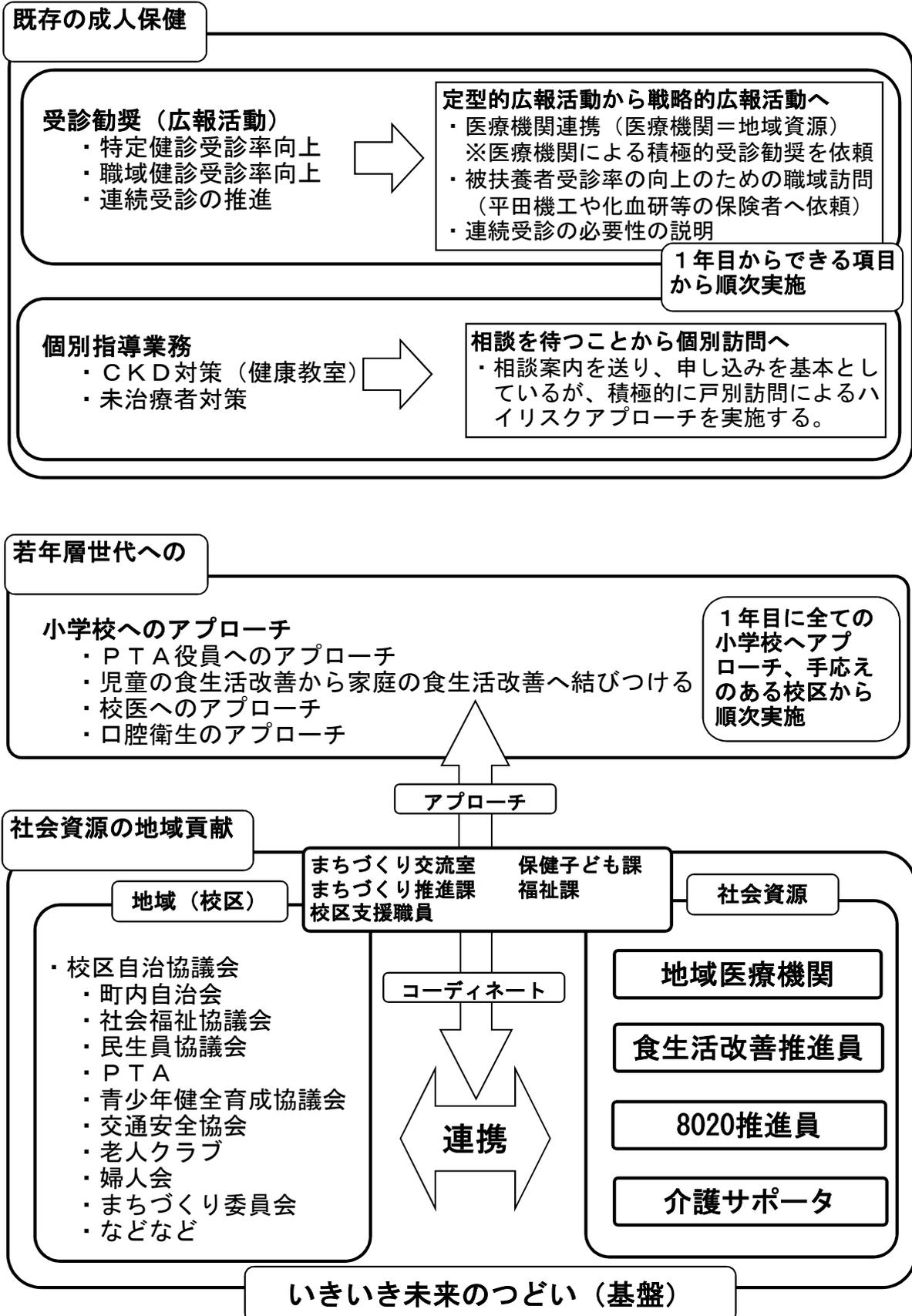
### (4) 推進体制

別紙4のとおり

## ○基礎データ

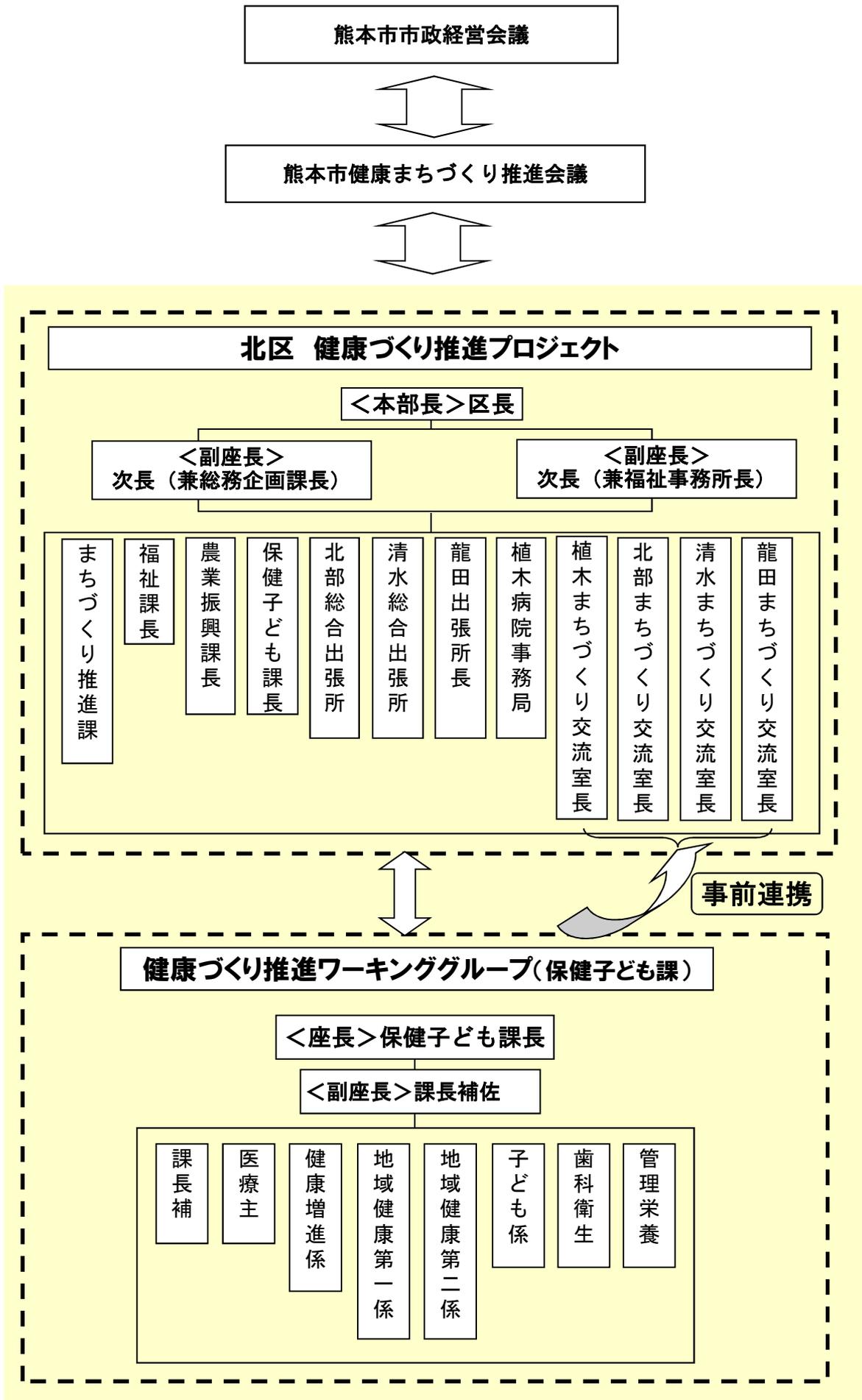
校区名	高平台	清水	城北	麻生田	楡木	楠	武蔵	弓削	龍田	川上	北部東	西里	植木	山本	山東	田原	菱形	大和	桜井	吉松	田底		
面積	km <sup>2</sup>	3.52	3.47	1.92	2.16	1.25	0.80	1.03	1.24	4.71	10.22	3.56	15.96	65.81									
世帯数 (H24.4.1)	世帯	6,351	5,405	4,881	3,820	3,069	2,887	2,812	2,190	7,101	3,939	3,986	2,863	1,879	705	1,392	855	928	862	2,192	1,353	1,106	
人口 (H24.4.1)	人	14,371	11,813	10,159	9,226	7,210	6,612	6,778	5,264	17,274	10,093	9,995	7,733	4,951	2,100	3,832	2,459	2,784	2,126	5,784	3,722	2,733	
年齢区分	0~14歳 (年少人口)	人	1,789	1,595	1,492	1,484	1,124	940	1,099	850	3,045	1,687	1,645	1,136	865	203	495	273	380	189	881	417	294
	(構成比)	(%)	12.4	13.5	14.7	16.1	15.6	14.2	16.2	16.1	17.6	16.7	16.5	14.7	17.5	9.7	12.9	11.1	13.6	8.9	15.2	11.2	10.8
	15~64歳 (生産年齢人口)	人	8,829	7,110	6,740	5,549	4,369	4,008	4,056	3,382	11,153	6,539	6,463	4,905	3,083	1,233	2,523	1,471	1,700	1,265	3,670	2,189	1,562
	(構成比)	(%)	61.4	60.2	66.3	60.1	60.6	60.6	59.8	64.2	64.6	64.8	64.7	63.4	62.3	58.7	65.8	59.8	61.1	59.5	63.5	58.8	57.2
	65歳以上 (老年人口)	人	3,753	3,108	1,927	2,193	1,717	1,664	1,623	1,032	3,076	1,867	1,887	1,692	1,003	664	814	715	704	672	1,233	1,116	877
(構成比)	(%)	26.1	26.3	19.0	23.8	23.8	25.2	23.9	19.6	17.8	18.5	18.9	21.9	20.3	31.6	21.2	29.1	25.3	31.6	21.3	30.0	32.1	
校区数	町内数	校区	14	7	3	5	4	5	5	6	7	20	14	26	13	6	12	16	14	8	18	13	12
出生数 (H21年)	人	115	123	106	97	84	45	73	69	202	86	125	135	51	20	31	11	38		78	23	21	
出生率 (人口千対)		7.9	10.2	10.2	10.4	11.4	6.6	10.9	13.4	12.2	13.4	13.1	11.0	9.0									
死亡数 (H21)	人	113	121	54	67	53	37	41	34	107	82	60	52	283									
死因別死亡順位 (H21)	死亡1位		がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん	がん									
		人	44	39	16	18	17	15	17	8	28	25	19	16	88								
	死亡2位		心疾患12	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患10	脳血管疾患8	心疾患	心疾患							
		人	肺炎12	19	12	10	9	9	8	6	23	肺炎10	肺炎8	8	48								
死亡3位		脳血管疾患	肺炎	脳血管疾患	脳血管疾患	肺炎	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	肺炎	脳血管疾患	心疾患	肺炎3	脳血管疾患 27									
	人	8	13	5	6	7	4	3	4	14	6	7	老衰3	肺炎 27									
介護予防	65歳以上人口 (H24.1)	人	3,713	3,069	1,920	2,161	1,707	1,641	1,599	1,018	3,045	1,865	1,868	1,667	980	663	808	707	1,349		1,218	1,103	869
	(うち75歳以上)		1,904	1,625	990	1,085	782	766	700	457	1,548	933	1,004	871	449	418	431	402	693		630	637	516
	高齢化率	%	25.7%	25.8%	18.7%	23.5%	23.6%	24.7%	23.4%	19.5%	17.6%	18.4%	18.7%	21.6%	19.8%	31.4%	20.8%	28.6%	27.5%		20.9%	29.7%	31.6%
	介護認定人数 (65歳以上) (H24.1)	人	652	574	345	376	296	282	244	194	604	364	374	332	185	129	154	162	268		257	222	215
	%	17.6%	18.7%	18.0%	17.4%	17.3%	17.2%	15.3%	19.1%	19.8%	19.5%	20.0%	19.9%	18.9%	19.5%	19.1%	22.9%	19.9%		21.1%	20.1%	24.7%	
特定健診状況	国保40歳以上被保険者数 (H23年度)	人	2,887	2,325	1,498	1,817	1,343	1,367	1,266	945	2,701	1,745	1,591	1,642	904	558	772	610	1,486		1,020	900	668
	受診者数 (H23年度)	人	719	670	320	495	375	373	371	211	660	452	394	442	271	184	239	157	430		230	221	145
	受診率 (H23年度) H24年5月抽出	%	24.9%	28.8%	21.4%	27.2%	27.9%	27.3%	29.3%	22.3%	24.4%	25.9%	24.8%	26.9%	30.0%	33.0%	31.0%	25.7%	28.9%		22.5%	24.6%	21.7%

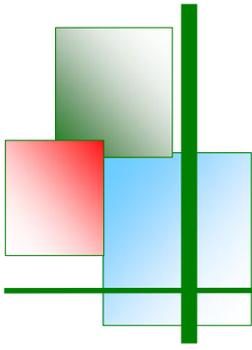
## ○校区単位の健康づくり事業の概要



( 北 ) 区の推進スケジュール

担当	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
<b>市民と協働の活動展開</b>																																				
<b>区役所関係課プロジェクト</b>																																				
<b>北区まちづくり推進会議</b> (まちづくりビジョン策定検討委員会) 座長: 区長 副座長: 両次長 メンバー: 総務企画課、まちづくり推進課長、区民課長、福祉課長、保健課長、保健子ども課長、農業振興課長、農業委員会北区分室長、各まちづくり交流室長、各総合出張所長		●ビジョン策定検討委員会設置(5/31) ●統計データ分析、課題抽出 ●ブロック単位(龍田・清水・北部・植木)の区民を交えての意見交換会(第1回目8月中旬、第2回目9月中旬) ●全職員へ区長より説明(7/9・10) ●リレーシンポジウム ●ビジョン(素案)作成 ●地域ごとの意見交換会 ●パブリックコメント ●地域説明会																																		
<b>北区健康づくり推進プロジェクトチーム</b> 座長: 区長 副座長: 両次長 メンバー: まちづくり推進課長、福祉課長、農業振興課長、保健子ども課長、各総合出張所長、各植木まちづくり交流室長、植木病院事務局長		●趣旨説明及びプロジェクトチームメンバー承認 ●区活動方針(案)・作業スケジュール等の確認																																		
<b>北区健康づくりワーキンググループ</b> (※関係各課を含むワーキングチーム作業も必要時開催) 座長: 保健子ども課長 メンバー: 課長補佐、医療主幹、地域健康第1・第2係、健康増進係、子ども係		●4/24・27 ●5/1・2 ●7/4・6 ●7/9 ※校区毎のデータ整理、健康課題、取り組みの方向性荷について検討																																		
<b>いきいき未来のつどい(実行委員会・企画委員会)</b> 保健子ども課		●2012/6/19実行委員会 ●企画委員会 ●実行委員会 ●企画委員会 ●実行委員会 ●企画委員会 ●実行委員会 ●企画委員会 ●実行委員会 ●研学会開催																																		
各校区での協働会議・イベント啓発等 ・自治協議会 ・社会福祉協議会 ・民生員児童協議会 ・小中学校 ・健診、イベントでの啓発等 ・三師会(医師会・歯科医師会・薬剤師会) ・医療機関 ・食生活改善推進協議会 ・校区健康づくり推進協議会 ・企業、協会健保等 ・その他の組織、機関、団体		●説明及び働きかけ ●(城北・武蔵・弓削) (田底・植木・楠・植木・田底) ※全校区で実施予定 ●(全校区) ※全校区で実施予定 ●学校保健委員会での説明及び協議(城北・高平台・植木・楠・龍田) ※全小中学校に説明予定 ●植木地区、北部地区集団健診及び結果説明会 ●龍田 ●高平台 ●城北 ●北部 ●城北 ●植木地区、龍田地区集団健診及び説明会 ●食会総会時説明 ●説明・事業協力依頼 ●各医療機関への説明 ●生活習慣病対策ネットワーク連絡会 ●各地域包括支援センターへ説明 ●健康を守る婦人の会へ説明 ●(平田機工・リョウユウバン等への説明及び協働取組について協議) ●北区障がい者保健福祉連絡会で説明 ●介護予防サポーターへ説明																																		
<b>庁内推進体制の整備</b>																																				
<b>本庁・区役所関係課への説明</b>			●区役所保健子ども課ヒアリング ●事業説明会 ●4/16 市長講話等 ●各区PJとの意見交換会 ●5/10																																	
<b>市政経営会議等</b>			●経営戦略会議(一政策調整会議) 企画課 健康づくり推進課 ●区活動方針の決定 ●市政経営会議 企画課 健康づくり推進課 ●区活動方針の策定指針の決定 ●区活動方針の報告 ●活動状況の中間報告																																	
<b>健康まちづくり推進会議</b>			●会議開催 健康づくり推進課 ●5/23区活動方針の策定指針案等の検討 ●区活動方針案等の検討 ●活動状況の中間取りまとめ																																	
<b>その他</b>			●市長記者会見等 ●5/9 定例会見 ●市政だより(市長のわくわく宅配便)																																	
<b>事業推進の支援</b>																																				
<b>熊本市の医療費・健診結果分析</b>		●データの整理・分析 区役所、国保年金課、健康づくり推進課、その他関係課																																		
<b>24年度予算</b>		●予算管理 健康づくり推進課 ●補正予算 区役所																																		
<b>25年度予算</b>		●予算編成(資料作成) 健康づくり推進課 区役所																																		





# 平成24年度

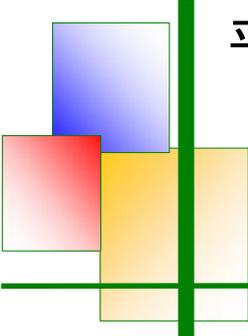
---

## 西区健康まちづくり 報告会

日 時 平成25年2月24日(日曜日) 9時30分  
場 所 西区役所・西部公民館大ホール  
主 催 西区役所・西区健康づくり部会







# 平成24年度西区健康まちづくり報告会資料

## 目 次

---

熊本市及び西区健康まちづくり活動方針について

P3 熊本市健康まちづくり活動方針

P4 西区健康まちづくり活動方針

P5 ファシリテータ紹介

熊本大学 政策創造研究教育センター河村洋子准教授

P6 校区の取り組み報告資料

P7 河内校区健康づくり・子育て支援ネット

P9 花園校区健康づくり部会

P11 池田校区健康まちづくり部会

P13 城西校区健康まちづくり部会

P15 松尾北校区健康部会

P17 高橋校区健康まちづくり部会

P19 中島校区健康まちづくり推進委員会

P22 西区健康まちづくりロゴマーク及びキャラクター



# 熊本市及び西区健康まちづくり活動方針について

## I 熊本市健康まちづくり活動方針

### 1 健康まちづくり事業の経緯

本市では、熊本市第6次総合計画及び健康くまもと21基本計画に基づき、健康的な生活習慣の実践を支援している。

このような中、若い世代からの生活習慣病対策に重点を置いた取り組みとして、市民との協働により、河内校区及び花園校区で生活習慣病改善モデル事業を実施した。その結果、住民意識が高まり、地域の中に健康づくり組織ができたほか、健康の視点が盛り込まれた地域の催しが開催されるなど、校区全体での健康づくり活動につながった。

「健康づくり」は、個人の意識に拠るところが大きいものと考えられているが、個人の健康づくりを実践、継続していくためには、人と人とのつながりを強め、お互いに支えあい、地域の健康課題を考える場などの環境整備も必要であり、これには地域活動の拡がりや、各種団体の活性化につながる「まちづくりの要素」が多く含まれている。

政令市移行に伴い、区役所をまちづくりの拠点として、地域の個性や特性を活かした「まちづくり」に取り組んでおり、その中で、特に市民一人ひとりの心身の健康は、地域の活力の源であることから、これまで培ってきた校区保健師活動やモデル事業でのノウハウ等を活かし、市民との協働による健康づくりをテーマとしたまちづくりを小学校区単位で取り組むことにした。

### 2 健康まちづくり事業の考え方

#### ○ 区ごとの推進

地域の特色にあった手法で取り組むこととし、区役所内の関係課が協力して取り組む体制を整備する。

#### ○ 小学校単位での活動展開

これまでのモデル事業をベースとしながら、その校区の個性や特性を住民と共有しながら、住民と協働による健康まちづくりの取り組みを展開する。

#### ○ マネジメントサイクル(PDCA)の考えに基づく進行管理

区及び校区において、「地域の実態分析」→「活動の計画」→「実施」→「評価」の過程を住民と協働で進め、その過程の繰り返しによる自律的な活動の仕組みを確立する。

### 3 健康まちづくり事業の目標

全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる。

#### ○ 成果指標

##### ① 健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合

57.8%(H23) ⇒ 65%(H30)

##### ② 自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合

67.6%(H23) ⇒ 75%(H30)

## Ⅱ 西区健康まちづくり活動方針

### 1 目標

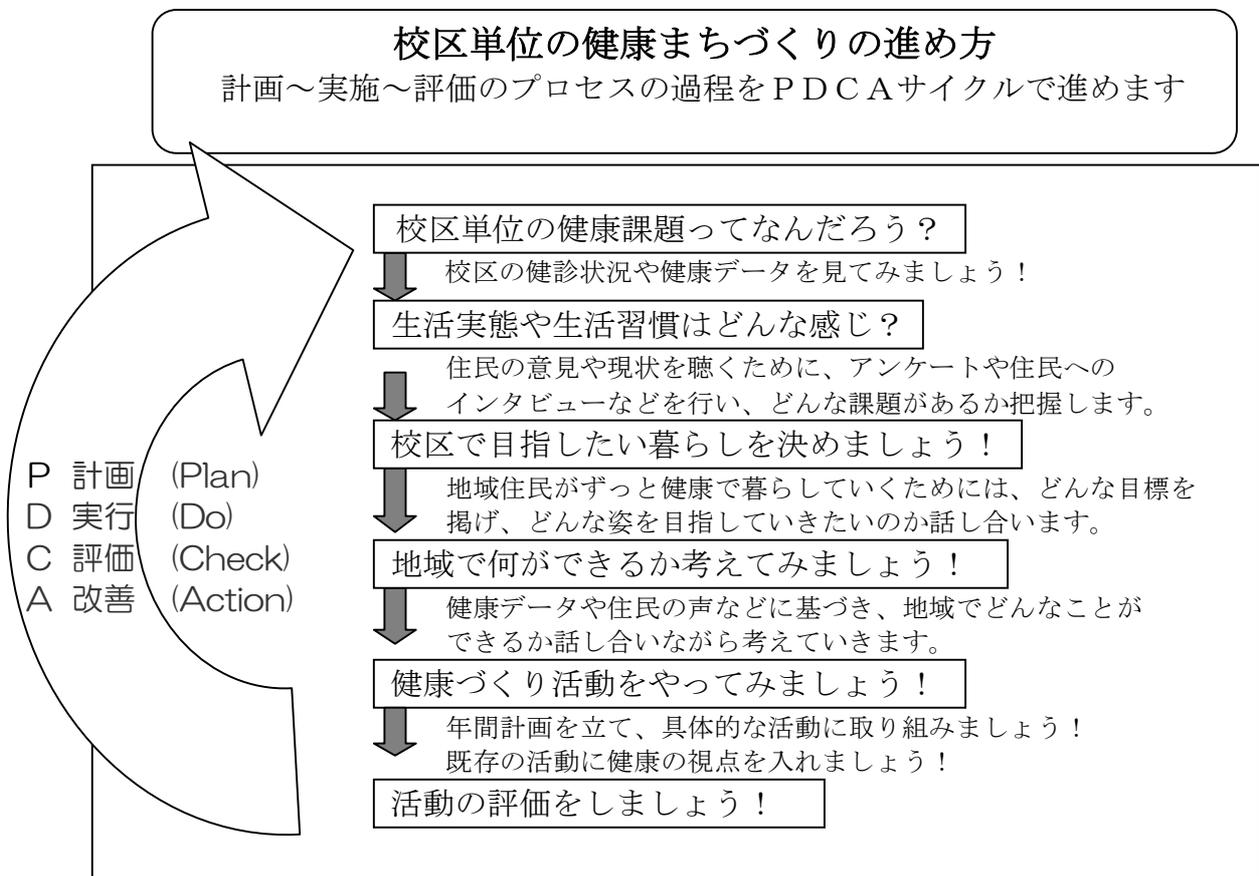
西区は、文化、歴史の継承をはじめとする地域活動が活発であるとともに、地域のつながりが強く、また、豊かな自然にも恵まれている。このような環境で、いつまでも元気に暮らし続けることを目指し、西区の健康まちづくりの目標を次のとおりとした。

西区の自然の恵みや伝統文化を活かし、区民協働により笑顔あふれる健康なまちをつくる

### 2 活動方針

若い世代からの生活習慣病予防を広く浸透させ、将来にわたって地域主体で自主的に継続されるために最も有効な手段として、校区自治協議会を母体等に推進体制を全校区に設置する。

生活習慣病改善モデル校区の実績及びこれまで保健師等が地域保健活動のなかで培ってきたノウハウを活かし、PDCAサイクルを基本とする過程を住民と協働で進めていく。



### 3 具体的な目標

- ① 全ての校区で健康まちづくり事業に取り組む。
- ② 校区自治協議会を母体とした健康づくりを考える組織をつくる。
- ③ 健康まちづくり事業や校区保健師活動の認知度を高める。
- ④ 個人の健康意識を向上させるとともに、健康行動の実践につなげる。
- ⑤ 特定健診の受診率を上げる。
- ⑥ 地域の自然や校区の伝統文化を活かした健康づくりを活動する。
- ⑦ 働き盛り世代の健康チェック等で改善が必要な個人に専門的支援を実施する。

# ファシリテーターご紹介

校区の皆様との対話を通じて先生も一緒に考えていただき、専門的な視点からのご助言をいただくとともに、会のコーディネートをお願いしています。



熊本大学  
政策創造研究教育センター

河村 洋子 准教授

出身 山口県

## 主な経歴

中央大学法学部法律学科卒業  
株式会社ディーシーカード勤務  
2004年7月 米国アラバマ大学バーミングハム校公衆衛生大学院  
Master of Public HealthとPhD (Health Education and Promotion) 修了  
2006年12月 帰国  
2007年2月 ベネッセ教育研究開発センター研究員  
2008年4月 国立がんセンターリサーチレジデント  
2009年8月 熊本大学政策創造研究教育センター准教授  
～現職

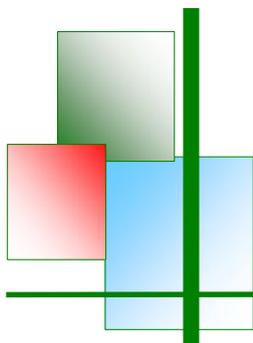
## 専門分野

ヘルスコミュニケーション、ヘルスプロモーション、健康教育。  
中でも、充実した日々の生活を送ることができるように、その資源となる健康につながるライフスタイル、行動を支えるためのコミュニケーション/教育、社会の仕組みといった実践的な方法論を専門とする。

地域をフィールドとして、若者の性の健康や生活習慣病予防等の保健、あるいは人同士のつながりといった地域福祉の分野の実践的な研究を推進中。

# 校区の取り組み

## 報告資料



健康まちづくりに取り組もうと思われたきっかけ、この活動が校区の活動にどのように活かしていけると思われたかなどの思いを書いていただくようお願いしたものです。

また、実際取り組んでみて、健康づくりを考える組織が立ち上がるまでのご苦労や、組織づくりでの工夫、取り組んでみてよかったと思われた点、課題だと思われる点などを盛り込んでいただいています。

地域の皆様の思いを知ることができて、今後の活動に大いに役立つものとなりました。

このたびの報告会にあたり、ご尽力いただきました皆様方に心からお礼申し上げます。

今後も、地域の皆様と、校区保健師や西区健康づくり部会とともに、一緒に取り組んでまいります。

ご協力どうぞよろしくお願いいたします。



## 河 内 校 区

名称	河内校区健康づくり・子育て支援ネット
設置時期	平成20年3月18日
健康づくりの組織が立ち上がるまでの経過と思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援ネットワークを組織したが、地域のつながりが強く、3世代同居が多いため、子育て家庭の孤立化などの問題はなかった。しかし、子どもの肥満が多いこと、働き盛りの世代には生活習慣病予備軍が多いことが健康課題であった。</li> <li>・子どもの健康を守るためには、働き盛り世代を含めた家庭からの健康づくりが必要と考え、「健康づくり・子育て支援ネット」として生活習慣病対策をはじめた。</li> <li>・自分たちが若いころに、国の施策としてみかん栽培の拡大がされた。そういった背景の中、河内校区は漁業・農業等のおかげで若い農業・漁業後継者が多い。しかし、自分の若いころは仕事で忙しくて健康を振り返る機会はなかった。今の若い人たちは、自分の体のこと健康のことを考えてほしいと思った。</li> <li>・熊本市での初めての生活習慣病改善モデル事業に取り組むことになったため、とても不安があったが当時の校区保健師の熱意にほだされ引き受けた。</li> </ul>
会長	小崎 雅輔（河内校区社会福祉協議会長）
構成メンバー	社会福祉協議会、民生児童委員協議会、体育協会、青少年健全育成協議会、河内小学校、河内小学校親師会（PTA）、河内中学校、河内中学校親師会（PTA）、河内校区子ども会、まちづくり委員会、食生活改善推進員、聖ヶ塔病院、堀尾内科医院、河内校区自治会連合会、JA熊本市河内支店、熊本市河内商工会、河内漁業協同組合、からたち保育園、西区健康づくり部会
組織の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発足当初は、社協、民児協、小学校、中学校、小中学校親師会（PTA）など13団体で組織した。</li> <li>・活動を進める中で、働き盛り世代に働きかけるために商工会、漁業、JA、医療機関、子ども会、自治会も加わり、校区全体で取り組む体制が整った。</li> </ul>
目指す姿	仕事に誇りを持ち、生涯仕事を続け、気の合う仲間と一緒に楽しみながら生活する
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの最初に、健康づくりに大切なことをみんなで話し合い、めざす姿や活動計画をたてる。</li> <li>・実行委員会を年に3～4回開催。活動の計画・打ち合わせ・振り返り</li> <li>・健康づくり作品コンクール（今年度で4回目） 健康づくり活動の一環として、夏休みに河内小学校で作品を募集。</li> <li>・30歳代の方の健康チェック 身体測定や血圧測定、尿検査、血糖測定、歯石の有無のチェックを行い、医師や栄養士・保健師等が結果説明やアドバイスをおこなった。</li> <li>・親子学習会（今年度で3回目） 学校の親子レクレーションのなかで、親子のふれあいを通して楽しみながら出来る『体操教室』を実施。</li> <li>・健康づくり風あげ大会（今年度で4回目） 親子の交流や外遊びの機会、地域交流の取り組みとして開催。</li> <li>・子宮がんについての勉強会 小中学校保護者を対象に実施。</li> </ul>
今後の予定	・今年度の活動を振り返り、新年度の計画を作成予定。
この活動に取り組んで良かった点、苦労した点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集客がもっとも難しく、最大の課題であるが、学校や親師会（PTA）の協力があり、対象となる親子に働きかけることができています。</li> <li>・親師会（PTA）では、学級レクレーションでこの活動を活用することができた。</li> <li>・学校としては、日ごろ地域の協力をお願いしているので、少しでも地域の活動に還元したい。</li> <li>・モデル事業の2年間で活動が終わると思っていた。予算がなくなって困っていたが、商工会やJA、漁協、障がい者施設などの地域団体の協賛で運営できるようになったのも、継続して続けることができた要因である。</li> <li>・活動以前より地域や学校とのつながりがあったが、活動を通してより密接なつながりができた。</li> <li>・どれだけの効果があったかは未知数ではあるが、多くの皆さんに健康に関心をもってもらえるようになったと思う。</li> </ul>

《 河内校区のめざす姿 》  
 「仕事に誇りを持ち、親みたいにならな仕事続け、気の合う仲間と一緒に」

# 平成24年度『河内校区』の主な取り組み

健康づくり作品コンクール



5年 吉川 幸伸 さんの作品

30歳代の健康チェック

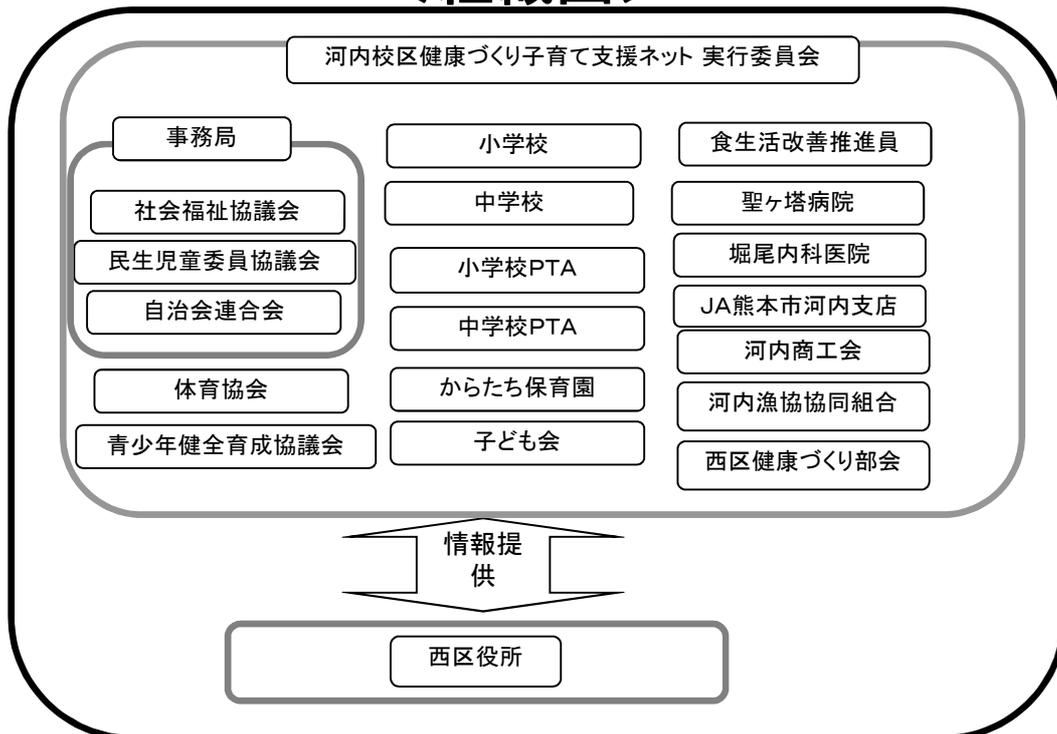


親子学習会(親子体操)



健康づくり凧あげ大会

## ＜組織図＞



## 花 園 校 区

<b>名称</b>	健康づくり部会(花園校区自治協議会 専門部会)
<b>設置時期</b>	平成21年度に部会設置、22年度からモデル事業開始
<b>健康づくりの組織が立ち上がるまでの経過と思い</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治協議会の中に、専門部会として「健康づくり部会」を設立することになり、それまで実施していた校区献血推進協力の他に、どのような活動が出来るのか、と考えていた。</li> <li>・当時の西保健福祉センターの校区担当保健師さんと相談し、地域と行政との協働で健康づくりに取り組むことになり、西保健福祉センターの見学から活動がスタートした。</li> <li>・働き盛り世代への健康づくりということで戸惑いもあったが、校区の中の既存の事業を生かしながら活動するという方針を決めた。</li> <li>・まず、健康づくり部会の会員から、健康に対する意識や知識を高めるため、定期的に部会の学習会を開いている。</li> <li>・部会員皆わきあいあいの中で楽しく活動し、校区の皆様の健康への意識を高め、役立てるよう取り組んでいる。</li> </ul>
<b>会長</b>	稲田 恵美子
<b>構成メンバー</b>	1～9町内の婦人会・女性部から選出
<b>組織の特徴</b>	校区自治協議会の中に、健康づくりの専門部会として既設
<b>目指す姿</b>	健康への意識を高め、ゆとりを持ち、地域に見守られる安心感を得ながら、心も体も元気な暮らしを維持できる
<b>活動の内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校PTAアンケート</li> <li>・小学校バザーオープンハウス</li> <li>・30歳・40歳健康チェック・アンケート</li> <li>・子ども会フォーカスグループインタビュー</li> <li>・校区運動会でのPI活動</li> <li>・花園コミセン祭り健康サロン</li> <li>・健康づくり部会学習会</li> <li>・花園校区拡大学習会</li> </ul>
<b>今後の予定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくり部会の会議の中で、花園校区の健康課題について西区役所と情報交換しながら、次年度の計画を立てている。</li> <li>・定期的な部会学習会を継続しながら、校区の皆さまに呼びかけ開催する「拡大学習会・健康セミナー」の企画や、校区のイベントを活用した「働き盛り世代への健康チェック」など、今後も継続していく予定。</li> </ul>
<b>この活動に取り組んで良かった点、苦労した点等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな活動を実施する時、動員呼びかけは大変な時もあったが、健康づくり部会を通して、部会員をはじめ地域の方々と仲良くなり、楽しく活動できて健康への意識も深まった。</li> <li>・西区役所や花園まちづくり交流室、健康さるく熊本西の協力で、とても充実した活動が出来て良かったと感じている。</li> <li>・地域で健康づくりを実践している住民の代表として、熊本市の健康づくりの会議に参加して、校区での活動を紹介している。</li> </ul>

《 花園校区のめざす姿 》  
 『健康への意識を高め、ゆとりをもち、地域に見守られる  
 安心感を得ながら、心も体も元気な暮らしを維持できる』

# 平成24年度『花園校区』の主な取り組み



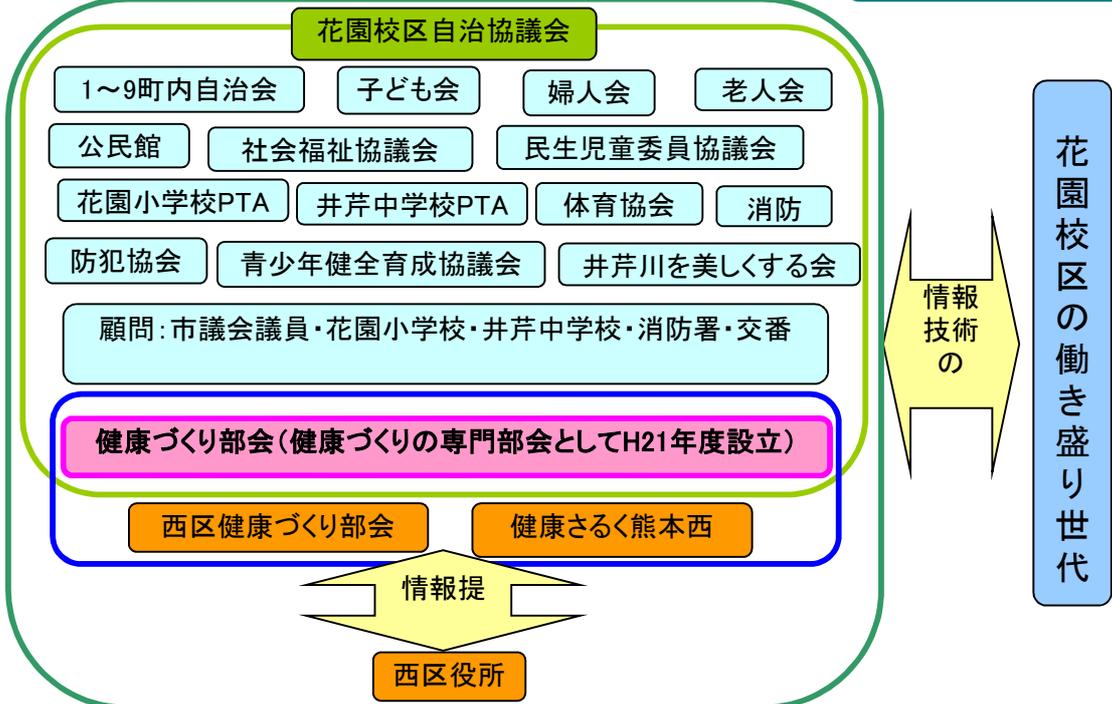
拡大学習会 健康セミナー主催  
 「がん予防講演・ピラティス体験」



花園小学校PTAバザーにて  
 働き盛り世代の健康チェックと

コミセン祭りで  
 健康サロンを開設

## ＜組織図＞



## 池 田 校 区

<b>名称</b>	池田校区健康まちづくり部会
<b>設置時期</b>	平成24年10月24日
<b>健康づくりの組織が立ち上がるまでの経過と思い</b>	西区役所からの説明に、“健康づくり”と、あらためて意識してみると健康の大切さを忘れていたことに気づかされ、行政の指導のもとに自治協議会の中に健康づくり部会をおき、各種団体で取り組んでいる健康に関する活動をさらに構築していくこととした。
<b>代表者</b>	塚本 忠（池田校区自治協議会会長）
<b>構成メンバー</b>	自治会、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、体育協会、青少年健全育成協議会、交通安全協会、まちづくり委員会、池田小、池田小PTA、地域福祉委員会、京町交番、上熊本交番、保護司、防犯協会、地域公民館、老人クラブ連合会、地域コミセン運営委員
<b>組織の特徴</b>	既存の組織を活用し、健康づくりに繋げていく。
<b>活動の内容</b>	<p>10月24日 「ふれあい給食会」で健康意識調査を実施</p> <p>11月25日 「史跡探訪ウォークラリー」で健康意識調査を実施</p> <p>11月26日 自治協議会役員会で健康まちづくり推進体制を協議</p> <p>12月26日 自治協議会役員会で健康意識調査を実施</p> <p>1月18日 自治協議会定例会で健康まちづくり推進体制を承認</p> <p>1月27日 「もちつき大会」で健康意識調査を実施</p>
<b>今後の予定</b>	働き盛りの世代をターゲットにした健康調査を実施し、食生活の改善を中心とした健康づくりに取り組んでいくために、PTA、親父の会、公民館青壮年部会などの交流を図り取り組んでいく。
<b>この活動に取り組んで良かった点、苦労した点等</b>	<p>何気なく活動していることが、健康づくりに繋がっていることに気づかされ、意識を持って活動するようになった。</p> <p>若い人の健康意識を高めしていく方法に一考が必要である。</p>

# 平成24年度『池田校区』の主な取り組み



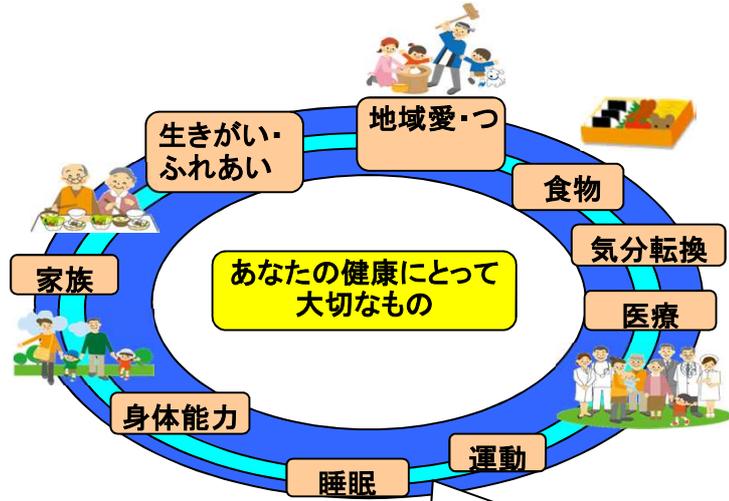
ふれあい給食会での健康意識調査



史跡探訪ウォークラリー健康意識調査

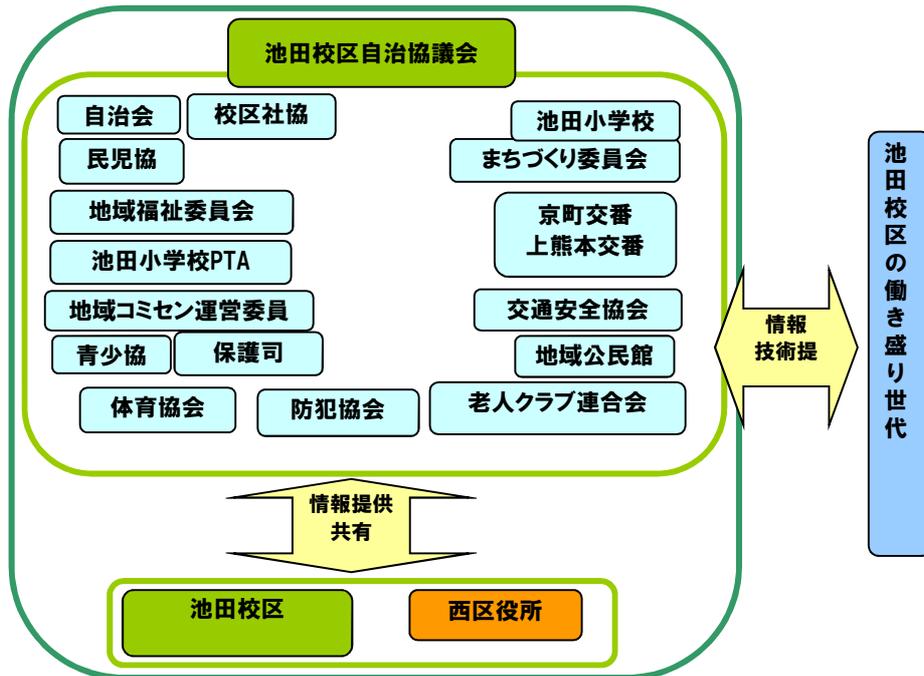


もちつき大会での健康意識調査



池田校区では「ふれあいランチ」「ふれあい給食会」等伝統行事を通して、食に関する意識が高いことや、地域とのつながりを大切にし、地域に愛情を持って暮らしていることがあらわれています。

## <組織図>



## 城西校区

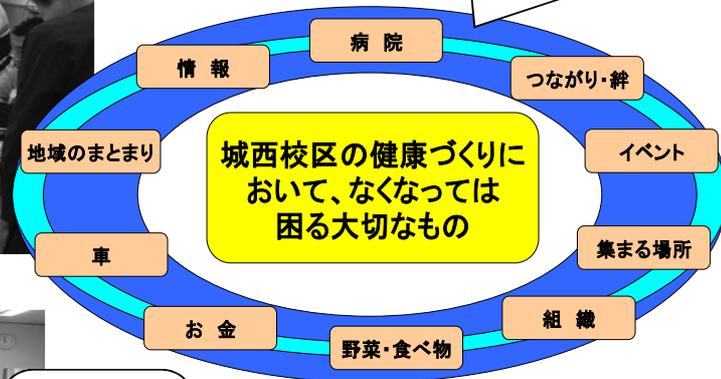
<b>名称</b>	城西校区健康まちづくり部会
<b>設置時期</b>	平成24年9月26日
<b>健康づくりの組織が立ち上がるまでの経過と思い</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度から地域ケア計画に取り組み、高齢者の見守り活動に取り組んできた。その活動の中で高齢者だけでなく若い世代への働きかけも行っていきたいとの思いを持っていたところ、行政から健康まちづくり活動についての提案がなされた。</li> <li>・対象となる働き盛りの世代は、子どもを持つ親世代でもあるという事で、構成メンバーの中に、小学校やPTA、子ども会などにも入ってもらった。</li> <li>・既存の活動を活かして健康まちづくり活動を展開していくことで、無理なく健康づくりを続けたいのではないかと思った。</li> </ul>
<b>会長</b>	仁尾 昭 (城西校区自治協議会長)
<b>構成メンバー</b>	自治連合会、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、社会体育協会、青少年健全育成協議会、子ども会連合会、まちづくり委員会、小学校、小学校PTA、西山中学校PTA、西区健康づくり部会
<b>組織の特徴</b>	自治協議会から、健康づくり部会に関係する団体を選出。
<b>活動の内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月26日に、第1回城西校区健康づくり部会を開催。健康チェックを城西小学校の音楽祭(ちはらオープンスクール)と同日に開催することが決定。</li> <li>・11月4日に健康チェックを実施。</li> <li>・11月26日に第2回城西校区健康づくり部会を開催。健康チェックを受けた人を対象に、結果説明会をする事が決定。</li> <li>・12月4日に健康チェック結果説明会と、生活実態把握のための聞き取りを実施。</li> <li>・1月22日に第3回城西校区健康づくり部会を開催。来年度の活動について、第4回の健康づくり部会で話し合うことが決定。</li> </ul>
<b>今後の予定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康チェックの参加者の事後フォロー。</li> <li>・平成25年度も健康チェックを実施。その他、平成25年度の計画については、第4回城西校区健康まちづくり部会(2月26日)で、協議を行う。</li> </ul>
<b>この活動に取り組んで良かった点、苦労した点等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康チェックと結果説明会では、小学校のイベントと合同で開催した事で参加者の満足度も高く、また生活習慣について、改善の取り組みを始めた方もおり、自身の健康状態に気づききっかけとなった。</li> <li>・健康まちづくり部会のメンバーが、健康づくりに対する高い意識を持ち、部会の中で活発な意見交換ができています。</li> </ul>

# 平成24年度『城西校区』の主な取り組み

第1回健康まちづくり部会



“城西校区の健康づくりにおいて  
なくなっては困る大切なもの”  
について意見を出し合いました。



健康チェック



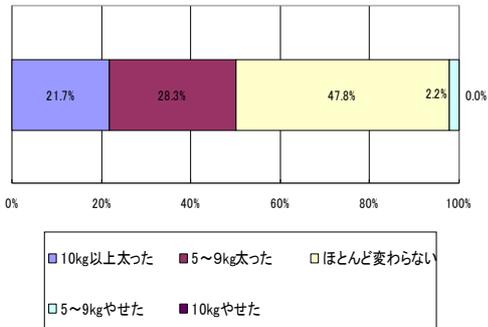
城西小学校の音楽発表会にあわせて実施し、46名の参加が得られました。

健康チェック結果説明会



参加者からは「詳しい結果の説明が聞けてよかった」との好評の声が聞かれました。

20歳の頃からの体重の変化



健康チェックを受けた人のうち、20歳代の頃より体重が5~10kg増えている人が約半数いることがわかりました。

城西校区自治協議会

城西校区健康まちづくり部会

＜組織図＞



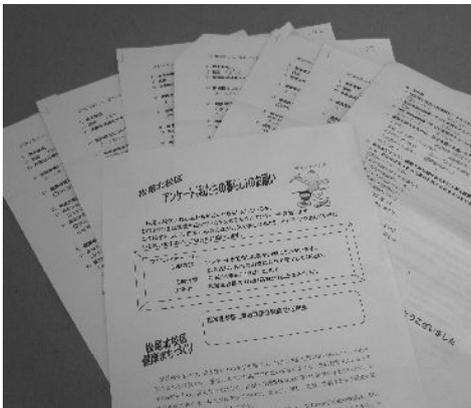
## 松尾北校区

<b>名称</b>	松尾北校区自治協議会 健康部会
<b>設置時期</b>	平成24年7月23日
<b>健康づくりの組織が立ち上がるまでの経過と思い</b>	<p>【地域の思い】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気高齢者が多く(介護認定率が低く、現役で働く高齢者が多い)、地域のつながりもあり暮らしやすいが、青壮年期の人口が少ないので今後が心配。</li> <li>・医療機関が遠いので、できるだけ病気にはならず、健康で暮らしていきたい。</li> <li>・校区内で歩く人は少なく、車での移動が中心である。</li> </ul> <p>このままでは足腰が弱くなるかも・・・。</p> <p>【行政からの支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西区役所ができて身近になった。</li> <li>・各世帯から参加する町内総会で、松尾北校区の健康について取り上げたところ、健康についての関心が見られた。</li> <li>・健診を受ける人が少ないのでは。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">市からの応援が期待できそう。</p>
<b>会長</b>	吉田 久蔵 (松尾北校区自治協議会長)
<b>構成メンバー</b>	自治協議会 健康部会 (自治協議会長、自治会長、農区長、民生委員、婦人会長、PTA女性部長、西区健康づくり部会)
<b>組織の特徴</b>	自治会の中から、健康づくりに関係する団体代表を選出
<b>活動の内容</b>	・全世帯16歳以上の住民に生活実態調査(24年9月) 回答数173名(回収率91.3%)
<b>今後の予定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治協議会健康部会開催(第2回)</li> <li>・生活実態調査結果を取りまとめ、校区住民にフィードバックし、意識の高揚を図る。</li> <li>・25年度には、特定健診と肺がん検診の同日実施を国民健康保険課に要望し、身近な校区内で声を掛けあって受診予定。</li> </ul>
<b>この活動に取り組んで良かった点、苦労した点等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き盛り世代ばかりでなく、高齢者の健康問題についても、みんなで取り組むことで考える機会となった。</li> <li>・校区のみんなが、アンケートに答えることで健康について振り返るチャンスとなった。</li> <li>・運動不足だと思っていたところが、アンケート結果で表れていたのが、今後の取り組みに活かしていきたい。</li> </ul>

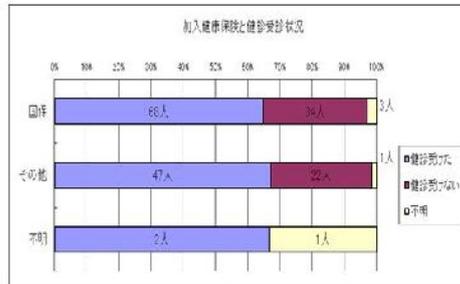
# 平成24年度『松尾北校区』の主な取り組み



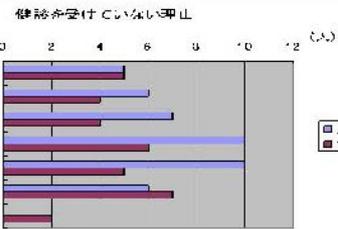
6月 町内総会にて  
松尾北の健康についてみんなで考えました。  
元気に暮らし続けるために、若い頃から  
健康づくりを考えなくては…



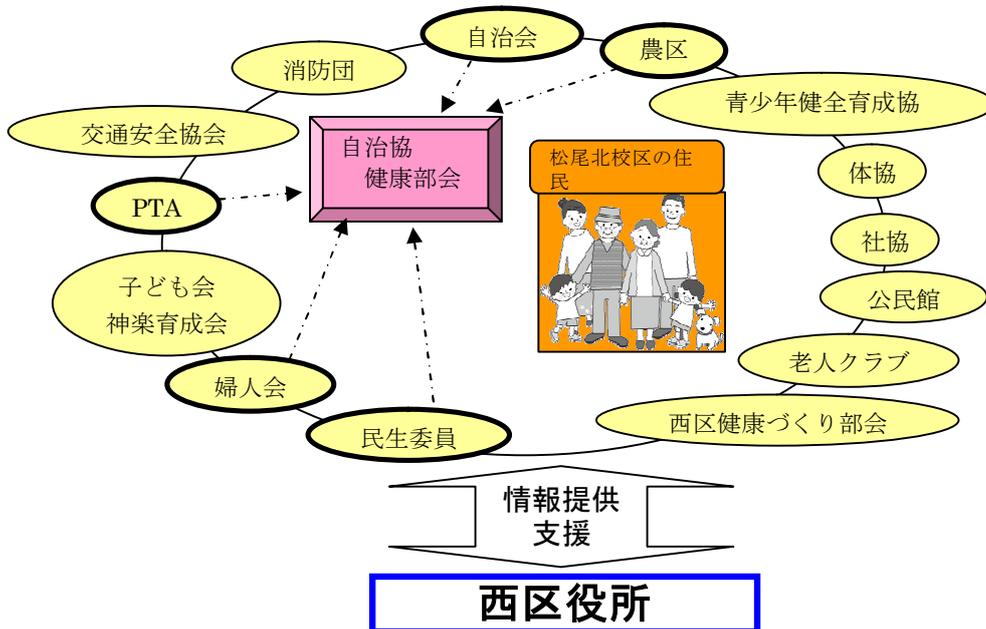
## 生活習慣病健診受診状況について



アンケートの結果、健診を受けない人は  
『必要だと思わない』『面倒だ』との回答あり。  
みんなで健診を受けるようにしたいな。



## <組織図>



## 高 橋 校 区

<b>名称</b>	高橋校区健康まちづくり部会
<b>設置時期</b>	平成24年9月16日
<b>健康づくりの組織が立ち上がるまでの経過と思い</b>	<p>【組織が立ち上がるまでの経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治協議会会長の目標に『高橋の住民が安心・安全に暮らせるまちを作りたい』という思いがあり、これまでに災害要援護者対策、自主防災活動、命のバトンなどの取り組みを行ってきた。今回の健康まちづくりもそれに通じるものがあると思った。</li> <li>・市長の言葉や市全体の動きとして始まっていくという話を聞いたとき「やらないかん」と思った。また高橋校区は人口が少ないので30～40代にも関わることができるのではないかと自信があった。</li> </ul> <p>【高橋校区定例自治協議会にて(24.9.5)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治協議会のメンバーに事業の趣旨について説明を行い周知を図った後、部会メンバーを選定し、出席依頼を行った。</li> </ul> <p>【第1回高橋校区健康まちづくり部会にて(24.9.16)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の中で校区の健康課題等について意見交換を行ったが、その中でメンバーから中学校の保護者が若くして亡くなったという話を聞き、さらに取り組みの必要性を感じた。</li> <li>・乳幼児や高齢者に対しての行政の取り組みに比べると、働き盛りに対してのものは不十分であると感じており、これからの取り組みが必要と思うとの意見も聞かれた。</li> </ul>
<b>会長</b>	鴻池 紘（高橋校区自治協議会会長）
<b>構成メンバー</b>	自治協議会、自治会、社会福祉協議会、民生委員、食生活改善推進員、社会体育協会、青少年健全育成協議会、小学校PTA、三和中学校PTA、まちづくり交流室、西区健康づくり部会
<b>組織の特徴</b>	自治協議会会長の推薦により選出
<b>目指す姿</b>	家族や仲間たちといつまでも楽しく語り合えるまち
<b>活動の内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月16日に第1回部会を開催。校区の生活実態を聞き取るアンケートを実施することが決定。</li> <li>・10月1日～15日             <ul style="list-style-type: none"> <li>①高橋小学校に通う児童がいる保護者、</li> <li>②高橋校区在住の20～60歳を対象に住民アンケートを実施。</li> </ul> </li> <li>・11月11日に第2回部会を開催。味噌汁の塩分濃度の自己チェック及び学習会を実施。</li> <li>・アンケート結果を分析・整理し、校区住民へは「高橋自治協議会だより」で報告。高橋小PTAにはチラシを配布して報告。</li> <li>・1月27日に第3回部会を開催。校区のめざす姿が『家族や仲間たちといつまでも楽しく語りあえるまち』に決まった。</li> </ul>
<b>今後の予定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主防災クラブの活動にあわせ、PI活動（健康まちづくりのPR及びインタビュー）</li> <li>○PTAと一緒に、働き盛り世代に働きかける場や内容等を検討していく。</li> <li>○24年度は、アンケート調査を行い実態がみえてきたところ。これから課題を整理し、校区の実情にあった取り組みを行っていく。</li> </ul>
<b>この活動に取り組んで良かった点、苦労した点等</b>	○校区の特徴として、住民が隣保組を通してつながりがあるので、アンケートを配布・回収したり、またその結果を自治協だよりにて報告するといった協力を得ることができた。

# 平成24年度『高橋校区』の主な取り組み

第1回健康まちづくり部会 (24.9.16)



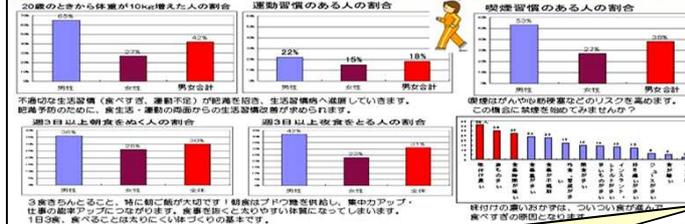
第2回健康まちづくり部会では、特定健診の結果で高血圧を持つ人が多かったので、家庭で作ったみそ汁の塩分濃度のチェックを行い、正しい塩分の摂り方についての学習会を行いました！

## 特集！高橋小PTAアンケート結果報告

### 働き盛り世代からの生活習慣改善の必要性

PTAにあたる働き盛り世代は、朝食の欠食率が高い、夜食を摂る率が高い、運動習慣者が少ない、喫煙習慣のある人が多いなどの状況があるようです。

**働き盛り世代の「今」から、生活改善を始めましょう！**  
一に運動、二に食生活、しっかりと「習慣」が第一です。



不適切な生活習慣（食べ過ぎ、運動不足）が肥満を招き、生活習慣病へ発展していきます。肥満予防のために、食生活・運動の両面からの生活習慣改善が求められます。

喫煙はがんや心筋梗塞などのリスクを高めます。この機会に禁煙を始めてみませんか？

3歳以上朝食を欠く人の割合

3歳以上夜食を欠く人の割合

3歳以上の子どもが、特に朝に飽食が大切です！朝食は脳の働きを助かし、集中力アップ、仕事の効率アップにつながります。食事を欠くと脳の働きが鈍り、集中力が低下してしまいます。1日3食、食べることは十分に大切で、健康的な生活の基盤です。

練習の多いおかげで、つらい練習が苦痛でなくなるまで、練習の回数が増え、練習の効果が上がります。

住民アンケートを実施した結果、若い世代の生活習慣が乱れ気味になっているという傾向があることが分かり、高橋小PTAと『高橋校区自治協議会だより』にて校区住民の皆様へもその結果を周知しました。

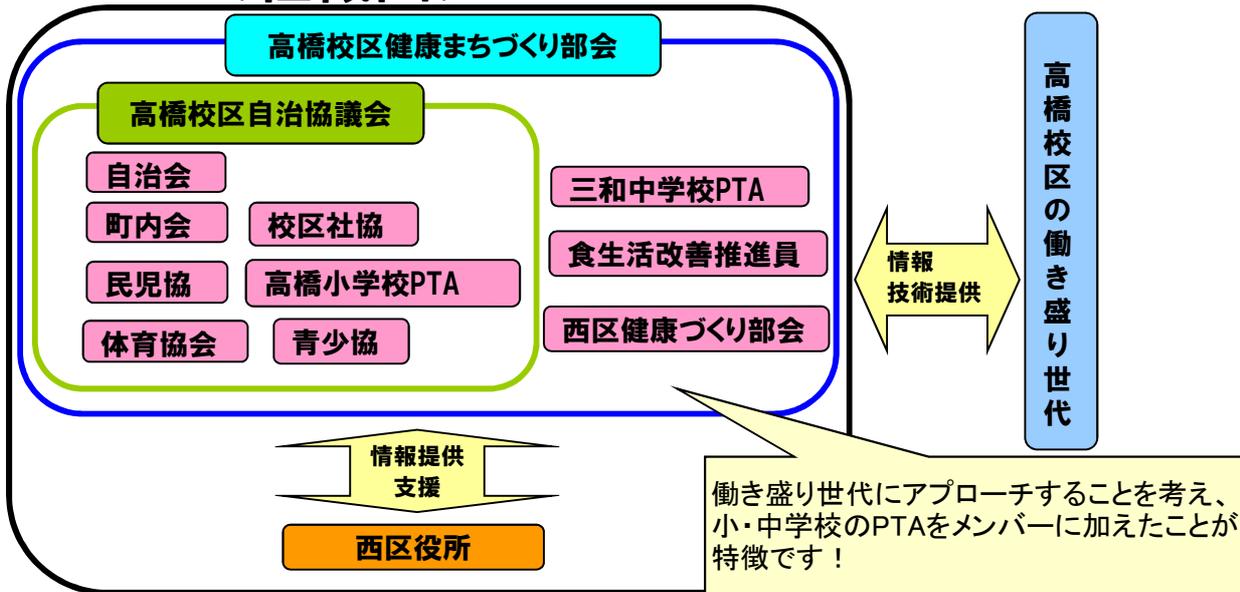
### 26号 高橋校区自治協議会だより

平成24年12月22日発行

この号では、働き盛り世代の生活習慣に関するアンケートの結果を報告し、生活習慣改善の必要性を訴えています。また、校区内の行事や活動についても紹介しています。

働き盛り世代の生活習慣に関するアンケートの結果を報告し、生活習慣改善の必要性を訴えています。また、校区内の行事や活動についても紹介しています。

## <組織図>

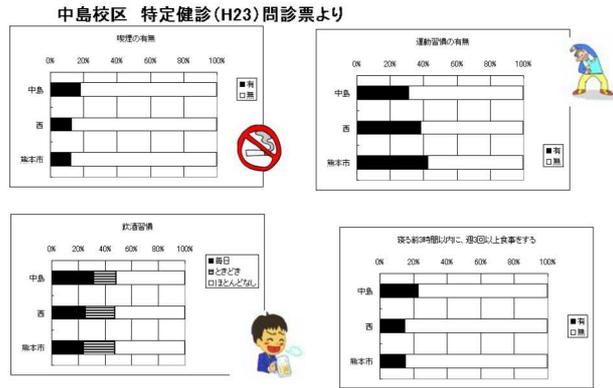


働き盛り世代にアプローチすることを考え、小・中学校のPTAをメンバーに加えたことが特徴です！

## 中 島 校 区

<b>名称</b>	中島校区健康まちづくり推進委員会
<b>設置時期</b>	平成24年10月19日
<b>健康づくりの組織が立ち上がるまでの経過と思い</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・22年度に、中島校区の活性化を目的にした住民座談会を開催。意見・要望を集約し、専門部会を設置(4部会)し、活動を展開してきた。そのうちの高齢者(成人)部会の活動に、今回の健康まちづくりを取り組むことで、活動の幅が広がると考えた。</li> <li>・健康まちづくり推進準備委員会開催 自治協各団体会長と区役所が、校区の健康状況資料等を参考に協議。(健康状態で地域の特性が出ている。)</li> <li>・健康まちづくり推進委員会開催</li> </ul>
<b>会長</b>	上妻 正勝(中島校区自治協議会長)
<b>構成メンバー</b>	まちづくり委員会、自治会連合会、社会福祉協議会、女性の会、青少年育成協議会、防犯協議会、民生委員協議会、小学校、小学校PTA、西区健康づくり部会
<b>組織の特徴</b>	自治協議会から健康づくりに関する団体を選出。 「生涯健康で、笑顔で暮らせる地域づくりを目指す」 校区女性会(旧婦人会)会員300名が地域行事に積極的参加しており、校区の宝である。
<b>活動の内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20～50歳代の女性の会家族から200名を抽出し、PTA世帯1名ずつを対象に、生活実態を知るための調査を実施(24年12月)。</li> <li>・社協研修会で、生活習慣病および認知症予防についての学習会を実施。この学習会を活用して、PI活動の1つとしてグループワークを行った(24年10月)。</li> </ul>
<b>今後の予定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康まちづくり推進委員会開催(第2回)</li> <li>・推進委員会の定例化、活性化に努め、地域と区役所の協働で取り組む。</li> <li>・短期的に成果が出るものでない、長期的な視野にたったの施策取り組み等を協議。(地域への生活習慣病予防等を含んだ情報の提供、3～5年後に再度生活実態調査実施等)</li> <li>・生活実態調査結果を取りまとめ、校区住民にフィードバックし、意識の高揚を図る。</li> </ul>
<b>この活動に取り組んで良かった点、苦勞した点等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政から示された校区の健康課題を聞く中で、校区住民の生活実態(特定健診問診票より)を知り、生活習慣の改善に取り組む必要があると考えた。</li> <li>・健康まちづくり推進委員会で、各役員同士が話し合う場所を持ったことで、校区みんなで健康を考えることができた。</li> <li>・自治協議会役員が健康づくりをしようという意識を持ち、実態調査については女性の会、PTA等のメンバーの協力を得ることができた。</li> </ul> <p>反省として…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーが、主旨や情報等収集不足で、委員会設置にあたっての十分な説明が難しかった。</li> </ul>

# 平成24年度『中島校区』の主な取り組み



中島校区の健康について考えました

中島校区でもっといきいきと暮らすために、あったらいいな！

- 緑の空間、イベント、まちづくり(健康)
- 温泉、活動拠点(施設)、自然、福祉・医療

自分が健康だと思うときは？

- 健康、理想の生活、時間に余裕、通勤の便
- 良い睡眠、病気がない、仕事ができる、スポーツ、ストレスがない
- 食事がおいしい、趣味がある、笑顔、仕事ができる
- いつでも生活ができる、稼働ができる、医療

10月19日  
『健康まちづくり推進委員会』  
を結成しました



## <組織図>







# 西区役所健康づくり部会

事務局 西区役所 保健子ども課

〒861-5292

熊本市西区小島2丁目7-1

電話 329-1147

Fax 329-1323

